

流山運動公園周辺地区 埋蔵文化財調査報告書 11

— 流山市前平井遺跡(旧石器時代編) —

令和7年3月

千葉県教育委員会

流山運動公園周辺地区 埋蔵文化財調査報告書 11

ながれやましまえひらい いせき きょうせきじだいへん

— 流山市前平井遺跡(旧石器時代編) —



序 文

いにしえより温暖な気候に恵まれた千葉県には、先人たちの生活の痕跡が埋蔵文化財包蔵地(遺跡)として数多く残されています。これらの埋蔵文化財は県民共有の財産として、地域の歴史や文化の解明に欠かすことのできない貴重なものです。

千葉県教育委員会は、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整、埋蔵文化財の調査研究・文化財保護思想の普及などを目的とした諸活動に加え、千葉県が行う開発事業にかかる発掘調査や調査成果の整理、報告書の刊行について実施しております。

本書は、千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第58集として、千葉県県土整備部による流山運動公園周辺地区土地区画整理事業に伴って実施した、流山市前平井遺跡(旧石器時代編)の発掘調査報告書です。

これまでに行われた調査では、旧石器時代の大規模な石器集中地点やナイフ形石器、尖頭器などの石器製作跡をはじめとした長期間にわたる様々な人々の営みの跡が見つかり、地域の歴史を知る上で貴重な成果を数多く得ることができました。

刊行に当たり、本書が学術資料としてだけでなく、郷土の歴史に対する理解を深めるための資料として多くの方々に広く活用されることを期待しております。

最後に、発掘調査から整理作業を通じ、地元の方々をはじめとする関係者の皆様や関係諸機関には多大な御協力をいただきました。心から感謝申し上げます。

令和7年3月

千葉県教育庁教育振興部
文化財課長 四柳 隆

凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による流山運動公園周辺地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2 本書は、下記の遺跡を取録したものである。
前平井遺跡 流山市加字東割 478 ほか (遺跡コード 220-029)
なお、本文中にも記しているが、第1次からの各調査地点の表記は、第1次は(1)のように略号で記し、遺構番号の前に各調査地点の略号を付しており、(1)～(26)の各地点の調査成果を取録している。
- 3 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、平成24年度まで公益財団法人千葉県教育振興財団が実施し、平成25年度からは千葉県教育庁教育振興部文化財課が実施した。
- 4 調査組織及び発掘調査と整理作業の期間・担当者等は、第1章に掲載した。
- 5 本書の執筆・編集は主任上席文化財主事田島 新が行った。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで以下の機関及び方々から御指導、御協力を得た。
千葉県県土整備部市街地整備課・流山区画整理事務所、流山市教育委員会
- 7 本書で使用した地図の座標値は、日本測地系にもとづく平面直角座標で、図面の方位はすべて座標北である。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第1・2・5～7・39図 流山市発行 1/2,500 流山都市計画図
第3図 国土地理院発行 1:25,000「流山」(NI-54-25-1-2)・「松戸」(NI-54-25-2-1) 平成17年発行
第4図 参謀本部陸軍部測量局作成 1/25,000 迅速測図「流山村」
第5～7図 財団法人千葉県史料研究財団編 1997『千葉県の自然誌 本編2 千葉県の大地』千葉県県
9 図版1に掲載した遺跡周辺の航空写真は下記を使用した。
国土地理院発行 昭和54年10月撮影(番号 CKT792-C11B-37)
- 10 挿図・表に使用した記号の用例は、以下のとおりである。
石器 ナイフ形石器(Kn★)、尖頭器(Po◇)、角錐状石器(Kp◇)、搔器(Es●)、削器(Ss○)、彫器(Gr○)、楔形石器(Pq△)、二次加工のある剥片(Rf●)、微細剥離痕のある剥片(Uf●)、石刃(BI▲)、石斧(Hx◇)、打製石斧(Da◇)、叩石(Hs■)、磨石(Gs■)、剥片(Fl●)、刮片(Sp●)、砕片(Ch●)、石核(Co□)、原石(GeΣ)、礫(Pe※)、礫片(Pf※)
石材 黒曜石A(ObA 高原山産□)、黒曜石B(ObB 和田峠周辺産●)、黒曜石C(ObC 麦草峠周辺産○)、黒曜石G(ObG:不明■)、ガラス質黒色安山岩(Ga◆)、トロトロ石(To◆)、流紋岩(Rh◆)、頁岩(Sh◆)、嶺岡産珪質頁岩(Ms◆)、黒色頁岩(Bs◆)、凝灰岩(Tu◆)、チャート(Ch◇)、粘板岩(SI■)、砂岩(Sa■)、玉髓(Cc★)、ホルンフェルス(Ho★)、ホルンフェルスA～E(HoA～E▲▽△▼▲)
- 11 巻末に添付したCD-ROMには石器属性表が取録されている。CD-ROMのフォーマットはWindows、Macに対応する。ファイル形式はXLS及びPDFである。

本文目次

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査の経緯と経過	1
2	調査の方法と調査概要	1
第2節	遺跡の位置と環境	5
1	地形と地質	5
2	遺跡の地理的環境	6
3	周辺の遺跡と歴史的環境	6
第2章	旧石器時代	13
第1節	遺跡の概要	13
第2節	旧石器時代の遺構と遺物	13
1	第1文化層	15
2	第2文化層	48
3	第3文化層	55
4	第4文化層	85
5	第5文化層	107
6	第6文化層	115
7	単独出土	133
第3章	総括	138

写真図版

報告書抄録

挿図目次

第1図	流山運動公園周辺地区土地区画整理事業地内遺跡	2	第1文化層	第8図	38E-Aブロック遺物分布図	19
第2図	下層確認グリッド配置・本調査範囲	3		第9図	38E-Aブロック器種別分布図(1)	20
第3図	前平井遺跡と周辺の遺跡	7		第10図	38E-Aブロック器種別分布図(2)	21
第4図	前平井遺跡と周辺の遺跡(迅速測図)	8		第11図	38E-Aブロック器種別分布図(3)	22
第5図	基本層序	14		第12図	38E-Aブロック石材別分布図(1)	23
第6図	前平井遺跡遺物分布	14		第13図	38E-Aブロック石材別分布図(2)	24
第7図	前平井遺跡文化層別ブロック分布	14		第14図	38E-Aブロック石材別分布図(3)	25

第15図	38E-Aブロック出土石器(1)……………26	第50図	41E-Aブロック器種別・石材別分布図・63
第16図	38E-Aブロック出土石器(2)……………27	第51図	41E-Aブロック出土石器……………65
第17図	38E-Aブロック出土石器(3)……………28	第52図	43E-Aブロック器種別分布図……………67
第18図	38E-Aブロック出土石器(4)……………29	第53図	43E-Aブロック石材別分布図……………68
第19図	38E-Aブロック出土石器(5)……………30	第54図	43E-Aブロック出土石器(1)……………69
第20図	38E-Aブロック出土石器(6)……………31	第55図	43E-Aブロック出土石器(2)……………70
第21図	38E-Aブロック出土石器(7)……………32	第56図	43E-Aブロック出土石器(3)……………71
第22図	38E-Aブロック出土石器(8)……………33	第57図	43E-Aブロック出土石器(4)……………72
第23図	38E-Aブロック出土石器(9)……………34	第58図	43E-Aブロック出土石器(5)……………73
第24図	38E-Aブロック出土石器(10)……………35	第59図	43E-Bブロック器種別分布図……………74
第25図	38E-Aブロック出土石器(11)……………36	第60図	43E-Bブロック石材別分布図……………75
第26図	38E-Aブロック出土石器(12)……………37	第61図	43E-Bブロック出土石器……………76
第27図	38E-Aブロック出土石器(13)……………38	第62図	43F-Aブロック器種別分布図……………78
第28図	38E-Aブロック出土石器(14)……………39	第63図	43F-Aブロック石材別分布図……………79
第29図	38E-Aブロック出土石器(15)……………40	第64図	43F-Aブロック出土石器(1)……………80
第30図	38E-Aブロック出土石器(16)……………41	第65図	43F-Aブロック出土石器(2)……………81
第31図	38E-Aブロック出土石器(17)……………42	第66図	43F-Aブロック出土石器(3)……………82
第32図	38E-Aブロック出土石器(18)……………43	第67図	44E-Aブロック出土石器……………83
第33図	38E-Aブロック出土石器(19)……………44	第68図	44E-Aブロック器種別・石材別分布図・84
第34図	38E-Aブロック出土石器(20)……………45		
第35図	47D-Aブロック出土石器……………46		
第36図	47D-Aブロック器種別・石材別分布図	47	
第2文化層			
第37図	37F-Aブロック器種別・石材別分布図・49		
第38図	37F-Aブロック出土石器……………50		
第39図	37G-Aブロック器種別・石材別分布図・51		
第40図	42G-Aブロック器種別・石材別分布図・52		
第41図	37G-Aブロック出土石器……………53		
第42図	42G-Aブロック出土石器……………53		
第3文化層			
第43図	40E-Bブロック器種別分布図……………56		
第44図	40E-Bブロック石材別分布図……………57		
第45図	40E-Bブロック出土石器(1)……………58		
第46図	40E-Bブロック出土石器(2)……………59		
第47図	40E-Bブロック出土石器(3)……………60		
第48図	40E-Cブロック器種別・石材別分布図・61		
第49図	40E-Cブロック出土石器……………62		
		第4文化層	
		第69図	39E-Aブロック器種別分布図……………86
		第70図	39E-Aブロック石材別分布図……………87
		第71図	39E-Aブロック出土石器(1)……………88
		第72図	39E-Aブロック出土石器(2)……………89
		第73図	39E-Aブロック出土石器(3)……………90
		第74図	39E-Dブロック器種別分布図……………92
		第75図	39E-Dブロック石材別分布図……………93
		第76図	39E-Dブロック出土石器……………94
		第77図	40E-Aブロック器種別分布図……………95
		第78図	40E-Aブロック石材別分布図……………96
		第79図	40E-Aブロック出土石器(1)……………97
		第80図	40E-Aブロック出土石器(2)……………98
		第81図	40E-Aブロック出土石器(3)……………99
		第82図	40E-Aブロック出土石器(4)……………100
		第83図	46D-Aブロック器種別分布図……………103
		第84図	46D-Aブロック石材別分布図……………104
		第85図	46D-Aブロック出土石器(1)……………105

第86図	46D-Aブロック出土石器(2)……………106	第99図	39E-Cブロック出土石器(3)……………124
第5文化層			
第87図	39E-B,Aブロック文化層別分布図……………108	第100図	39E-Cブロック出土石器(4)……………125
第88図	39E-Bブロック器種別分布図……………110	第101図	39E-Cブロック出土石器(5)……………126
第89図	39E-Bブロック石材別分布図……………111	第102図	39E-Cブロック出土石器(6)……………127
第90図	39E-Bブロック出土石器(1)……………112	第103図	39E-Cブロック出土石器(7)……………128
第91図	39E-Bブロック出土石器(2)……………113	第104図	39E-Cブロック出土石器(8)……………129
第92図	39E-Bブロック出土石器(3)……………114	第105図	39E-Cブロック出土石器(9)……………130
第6文化層			
第93図	39E-C,Dブロック文化層別分布図……………116	第106図	39E-Cブロック出土石器(10)……………131
第94図	39E-Cブロック器種別分布図(1)……………119	第107図	39E-Cブロック出土石器(11)……………132
第95図	39E-Cブロック器種別分布図(2)……………120	単独出土	
第96図	39E-Cブロック石材別分布図……………121	第108図	単独出土石器(1)……………134
第97図	39E-Cブロック出土石器(1)……………122	第109図	単独出土石器(2)……………135
第98図	39E-Cブロック出土石器(2)……………123	第110図	単独出土石器(3)……………136
		第111図	単独出土石器(4)……………137

表目次

第1表	前平井遺跡調査一覧……………4	第17表	40E-Cブロック母岩別石器組成表……………62
第2表	周辺の遺跡概要一覧……………9	第18表	40E-Cブロック石材別石器組成表……………62
第1文化層			
第3表	38E-Aブロック母岩別石器組成表……………17	第19表	41E-Aブロック母岩別石器組成表……………64
第4表	38E-Aブロック石材別石器組成表……………18	第20表	41E-Aブロック石材別石器組成表……………64
第5表	38E-Aブロック礫母岩別石器組成表……………18	第21表	43E-Aブロック母岩別石器組成表……………66
第6表	38E-Aブロック礫石材別石器組成表……………18	第22表	43E-Aブロック石材別石器組成表……………66
第7表	47D-Aブロック母岩別石器組成表……………48	第23表	43E-Aブロック礫母岩別石器組成表……………66
第8表	47D-Aブロック石材別石器組成表……………48	第24表	43E-Aブロック礫石材別石器組成表……………66
第2文化層			
第9表	37F-Aブロック母岩別石器組成表……………54	第25表	43E-Bブロック母岩別石器組成表……………76
第10表	37F-Aブロック石材別石器組成表……………54	第26表	43E-Bブロック石材別石器組成表……………76
第11表	37G-Aブロック母岩別石器組成表……………54	第27表	43E-Bブロック礫母岩別石器組成表……………77
第12表	37G-Aブロック石材別石器組成表……………54	第28表	43E-Bブロック礫石材別石器組成表……………77
第13表	42G-Aブロック母岩別石器組成表……………54	第29表	43F-Aブロック母岩別石器組成表……………82
第14表	42G-Aブロック石材別石器組成表……………54	第30表	43F-Aブロック石材別石器組成表……………82
第3文化層			
第15表	40E-Bブロック母岩別石器組成表……………60	第31表	44E-Aブロック母岩別石器組成表……………83
第16表	40E-Bブロック石材別石器組成表……………62	第32表	44E-Aブロック石材別石器組成表……………83
		第33表	44E-Aブロック礫母岩別石器組成表……………83
		第34表	44E-Aブロック礫石材別石器組成表……………83

第4文化層

第35表	39E-Aブロック母岩別石器組成表……89
第36表	39E-Aブロック石材別石器組成表……89
第37表	40E-Aブロック礫母岩別石器組成表……100
第38表	40E-Aブロック礫石材別石器組成表……100
第39表	40E-Aブロック母岩別石器組成表……101
第40表	40E-Aブロック石材別石器組成表……101
第41表	39E-Dブロック母岩別石器組成表……101
第42表	39E-Dブロック石材別石器組成表……101
第43表	46D-Aブロック母岩別石器組成表……102
第44表	46D-Aブロック石材別石器組成表……102
第45表	46D-Aブロック礫母岩別石器組成表……102

第46表	46D-Aブロック礫石材別石器組成表……102
------	-------------------------

第5文化層

第47表	39E-Bブロック母岩別石器組成表……109
第48表	39E-Bブロック石材別石器組成表……109
第49表	39E-Bブロック礫母岩別石器組成表……109
第50表	39E-Bブロック礫石材別石器組成表……109

第6文化層

第51表	39E-Cブロック母岩別石器組成表……117
第52表	39E-Cブロック石材別石器組成表……118
第53表	39E-Cブロック礫母岩別石器組成表……118
第54表	39E-Cブロック礫石材別石器組成表……118

図版目次

図版1	前平井遺跡周辺航空写真(昭和54年撮影)
図版2	第1・4～6文化層遺物出土状況
図版3	土層断面、第1文化層遺物出土状況(1)
図版4	第1文化層遺物出土状況(2)、第2文化層遺物出土状況、第3文化層遺物出土状況(1)
図版5	第3文化層遺物出土状況(2)、第4～6文化層遺物出土状況(1)
図版6	第4文化層遺物出土状況、単独出土状況
図版7	第1文化層出土遺物(1)
図版8	第1文化層出土遺物(2)
図版9	第1文化層出土遺物(3)
図版10	第1文化層出土遺物(4)
図版11	第2文化層出土遺物、第3文化層出土遺物(1)
図版12	第3文化層出土遺物(2)

図版13	第3文化層出土遺物(3)
図版14	第4文化層出土遺物(1)
図版15	第4文化層出土遺物(2)
図版16	第4文化層出土遺物(3)
図版17	第5文化層出土遺物
図版18	第6文化層出土遺物(1)
図版19	第6文化層出土遺物(2)
図版20	第6文化層出土遺物(3)
図版21	単独出土遺物
図版22	第1文化層出土接合資料
図版23	第3～6文化層出土接合資料
図版24	第1文化層出土遺物(5)
図版25	第1～4文化層出土遺物
図版26	第3・4文化層出土遺物
図版27	第5・6文化層出土遺物
図版28	第6文化層・単独出土遺物

【CD】

旧石器属性表

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

千葉県企業庁は、常磐新線（現・つくばエクスプレス）の建設に関連して流山運動公園周辺地区土地区画整理事業（以下、運動公園地区と略す）を計画し、事業実施に先立って「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会文書を千葉県教育委員会教育長あてに提出した。千葉県教育委員会は、事業予定地内に27か所の周知の埋蔵文化財包蔵地が存在することを確認して、その旨回答した（第1図）。

その後、両者は事業予定地内の埋蔵文化財の取扱いについて慎重な協議を重ね、現状保存及び計画変更が困難な地点については、やむを得ず記録保存の措置を講じることとした。記録保存のための発掘調査は、財団法人千葉県文化財センター（現・公益財団法人千葉県教育振興財団）が実施することとなり、千葉県企業庁との間に委託契約が締結され、平成9年度から発掘調査が開始された（平成18年度から千葉県県土整備部が区画整理事業を引き継ぐ）。

前平井遺跡は流山市加字東刺478ほか1に所在し、面積は約87,000㎡を測る（第2図）。このうち約30%にあたる67,929㎡について、平成9年度から令和2年度まで26次にわたって発掘調査を行ってきた。旧石器時代の下層確認調査については、各調査区の対象面積に対し4%程度の確認グリッドを設定し、遺物の出土と広がりや遺構などを確認した。その結果、9か所の地点の計2,504㎡が本調査となった（第2図）。それ以外の調査区についてはグリッドの拡張等により確認調査の段階で調査を終了している。

今回報告書を作成するにあたり、縄文時代以降は古代～中・近世の遺構が多数検出され、整理にある程度の時間を要することが想定されたため、旧石器時代編を先行して報告することにした。発掘調査及び整理作業に関わった各年度の担当職員、作業内容等は第1表のとおりである。

事業地内における遺跡の調査成果としては、これまでに思井堀ノ内遺跡について、中世編^①及び旧石器～奈良・平安時代編^②の2冊の報告書が財団法人千葉県教育振興財団（現・公益財団法人千葉県教育振興財団）により刊行され、思井上ノ内遺跡^③、中中屋敷遺跡^④、前平井堀米遺跡^⑤、後平井中通遺跡^⑥、市野谷宮後遺跡北側・市野谷芋久保遺跡の旧石器時代編^⑦、市野谷宮後遺跡北側・三輪野山野馬土手・市野谷芋久保遺跡の縄文時代以降編^⑧、宮後遺跡南側^⑨の報告書が千葉県教育委員会から刊行されている。本書はシリーズ11冊目となる。

整理作業は、平成19年度に公益財団法人千葉県教育振興財団が行い、さらに平成29年度から令和5年度まで千葉県教育庁教育振興部文化財課が引き継いで実施し、令和6年度に報告書刊行に至った。

2 調査の方法と調査概要

調査にあたっては、区画整理事業地内の遺跡を網羅するように、日本測地系に基づくグリッド設定を行っている。X=-14,800 m、Y=+7,600 mを起点とする40 m×40 mの方眼を大グリッドとし、北から南へ01～67、西から東へA～Z及びAA～ANとし、大グリッドはアルファベットと数字の組み合わせにより「C 02」「K 11」のように表示する。今回報告する前平井遺跡は、大グリッドで示すとD 34～H



第1表 前平井遺跡調査一覧
【発掘調査】

遺跡名	年度	事業名	調査期間	調査体制	担当者	単位：㎡					
						対象面積 (㎡)	確認面積 (㎡)		発掘面積 (㎡)		本調査 (㎡)
							上層	下層	上層	下層	
前平井 (1)	平成9	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査	H10.12.2 ～ H10.12.16	財団法人千恵塾文化財センター	北部調査事務所 調査部長 西山 太郎 所長 折原 昌	杉枝雄雄 高倉章雄・石田浩	2,446	276 / 2,446	20 / 2,446	0 / 0	
前平井 (2)	平成13	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その2)	H13.9.17 ～ H13.11.30	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 佐久間 豊 所長 田嶋 昌	土庫研究員 森本和男	3,250	386 / 3,250	72 / 3,250	1,365 / 0	
前平井 (3)	平成14	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その2)	H14.9.2 ～ H15.1.31	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 森本 勝 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠 建設員 大内千早	6,543	790 / 6,543	146 / 6,543	5,100 / 0	
前平井 (4)	平成15	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その4)	H15.4.28 ～ H15.8.19	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 森本 勝 所長 田嶋 昌	土庫研究員 柳田 誠 土庫研究員 谷登一	1,105	338 / 1,105	52 / 1,105	572 / 112	
前平井 (5)	平成16	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その4)	H16.3.26 ～ H16.6.30	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 森本 勝 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠	5,770	5,770 / 5,770	120 / 5,770	3,682 / 300	
前平井 (6)	平成16	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その2)	H16.9.1 ～ H16.9.30	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 矢戸三男 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠	4,231	4,231 / 4,231	224 / 4,231	3,049 / 0	
前平井 (7)	平成16	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その2)	H16.9.1 ～ H16.10.21	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 矢戸三男 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠	4,788	4,788 / 4,788	24 / 4,788	4,300 / 0	
前平井 (8)	平成16	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その2)	H17.1.21 ～ H17.2.28	財団法人千恵塾文化財センター	西部調査事務所 調査部長 矢戸三男 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠	800	-/-	20 / 800	800 / 0	
前平井 (9)	平成17	運動公園周辺地区埋蔵文化財発掘調査(その1)	H17.5.2 ～ H17.6.23	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 矢戸三男 所長 田嶋 昌	土庫研究員 堀田 誠	954	-/-	80 / 954	954 / 90	
前平井 (10)	平成19	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H19.12.3 ～ H20.3.21	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 矢戸三男 所長 及川淳一	土庫研究員 堀田 誠 高倉章雄・堀田 誠	7,714	775 / 7,714	116 / 5,644	4,967 / 0	
前平井 (10)	平成20	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H20.4.7 ～ H20.4.15	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 大塚正義 所長 及川淳一	土庫研究員 堀田 誠	-/-	-/-	44 / 2,100	-/-	
前平井 (11)	平成21	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H21.5.21 ～ H21.5.29	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 大塚正義 所長 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	610	60 / 610	12 / 610	271 / 0	
前平井 (12)	平成21	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H22.4.6 ～ H22.5.31	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 大塚正義 所長 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	5,433	640 / 5,433	108 / 5,433	-/-	
前平井 (12)	平成22	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H22.6.1 ～ H22.7.29	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 大塚正義 所長 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	-/-	-/-	5,433 / -	-/-	
前平井 (13)	平成23	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H23.4.29 ～ H23.5.23	財団法人千恵塾教育振興財団	西部調査事務所 調査部長 大塚正義 所長 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	900	900 / 900	20 / 900	900 / 0	
前平井 (14)	平成24	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H24.6.4 ～ H24.6.21	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,005	137 / 1,005	52 / 1,005	0 / 88	
前平井 (15)	平成27	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H27.9.1 ～ H28.2.29	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	4,673	4,673 / 4,673	144 / 3,000	1,949 / 0	
前平井 (16)	平成27	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H28.2.1 ～ H28.2.29	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	987	977 / 977	-/-	-/-	
前平井 (15)	平成28	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H28.6.1 ～ H28.6.29	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	19	19 / 19	72 / 1,092	19 / 1,309	
前平井 (16)	平成28	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H28.6.1 ～ H28.6.29	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	-/-	-/-	36 / 977	977 / 0	
前平井 (17)	平成28	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H28.12.1 ～ H28.12.28	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,375	160 / 1,375	72 / 1,375	0 / 0	
前平井 (18)	平成29	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H29.7.3 ～ H29.7.27	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	3,808	496 / 3,808	160 / 3,808	900 / 0	
前平井 (19)	平成30	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H30.7.2 ～ H30.10.31	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,826	182 / 1,826	24 / 1,826	1,826 / 0	
前平井 (20)	平成30	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H31.1.1 ～ H31.1.17	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	400	490 / 490	8 / 400	490 / 0	
前平井 (21)	平成30	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H31.1.17 ～ H31.1.30	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,801	180 / 1,801	184 / 1,801	0 / 56	
前平井 (22)	平成30	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	H31.1.31 ～ H31.3.31	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	870,900	870,900 / 870,900	52 / 870,900	260,700 / 88	
前平井 (23)	令和元	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	R22.3.23 ～ R22.3.27	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	2,384	2,384 / 2,384	-/-	-/-	
前平井 (23)	令和2	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	R26.1 ～ R26.3.31	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	-/-	-/-	76 / 2,384	2,384 / 0	
前平井 (24)	令和2	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	R25.18 ～ R25.9.3	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,915	203 / 1,915	36 / 1,915	1,221 / 0	
前平井 (25)	令和2	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	R27.2 ～ R27.2.21	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,070	1,070 / 1,070	40 / 1,070	901 / 77	
前平井 (26)	令和2	つくばエクスプレス沿線文化財調査(埋蔵文化財調査)	R29.1 ～ R212.16	公益財団法人千恵塾教育振興財団	調査部長 堀田 誠 調査員 堀田 誠	土庫研究員 堀田 誠	1,046	1,046 / 1,046	20 / 1,046	1,046 / 0	
合 計						67,929	31,842 / 66,085	2034 / 67,929	42,952 / 2,560		

【整理作業】

遺跡名	年度	事業名	期間	調査体制	担当者	作業内容
(1) + (14)	平成19 ～ 平成24	つくばエクスプレス沿線整備 委託 (環境文化財調査)ほか	—	財団法人千葉県教育振興財団ほか 内務 調査事務所 ほか	調査研究部長 矢口 勇 所長 及川 淳 ほか	—
(15) + (26)	平成29	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	日 29.4.1 ～ 日 30.3.31	公益財団法人千葉 県教育振興財団 内務 調査事務所	課長 森田 忠一 副課長 山田 貴久	主任上席文化財主事 安寿 健一
	平成30	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	日 30.4.1 ～ 日 31.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 古泉 忠志 副課長 山田 貴久	主任上席文化財主事 久本 勉 安寿 健一
	令和2	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	R2.4.1 ～ R3.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 田中 文昭 副課長 大内 千年	主任上席文化財主事 安寿 健一 文化財主事 横田 真智恵
	令和3	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	R3.4.1 ～ R4.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 田中 文昭 副課長 吉野 健一	主任上席文化財主事 安寿 健一 文化財主事 小宮 直子 村松 裕南
	令和4	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	R4.4.1 ～ R5.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 金井 吉直 副課長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 田島 新 加納 実
	令和5	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	R5.4.1 ～ R6.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 堀村 幸雄 副課長 黒沢 崇	主任上席文化財主事 田島 新 加納 実
	令和6	運動公園周辺地区土地区画整 理事業 (環境文化財調査)	R6.4.1 ～ R7.3.31	千葉県教育庁教育 振興部文化財課	課長 四柳 隆 副課長 高梨 友子	主任上席文化財主事 田島 新

34・D 35～H 35・D 36～H 36・D 37～H 37・D 38～H 38・D 39～H 39・D 40～H 40・D 41～H 41・D 42～J 42・D 43～J 43・D 44～J 44・D 45～H 45・D 46～H 46・D 47～H 47・D 48～G 48の範囲にあたる。大グリッドの中は、更に4m×4mの小グリッドに100分割し、小グリッドは北西角から東へ00、01、02…、南へ00、10、20…とし、南東角を99とする。これにより、大グリッドとの組み合わせで、たとえば「M 10 - 50」などのように小地区名を表示している（第1・2図）。

発掘調査は平成9年度から開始され、旧石器時代については、令和2年度までの第26次調査地点の合計67,929㎡の調査が終了しており、そのうち、本調査は2,504㎡である。

調査の結果、前平井遺跡ではⅡ層からⅨ層にかけて、旧石器時代の遺物集積地点（ブロック）が18か所、他に単独出土の遺物が検出されている。

第2節 遺跡の位置と環境

1 地形と地質

流山市は千葉県北西部に位置する。千葉県の地形は北部の海岸平野と南部の丘陵によって特徴づけられる。北部の海岸平野は標高100m以下と低くて平坦であり、広大な関東平野の南東部を占め北の利根川を境に茨城県と、西の江戸川を境に東京都と接する。南部の丘陵は房総半島の主体をなすもので、海拔400m弱で起伏に富み、東は太平洋、西は東京湾に面する。これらの地形は地質時代ではごく最近にできあがったものであり、この数十万年間の海面変化・地殻変動の諸作用によって生まれてきたものである。加えて最近人間活動による改変も著しく、人工地形も各所にみられる。

県北部の海岸平野は河川や海岸線付近に広がる沖積平野と、それより一段高い台地からなっている。この台地は「下総台地」と称され、日本を代表する台地である。西端にあたる流山市付近は標高20m前後であるが、東端の銚子市付近では50m、南東端の長生郡付近では100m前後となり、南東部に向けて高度を増して上総丘陵へと続いている。これは関東造盆地運動の影響により北西部へ傾斜していることによるものとされる。この下総台地は三つの段丘面に分類される。下総上位面は、約13～12万年前の世界的

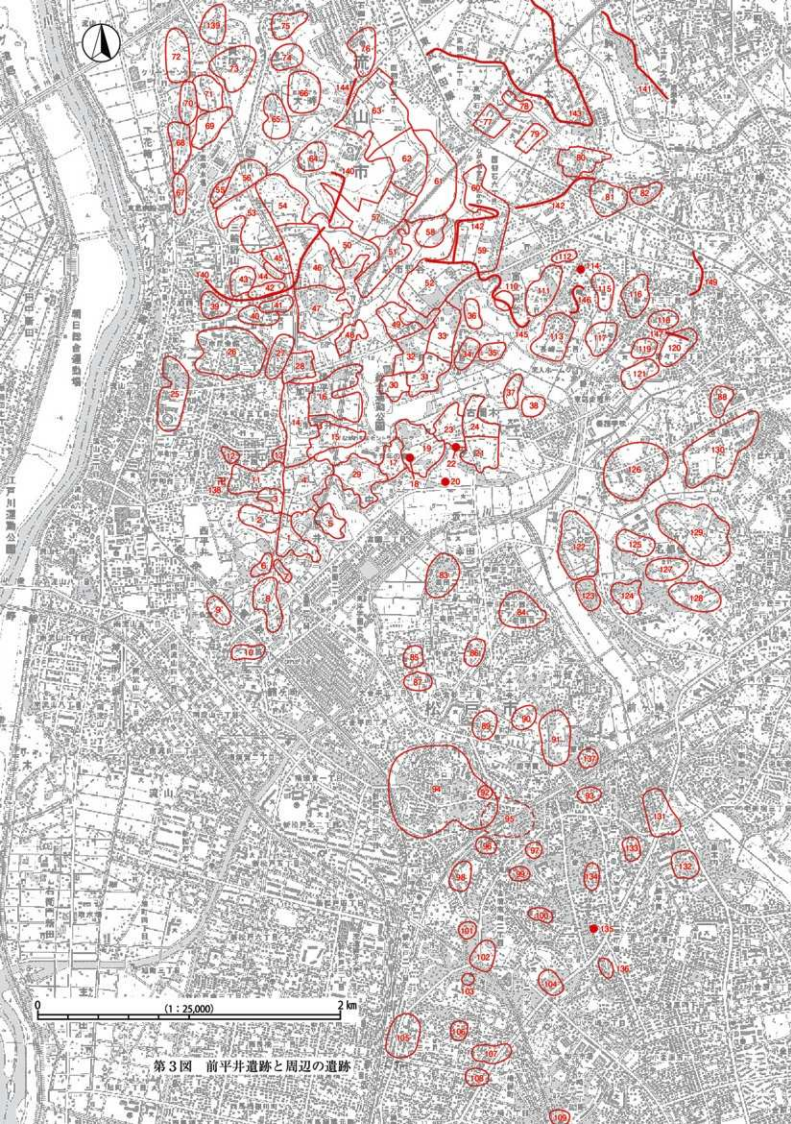
な海進期に海底で堆積した成田層が、その後の海退で陸化した海岸段丘が基になっており、直上に約11万7,000年前に噴火した箱根新期外輪山由来の三色アイス軽石層（SIP）が堆積し、その上に下末吉、武蔵野、立川の所謂関東ローム層が堆積している。下総上位面は下総台地の主体をなす段丘であるが、東葛地域では松戸以南が主であり流山ではごく一部に存在するにとどまる。下総下位面は下総上位面が陸化した後、海成層である成田層上に河川からの流入物や湿原堆積物からなる竜ヶ崎砂層もしくは常総粘土層が堆積し、約10万年前の海進期に段丘が形成された後に陸化したものである。直上には約9万年前に噴火したとされる御岳第1軽石層（Pm-1）が堆積し、その上部に下末吉（上部）、武蔵野、立川の関東ローム層が堆積する。下総下位面は下総台地では東葛北部から印旛沼周辺にかけてと、千葉以西の東京湾岸沿いに分布している。流山市も大部分がこの下総下位面上に立地しており、千葉面は下総下位面が陸化した後、河床面だった頃に砂礫層が形成され、その後河川の浸食により河岸段丘が形成されたものである。離水した後に約5万年前に噴火したとされる箱根新期外輪山由来の東京軽石層（TP）が堆積し、その上に武蔵野（上部）、立川の関東ローム層が堆積する。千葉面は手賀沼、印旛沼、千葉以西の東京湾に注ぐ河川により形成された低地（開析谷）に接する形で幅狭く分布する。流山市が面する江戸川沿いにはほとんど認められない。

2 遺跡の地理的環境

前平井遺跡（第3図・第4図）が所在する流山市は、江戸川に沿って南北に長い市域を有しており、北側で野田市、東側で柏市、南側で松戸市と接している。遺跡はこの流山市の南西部、標高235mの下総台地上に立地している。台地の西側直下には東京湾へ注ぐ江戸川が流れており、南側は松戸市との境をなす支流の坂川が流れている。遺跡の立地する台地は、東側の下総台地を開析して江戸川や坂川の流れる古東京湾沿岸に形成された広い低地へと半島状に突出す形状を呈しており、さらに両河川に注ぐ小支谷によって複雑に開析された舌状台地が連なっている。これらの舌状台地上はほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地であることが確認されており、市野宮谷後遺跡、市野谷芋久保遺跡は坂川の支流最奥部の舌状台地上に立地する。背面はやはり江戸川の支流が北から入り込んで開析谷を形成しており、当遺跡は西側の江戸川低地に面する舌状台地と、分水嶺近くの後背台地をつなぐ尾根状の地形上にあるといってもよい。遺跡の南側を流れる坂川についてみると、遺跡付近から南西へ約5.3kmの地点で江戸川へと合流する小河川であるが、沿岸の坂川低地はこの地域では最大規模の開析谷であり、東側に広がる下総台地へと複雑に深く入り込んでおり、遺跡の北東側約7.5kmにある手賀沼と、そこに注ぐ大堀川に接するような地点にまで延びている。遺跡地東側と北側の台地へと入り込む坂川の支谷と、手賀沼の北西部へと注ぐ大堀川支谷との間は分水嶺をなし、台地の幅がわずかに300m～500mである。手賀沼は利根川（古鬼怒川）、霞ヶ浦（香取海）を経て太平洋へと通じる水系にあり、その意味ではこの坂川は太平洋水系の手賀沼と東京湾を結ぶ水路のような位置にあるといえる。

3 周辺の遺跡と歴史的環境

流山市は高度経済成長期から首都圏のベッドタウンとして開発が進められ、数多くの遺跡が調査されている。それらの調査歴を全て網羅すると膨大なものとなることから、ここでは運動公園地区の事業地とその周辺を中心に、旧石器時代の代表的な調査成果を示してこの地域の歴史的環境を俯瞰したい（第3図、



第3図 前平井遺跡と周辺の遺跡

第2表 周辺の遺跡概要一覧

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	思弁堀ノ内遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後)、古墳(中)、奈良・平安、中近世	71	下花輪荒井前遺跡	縄文(中・後)、平安、近世
2	西平井根堀遺跡	縄文、中世	72	上貝塚大内遺跡	縄文(前・後)、平安
3	西平井・湯沼遺跡	縄文、中世	73	阿々谷谷間後遺跡	旧石器、縄文(前・後)、平安
4	中平ノ台遺跡	縄文、中世	74	大野山遺跡	縄文(前)、古墳、中世
5	思弁上ノ内遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後)、古墳、奈良・平安、中近世	75	西平井遺跡	縄文(前・中・後)、奈良
6	西平井大崎遺跡	縄文	76	花山遺跡	旧石器、縄文、奈良・平安
7	思弁堀の北遺跡	縄文(早・前)、古墳、近世	77	東初石六丁目遺跡	旧石器、縄文(前・後)、平安
8	跡・崎塚の墓遺跡	縄文(後)	78	上太夫第1遺跡	縄文(早・前・中・後)、平安、近世
9	跡・崎塚の墓遺跡	古墳(後)	79	東初石六丁目第1遺跡	旧石器、縄文(前・後)、晩
10	跡・崎塚の墓遺跡	古墳(後)	80	上太夫第2遺跡	縄文、近世
11	平和台遺跡	縄文(早・中・後)、平安	81	跡・崎塚の墓遺跡	縄文(前・中・後・晩)、平安
12	大塚遺跡	縄文(中)、古墳、平安、中近世	82	跡・崎塚の墓遺跡	縄文(中)
13	西平井遺跡	縄文(早)、古墳(後)、平安	83	上太夫第3遺跡	旧石器、縄文(前・中・後)、古墳
14	西平井遺跡	縄文(早)、古墳(後)、平安	84	中平ノ台遺跡	奈良(後)、古墳(前・中・後)
15	西平井堀内遺跡	古墳(後)、奈良・平安	85	道六神道遺跡	古墳(後)、奈良・平安
16	後平井中道遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、奈良・平安、中近世	86	木戸口(中平)遺跡	縄文(晩)、古墳(中)
17	古田山王第1遺跡	縄文(前)、平安	87	中平山台遺跡	縄文(後)
18	古田山王第2遺跡	古墳	88	原の山遺跡	縄文(早・前)、弥生、平安
19	古田山王第3遺跡	古墳、古墳(後)、奈良・平安	89	鞍平遺跡	縄文(後)
20	多岐第2号遺跡	古墳	90	鞍平前向遺跡	縄文(中)
21	多岐第1号遺跡	縄文(前・中)、古墳、平安	91	東平賀向遺跡	旧石器、縄文(前・中・後)、中世
22	多岐第1号遺跡	古墳	92	東平賀向遺跡	旧石器、縄文(早・前)、古墳(前・中・後)
23	古田山王第4遺跡	縄文(前・中)、平安	93	東平賀向遺跡	古墳
24	古田山王第5遺跡	縄文(中)、平安	94	大谷口小倉城跡	縄文、古墳、平安、中世
25	加村台遺跡・日本多摩陣屋跡	弥生(中)、古墳(後)、平安、近世	95	小倉城跡	古墳
26	加町遺跡	縄文、古墳、奈良・平安	96	西(小倉)北小倉遺跡	縄文(前・中・後)
27	加町第1遺跡	縄文、古墳、奈良・平安	97	西外遺跡	旧石器、縄文(中)
28	東山遺跡	縄文(前)、中世	98	細ノ上(湯の脇)遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、古墳(前・中・後)
29	中川屋敷遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、奈良・平安、中近世	99	城外(北小倉駅付近)東漸寺遺跡	縄文(前・後)
30	野々下西方遺跡	縄文(前・中)	100	山上前遺跡	縄文(前・中)
31	野々下大塚遺跡	縄文(後)、平安	101	山上前遺跡	縄文(前・中)
32	野々下大塚遺跡	縄文(前・中)	102	山上前遺跡	縄文(早・前・中)
33	野々下大塚遺跡	縄文(前・中・後・晩)	103	山上前遺跡	中世
34	野々下大塚遺跡	平安	104	山上前遺跡	縄文(後)
35	野々下大塚遺跡	縄文(後)、平安	105	山上前遺跡	縄文(中・後)、平安、近世
36	野々下大塚遺跡	縄文(前)、古墳	106	山上前遺跡	中世
37	古田山王第6遺跡	縄文(前・後)	107	山上前遺跡	弥生(後)
38	古田山王第7遺跡	縄文(後)、晩	108	山上前遺跡	縄文(早・前・後)、弥生(後)
39	加北谷津遺跡	縄文、古墳、平安	109	山上前遺跡	古墳(後)
40	加北谷津第1遺跡	旧石器、縄文、平安	110	山上前遺跡	縄文(前)
41	加北谷津第2遺跡	縄文、平安	111	山上前遺跡	縄文(中)、古墳(中・後)
42	三輪野山八幡宮遺跡	縄文(早)、平安	112	山上前遺跡	縄文(中・後)
43	三輪野山八幡宮遺跡	縄文(早)、平安	113	山上前遺跡	縄文(中・後)
44	三輪野山八幡宮遺跡	縄文(後)、晩	114	山上前遺跡	縄文(中・後)
45	三輪野山八幡宮遺跡	旧石器、縄文(前・中・後・晩)	115	山上前遺跡	縄文(中・後)
46	三輪野山八幡宮遺跡	縄文、古墳、平安、近世	116	山上前遺跡	古墳
47	市野谷内第1遺跡	古墳(後)、平安	117	山上前遺跡	縄文(前・中)、平安
48	市野谷内第2遺跡	縄文	118	山上前遺跡	縄文(早・前・中・後)
49	市野谷内第3遺跡	縄文(前・中)、古墳(中・後)	119	山上前遺跡	古墳
50	市野谷内第4遺跡	縄文	120	山上前遺跡	縄文(早・前・中・後)
51	市野谷中島遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、奈良・平安、近世	121	山上前遺跡	縄文(中)
52	市野谷山道遺跡	旧石器、縄文(前・中・後・晩)、古墳(中・後)、平安、中近世	122	山上前遺跡	縄文(中・後)、平安
53	三輪野山六神道遺跡	縄文(前)、古墳、平安、中近世	123	山上前遺跡	中世
54	三輪野山六神道遺跡	縄文(前)、古墳(後)、平安、近世	124	山上前遺跡	縄文(前)
55	三輪野山六神道遺跡	縄文、古墳(後)、平安、近世	125	山上前遺跡	中世
56	三輪野山北遺跡	旧石器、縄文(早・前・後)、古墳、平安、近世	126	山上前遺跡	縄文(前)、平安、近世
57	市野谷平久保遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、中世	127	山上前遺跡	縄文(前・中)、平安
58	市野谷二反田遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、古墳(前・後)、奈良・平安、中近世	128	山上前遺跡	縄文(中)
59	市野谷立野遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、古墳(後)、奈良	129	山上前遺跡	縄文(中)
60	大久保遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、奈良、近世	130	山上前遺跡	縄文(中)
61	市野谷入道遺跡	旧石器、縄文(前・中・後・晩)、古墳(前・中)、奈良、中近世	131	山上前遺跡	中世
62	市野谷宮尻遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、古墳(後)、奈良・平安	132	山上前遺跡	縄文(早・前・中・後)、中近世
63	西初石五丁目遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、古墳(前)、奈良・平安、近世	133	山上前遺跡	縄文(早・前・中・後)、古墳(中・後)、中世
64	三輪野山山頂古墳	縄文(前)、弥生、古墳(前)	134	山上前遺跡	古墳
65	大野山遺跡	縄文(中)、弥生、古墳(後)、平安	135	山上前遺跡	古墳
66	大野山ノ遺跡	縄文(早・前・中)、平安	136	山上前遺跡	古墳
67	花輪城跡	中世	137	山上前遺跡	古墳
68	下花輪林下遺跡	縄文(後)、古墳(後)	138	山上前遺跡	古墳
69	下花輪荒井前遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後)、弥生、古墳、奈良・平安、中近世	139	山上前遺跡	古墳
70	下花輪西山遺跡	縄文、奈良、中世	140	山上前遺跡	古墳
			141	山上前遺跡	古墳
			142	山上前遺跡	古墳
			143	山上前遺跡	古墳
			144	山上前遺跡	古墳
			145	山上前遺跡	古墳
			146	山上前遺跡	古墳
			147	山上前遺跡	古墳

第2表)。ただし運動公園地区の発掘調査は未だ継続中であり未報告資料も多いため、公表されている成果に基づいたものである。

流山市内の旧石器時代の遺跡は近年、運動公園地区及び隣接する流山新市街地地区土地区画整理事業地区内（以下、新市街地地区と略す）において著しく資料が増加している。思井堀ノ内遺跡（5）⁽²⁾、思井上ノ内遺跡（16）⁽³⁾、中屋敷遺跡（29）⁽⁴⁾、前平井堀米遺跡（15）⁽⁵⁾、後平井中通遺跡（16）⁽⁶⁾、三輪野山北浦（旧三輪野山第Ⅱ）遺跡（56）⁽¹⁰⁻²⁰⁾、上貝塚貝塚（139）⁽¹⁰⁾、西初石五丁目遺跡（63）⁽¹¹⁻¹⁵⁻¹⁶⁻¹⁸⁻¹⁹⁾、市野谷入台遺跡（61）⁽¹²⁻¹⁵⁾、市野谷二反田遺跡（58）⁽¹³⁾、大久保遺跡（60）⁽¹⁴⁻¹⁸⁾、市野谷向山遺跡（52）⁽¹⁴⁻¹⁵⁻¹⁷⁻¹⁹⁾、東初石六丁目第Ⅰ遺跡（79）⁽¹⁴⁾、東初石六丁目第Ⅱ遺跡（77）⁽¹⁴⁾、市野谷中島遺跡（51）⁽¹⁵⁻¹⁷⁻¹⁸⁾、市野谷芋久保遺跡（57）⁽¹⁸⁾、市野谷立野遺跡（5）⁽¹⁶⁻¹⁷⁻¹⁸⁻¹⁹⁾、地図の外になるが十太夫第Ⅱ遺跡⁽¹⁴⁾、桐ヶ谷新田第Ⅰ遺跡、中野久木遺跡、若葉台遺跡、桐ヶ谷南割（上貝塚遺跡）などで石器群が検出されている。思井堀ノ内遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて11ブロック、思井上ノ内遺跡ではⅣ層からⅩ層にかけて3ブロック、中屋敷遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて4ブロック・単独出土8か所、前平井堀米遺跡ではⅥ層からⅩ層にかけて2ブロック（内1ブロックは礫群）・単独出土4か所、後平井中通遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて5ブロック・単独出土10か所、三輪野山北浦（旧三輪野山第Ⅱ）遺跡ではⅢ層からⅦ層にかけて6ブロック、上貝塚貝塚ではⅢ層で1ブロック・単独出土6か所、市野谷入台遺跡ではⅢ層からⅦ層にかけて26ブロック・単独出土48か所、市野谷二反田遺跡ではⅣ層からⅩ層にかけて12ブロック、西初石五丁目遺跡ではⅣ層～Ⅶ層とⅩ層で6ブロック・単独出土12か所、大久保遺跡ではⅢ層～Ⅳ層とⅩ層で44ブロック、市野谷向山遺跡ではⅣ層からⅩ層にかけて22ブロック・単独出土5か所、東初石六丁目第Ⅰ遺跡ではⅣ層からⅦ層にかけて3ブロック・単独出土1か所、東初石六丁目第Ⅱ遺跡ではⅣ層からⅦ層にかけて5ブロック、十太夫第Ⅱ遺跡ではⅥ層で1ブロック、市野谷中島遺跡ではⅣ層からⅦ層にかけて1ブロック・単独出土1か所、市野谷芋久保遺跡ではⅢ層からⅩ層にかけて46ブロック・単独出土10か所、市野谷立野遺跡ではⅢ層からⅦ層にかけて5ブロック・単独出土20か所がそれぞれ調査されている。その他、上層遺構の覆土中からの遺物出土事例は数多く報告されている。当地域の旧石器時代の特徴として北関東産の石材が多用される点が挙げられるが、それ以外の周辺の石材も搬入されており、下総台地北西部の結節点としての特徴を表している。

注

- 1 （財）千葉県教育振興財団 2006『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書1－流山市思井堀ノ内遺跡（中世編）－』千葉県教育振興財団調査報告第549集
- 2 （財）千葉県教育振興財団 2010『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書2－流山市思井堀ノ内遺跡（旧石器～奈良・平安時代編）－』千葉県教育振興財団調査報告第635集
- 3 千葉県教育委員会 2016『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書3－流山市思井上ノ内遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第11集
- 4 千葉県教育委員会 2017『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書4－流山市中屋敷遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第20集
- 5 千葉県教育委員会 2020『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書5－流山市前平井堀米遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第34集

- 6 千葉県教育委員会 2021『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書6－流山市後平井中通遺跡－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第37集
- 7 千葉県教育委員会 2022『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書7－流山市市野谷宮後遺跡(北側)・市野谷芋久保遺跡(14)(旧石器時代編)－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第41集
- 8 千葉県教育委員会 2023『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書8－流山市市野谷宮後遺跡(北側)・三輪野山野馬土手・市野谷芋久保遺跡(14)(縄文時代以降編)－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第44集
- 9 千葉県教育委員会 2024『流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書9－流山市市野谷宮後遺跡(南側)－』千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第50集
- 10 (財)千葉県文化財センター 1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書－流山市南割遺跡・上貝塚第Ⅱ遺跡・上貝塚第Ⅰ遺跡・上貝塚貝塚・下花輪第Ⅲ遺跡・三輪野山第Ⅱ遺跡－』千葉県文化財センター調査報告第276集
 なお、この報告書に掲載されている三輪野山第Ⅱ遺跡の調査範囲は、現在の三輪野山北浦遺跡と三輪野山道六神遺跡の2遺跡にまたがっている。また、下花輪第Ⅲ遺跡は現在桐ヶ谷浅間後遺跡と呼称されている。
- 11 (財)千葉県教育振興財団 2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書2－流山市西初石五丁目遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第596集
- 12 (財)千葉県教育振興財団 2008『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書3－流山市市野谷82入台遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第606集
- 13 (財)千葉県教育振興財団 2009『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書4－流山市市野谷二反田遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第629集
- 14 (公財)千葉県教育振興財団 2011『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書5－流山市大久保遺跡(下層)・市野谷向山遺跡(下層)・東初石六丁目第Ⅰ遺跡(下層)・東初石六丁目第Ⅱ遺跡・十太夫第Ⅱ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第670集
- 15 (公財)千葉県教育振興財団 2013『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書6－流山市市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷入台遺跡・西初石五丁目遺跡－旧石器時代編』千葉県教育振興財団調査報告第706集
- 16 (公財)千葉県教育振興財団 2015『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書7－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡(上層)・市野谷向山遺跡(上層)・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)・西初石五丁目遺跡・東初石六丁目第Ⅰ遺跡(上層)・十太夫第Ⅰ遺跡・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第735集
- 17 (公財)千葉県教育振興財団 2016『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書8－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(上層)・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第748集
- 18 (公財)千葉県教育振興財団 2017『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書10－流山市市野谷芋久保遺跡・市野谷中島遺跡・市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・大久保遺跡(下層)・西初石五丁目遺跡・十太夫第Ⅲ遺跡－』千葉県教育振興財団調査報告第769集

- 19 (公財)千葉県教育振興財団 2019『流山新市街地地区埋蔵文化財調査報告書 11 - 流山市市野谷向山遺跡・市野谷立野遺跡・西初石五丁目遺跡・市野谷駒木野馬土手・十太夫野馬土手-』千葉県教育振興財団調査報告第 779 集
- 20 流山市教育委員会 2015『流山市三輪野山遺跡群発掘調査概要報告書』

上記以外の関連文献

- (財)千葉県史料研究財団編 1997『千葉県の自然誌 本編 2 千葉県の大地』千葉県
- (財)千葉県文化財センター 1986『常磐自動車道埋蔵文化財調査報告書 V - 谷・上貝塚・若葉台・塚 (1)・(2)・馬土手 (1)・(2)・(3) -』千葉県文化財センター調査報告第 113 集
- (財)千葉県文化財センター 1994『流山市上新宿貝塚発掘調査報告書』
- 千葉県教育委員会 1995『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書 I - 旧下総国地域 -』
- 流山市立博物館市史編さん係編 2001『流山市史 通史編 I』流山市教育委員会
- 流山市立博物館編 2015『ふるさと流山のあゆみ』流山市教育委員会
- 流山市思井鷹の見遺跡発掘調査団 1978『流山市思井鷹の見遺跡発掘調査報告書』流山市郷土資料館
- (公財)千葉県教育振興財団 2023『流山新市街地地区の遺跡展 - 台地より出でし先人の足跡 - 図録』

第2章 旧石器時代

第1節 遺跡の概要

旧石器時代の調査では、平成15年度、平成17年度、平成24年度、平成28年度、平成30年度、令和2年度に実施した8回の調査（前平井遺跡（4）・（5）・（9）・（14）・（15）・2・（21）・（22）・（25））において、18か所の遺物集中地点（ブロック）が検出された。

本遺跡で検出されたブロックは、石器群の内容や出土層位などから6枚の文化層に区分した。第1文化層は第2黒色帯上部のⅦ層下部～Ⅸ層上部、第2文化層はⅥ層～Ⅶ層、第3文化層はⅣ層下部、第4文化層はⅣ層の砂川期、第5文化層はⅣ層の東内野型尖頭器石器群、第6文化層はⅢ層の土器出現期の尖頭器石器群である。

第2節 旧石器時代の遺構と遺物

基本層序 本遺跡の立川ローム層序は第5図のとおりである。

Ⅲ層 明黄褐色ローム土。軟質。ソフト化したハードロームを含む。

Ⅳ～Ⅴ層 黄褐色ローム土。硬質。大部分は第1暗色帯に相当する。Ⅳ層はソフト化しⅢ層に取り込まれたところが多い。

Ⅵ層 明褐色ローム土。硬質。AT（始良丹沢火山灰）がブロック状に含まれる。ソフト化が進みⅢ層のクラックがⅥ層まで到達するところがある。黒色スコリアを含む。

Ⅶ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯上部に相当する。黒色・橙色スコリアを含む。

Ⅷ層 暗黄褐色ローム土。硬質。第2暗色帯下部に相当する。黒色・赤色・橙色スコリアを含む。

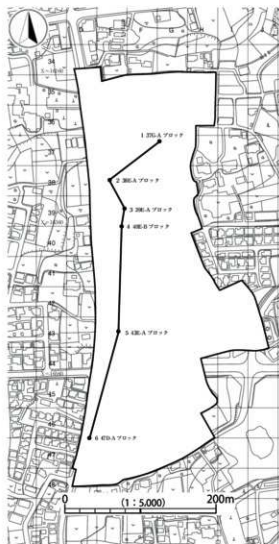
Ⅸ層 黄褐色ローム土。硬質。Ⅷ層より軟化する。乳白色スコリアを含む。

文化層概要 出土層位と石器群の様相から6枚の文化層を設定した。第1・2文化層はA T下位の後期旧石器時代前半期石器群、第3～6文化層はA T上位の後半期及び土器出現期の石器群である。このうちA T上位の後半期石器群は、概ね立川ロームⅢ層を中心にⅤ層からⅢ層にかけて包含されている。しかしながら本地域ではこれらを出土層位で区分することが難しく、特に第4～6文化層については、本遺跡においても石器群の出土層位に明らかな差は認められなかったが、石器群の様相からは時期差が認められたことから、文化層を設定した。

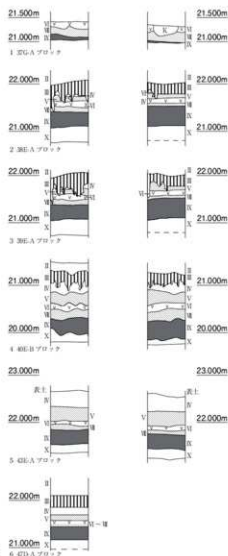
石器群は、遺跡のほぼ全体に分布しているが、特に北側では今回の調査では主体となるA Tを挟んで上位と下位の石器群がみつかり、第1文化層の複数のブロック群で形成される遺物集中地点や第3～6文化層などの石器群が検出されている。また、中央部では北側でもみつかり、第3文化層の石器群が多く検出されている（第6・7図）。

6枚の文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 第2黒色帯中部から上部のⅨ層～Ⅶ層を中心に出土している。定型的な石器に乏しく、加工痕ある剥片や微細な剝離痕のある剥片、不定形な剥片などを主体とする石器群である。石器282点、礫



第5図 基本層序



第6図 前平井遺跡遺物分布



第7図 前平井遺跡文化層別ブロック分布

12点、総計294点が出土し、2か所の集中地点で構成される。北側と南側に分布するが、北側のブロックが主体で、複数の石器集中による大規模なブロックが形成されている。

第2文化層 Ⅷ層～Ⅵ層から出土した石器群である。石器18点が出土し、3か所の集中地点で構成される。最北部に2か所と中央部西側に1か所分布している。石刃を主体とする時期ではあるが、石器群の内容的には乏しく、規模的にも小規模である。

第3文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。石器302点、礫57点、総計359点が出土し、本遺跡では最も多い7か所の集中地点で構成される。北側に3か所と中央部に4か所まとまって分布している。

第4文化層 Ⅴ層～Ⅲ層下部から出土しており、二側縁加工のナイフ形石器や上ゲ屋型彫器を特徴とする砂川期の石器群である。石器165点、礫6点、総計171点が出土し、4か所の集中地点で構成される。3か所は北側にまとまっているが、1か所南側に分布している。

第5文化層 Ⅲ層上部から出土しており、東内野型の有樋尖頭器を特徴とする。石器180点、礫21点、総計201点が出土し、1か所の集中地点で構成される。第4文化層の39E-Aブロックと重複しており、北側に分布している。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、比較的大形の尖頭器を特徴とする土器出現期の石器群である。石器213点、礫3点、総計216点が出土し、1か所の集中地点で構成される。第4文化層の39E-Dブロックと重複しており、北側に分布している。

単独出土 トレンチや縄文時代以降の遺構などから出土した旧石器時代の石器やグリッド単独で出土した石器で、総計26点が出土している。石斧など第1文化層よりも古い時期の石器があり、厳密にはこれらの資料が前平井遺跡最古の石器である。

1 第1文化層

第1文化層の石器群は、石器282点、礫12点、総計294点の石器・礫が出土し、広範囲に複数の石器集中で構成される。第2黒色帯のⅧ層下部～Ⅳ層上部の石器群と推定される。垂直分布は概ねⅧ層付近にまとまる。単独出土の石器を除くと本遺跡では最古の文化層である。ブロック間接合はない。

第1文化層の石器器種は、ナイフ形石器・楔形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・敲石・剥片・砕片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・黒色頁岩・嶺岡産珪質頁岩・凝灰岩・砂岩・チャート・ホルンフェルスの10種類で、チャートが主体である。

1 38E-Aブロック（第8～34図、第3～6表、図版2・3・7～10・22・24）

遺跡の中央部側、38E-23・24・33～36・41～46・51～57・62・64～66・72～76・82～84グリッドに分布する。24.8m×22.0mの範囲から石器276点、礫12点、総計288点が出土した。出土層位はⅣ・Ⅴ層～Ⅳ層で、0.51mの高低差をもってⅧ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・楔形石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・敲石・剥片・砕片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・黒色頁岩・凝灰岩・チャート・ホルンフェルスで構成され、チャートが主体である。

1～7は同一母岩(38E-23)のチャートで、1(接合資料38E-23A)は不定形な剥片2点の接合資料である。2・3ともに背面に多方向の剥離痕がみられる。4は微細剥離痕のある剥片で末端が尖る不定形な剥片の表面末端及び裏面右側縁上部に微細剥離痕がみられる。5～7は剥片で、5・6は縦長剥片、7は末端を欠損する大型の剥片である。8・9は同一母岩(38E-24)のチャートで、8は比較的大型で不定形な剥片の右側縁下半部に細かい調整加工が行われている。末端の一部は微細な剥離痕か。9は縦長剥片である。10(接合資料38E-29A)はチャートの剥片と石核の接合資料である。比較的小型の円礫を素材として、打面と作業面を頻繁に入れ替えながら、11のような不定形な剥片を剥離している。13(接合資料38E-30A)はチャートの剥片と石核の接合資料である。10同様、比較的小型の円礫を素材として、打面と作業面を頻繁に入れ替えながら、14のような不定形な剥片を剥離している。16(接合資料38E-31A)はチャートの剥片と石核の接合資料である。比較的大型の角礫から剥離(分割)された厚みのある剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら、17のような不定形な剥片や縦長剥片を剥離している。19(接合資料38E-32A)はチャートの剥片2点と石核1点の接合資料である。石刃の打面側の折断面を打面として20・21のような小型で不定形な剥片を剥離している。23(接合資料38E-34A)はチャートの剥片3点(2個体)の接合資料である。24・25のような不定形な剥片や縦長剥片を剥離している。26・27・31～37はチャートの剥片である。26・32～35は縦長、37は横長、27・31・36は不定形である。28～30はチャートの微細剥離痕のある剥片で、28は石刃状の縦長剥片の表面右側縁上半部及び裏面左側縁上半部、29は不定形な剥片の末端、30は石刃状の縦長剥片の表面右側縁及び裏面左側縁に微細な剥離痕がみられる。

38はチャートの二次加工のある剥片で、不定形な剥片の周縁に直角に近い調整加工を行っている。台形礫石器の可能性もある。40はチャートの楔形石器で、厚めの素材の上下両端に対向する剥離痕がみられる。39・41～46はチャートの石核である。39は両極石核あるいは楔形石器の左側縁から求心的な剥離を行っている。41・42は上下両端の打面から剥離を行っている。43は厚めの剥片の主要剥離面を打面として、上部と右側面で剥離を行っている。44・45は大きく剥離(分割)した剥片を素材として、打面と作業面を2入れ替えながら剥離を行っている。46は角礫を素材として、打面と作業面を入れ替えながら剥離を行っている。

47(接合資料38E-6A)は黒色頁岩の微細剥離痕のある剥片と剥片の接合資料である。48は石刃状の縦長剥片の右側縁下半部に微細な剥離痕がみられる。49は縦長剥片である。51～54は同一母岩(38E-8)の黒色頁岩である。51はナイフ形石器で、下半部を欠損しているが、側縁加工と思われる。横長剥片を横位に用い、右側縁に両面から急角度の調整加工を行っている。52(接合資料38E-8A)は剥片と石核の接合資料である。剥片を素材として、両面で求心的な剥離により、53のような不定形な剥片を剥離している。55・56は黒色頁岩の剥片で、55は横長、56は不定形である。57は黒色頁岩の石核である。分割された折断面を打面として、剥離を行っている。

58～65は同一母岩(38E-2)の凝灰岩で、58(接合資料38E-2A)は剥片と石核の3点(2個体)の接合資料である。59は剥片を素材とした石核で、求心的な剥離により、60のような不定形な剥片を剥離している。61(接合資料38E-2B)は石核2点(1個体)の接合資料である。大型の剥片を素材とし、求心的な剥離により不定形な剥片を剥離している。62(接合資料38E-2C)は微細剥離痕のある剥片2点の接合資料である。両者とも横長剥片で、63は裏面左側末端、64は表面末端に微細な剥離痕がみら

第3表 38E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
38E-1	Tu															7		1			8	26.01
38E-2	Tu										3					5			4		12	170.48
38E-3	Tu															4					4	21.02
38E-4	Tu															5		1			6	77.9
38E-5	Tu															1					1	28.43
38E-6	Bs										2					1					3	37.97
38E-7	Bs															2			1		3	47.54
38E-8	Bs	1														2			1		4	44.56
38E-9	Bs															1					1	11.24
38E-10	Bs															1					1	20.29
38E-11	Bs															1					1	6.35
38E-12	Ho															16		1			17	74.53
38E-13	Ho															7			1		8	96.44
38E-14	Ho															1					1	70.1
38E-15	Ho								1							1					2	77.27
38E-16	Ho															1					1	7.53
38E-17	Rh															2					2	19.64
38E-18	To													1							1	128.44
38E-19	Ga															2					2	38.78
38E-20	Ga															6					6	38.36
38E-21	Ga															1					1	8.54
38E-22	Ga															1					1	4.53
38E-23	Ch								1		1					20					22	165.9
38E-24	Ch									1						10					11	108.01
38E-25	Ch															3					3	45.72
38E-26	Ch															2			2		4	40.99
38E-27	Ch															1		1			2	90.64
38E-28	Ch															2					2	20.46
38E-29	Ch															1			1		2	27.25
38E-30	Ch															3		1			4	33.49
38E-31	Ch															2		1			3	61.59
38E-32	Ch															2			3		5	64.42
38E-33	Ch															1			1		2	37.03
38E-34	Ch															7					7	68.5
38E-35	Ch															1					1	8.25
38E-36	Ch															1					1	1.28
38E-37	Ch																		1		1	15.44
38E-38	Ch										1										1	7.48
38E-39	Ch										1										1	7.14
38E-40	Ch															1					1	16.82
38E-41	Ch										1										1	7.37
38E-42	Ch															1					1	6.35
38E-43	Ch															1					1	16.57
38E-44	Ch															1					1	8.8
38E-45	Ch															1					1	6.65
38E-46	Ch															1					1	3.25
38E-47	Ch															1					1	6.18
38E-48	Ch															1					1	6.71
38E-49	Ch																		1		1	12.5
38E-50	Ch															1					1	3.63
38E-51	Ch															1					1	5.17
38E-52	Ch															1					1	17.39
38E-53	Ch																		1		1	40.9
38E-54	Ch															1					1	40.28
38E-55	Ch																			1	1	100.74
38E-56	Ch																		1		1	26.84

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
38E-57	Ch																		1	1	16.69	
38E-58	Ch								1											1	16.22	
38E-59	Ch																		1	1	20.1	
38E-60	Ho																		1	1	305.4	
38E-62	Sa									1										1	318.45	
その他Ch	Ch								1	1						71		4	3	80	128.63	
その他Ho	Ho															6				6	3.95	
その他Ga	Ga															3				3	10.18	
その他Bs	Bs															5				5	13.69	
その他To	To															2				2	2.42	
その他ObC	ObC									1										1	1.07	
合 計		1							4	4	9			1		222		4	28	277	3022.49	

第4表 38E-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石C	ObC									1											1	1.07
ガラス質 黒色安山岩	Ga															13					13	100.39
トロトロ石	To													1		2					3	130.86
流紋岩	Rh															2					2	19.64
黒色頁岩	Bs	1									2					12			2		17	181.64
凝灰岩	Tu										3					22		2	4		31	323.84
砂岩	Sa									1											1	318.45
チャート	Ch								3	2	4					139		4	20		172	1311.38
ホルンフェ ルス	Ho								1							32		1	2		36	635.22
合 計		1							4	4	9			1		222		7	28		277	3022.49

第5表 38E-Aブロック礫母岩別石器組成表

母岩番号	石材	個数	重量 (g)
38ER-1	Ch	8	165.54
38ER-2	Sh	2	110.28
38ER-3	Sh	2	104.83
合 計		12	380.65

第6表 38E-Aブロック礫石材別石器組成表

石材	石材	個数	重量 (g)
頁岩	Sh	4	215.11
チャート	Ch	8	165.54
合 計		12	380.65



第9・12図

第10・13図



第11・14図



22,000m

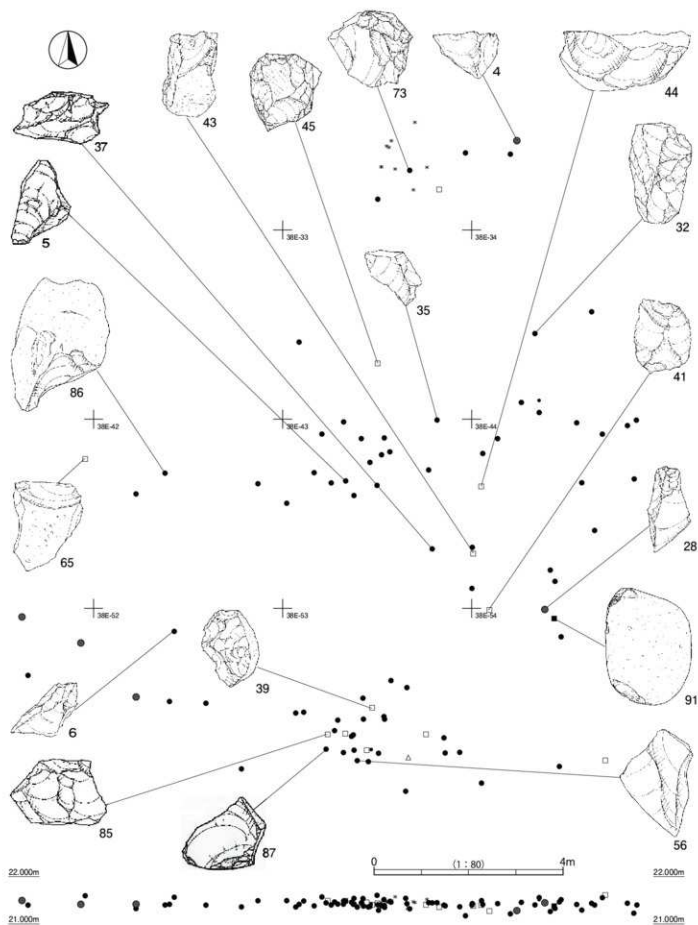
21,000m

22,000m

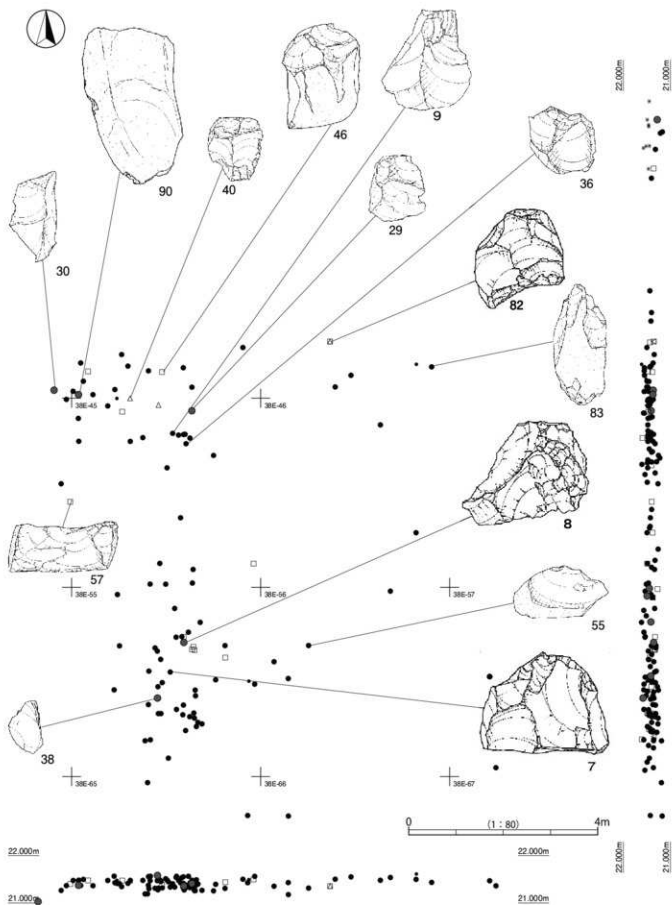
21,000m

0 (1 : 160) 8m

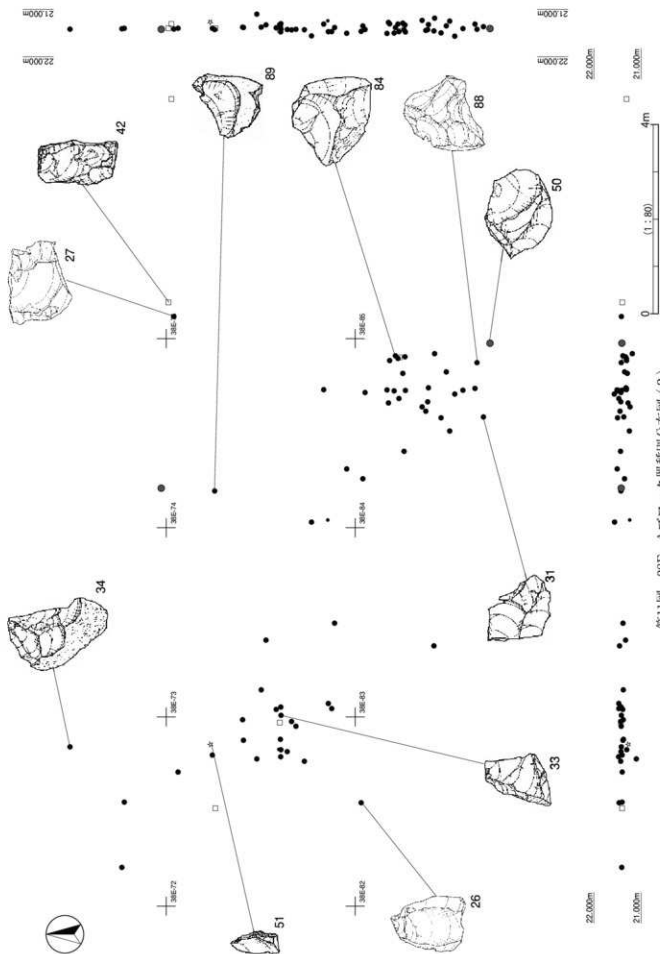
第8図 38E-Aブロック遺物分布図



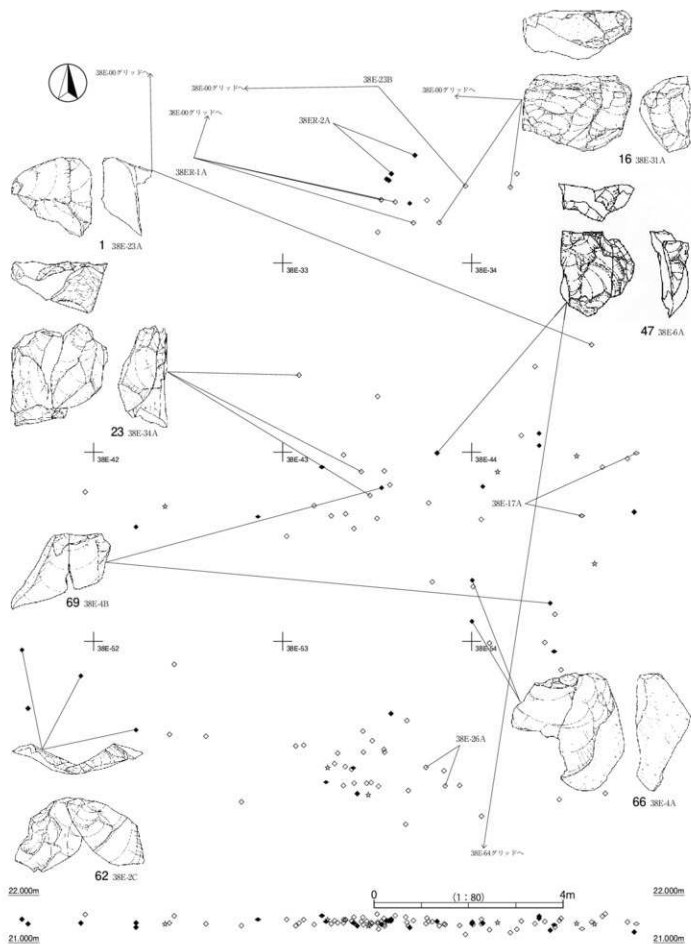
第9図 38E-Aブロック器種別分布図(1)



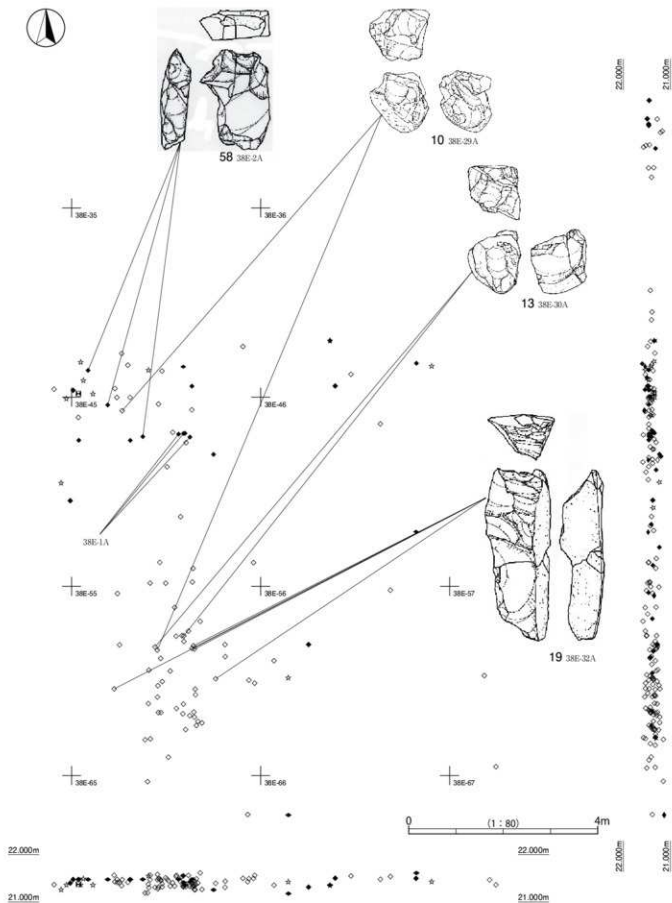
第10図 38E-Aブロック器種別分布図(2)



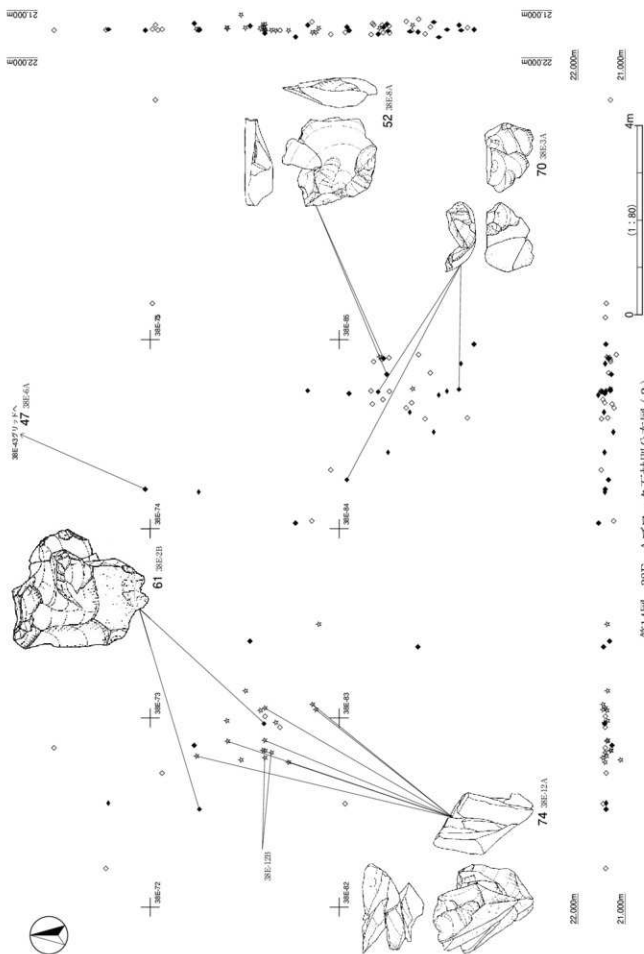
第11図 38E-Aブロック器種別分布図(3)



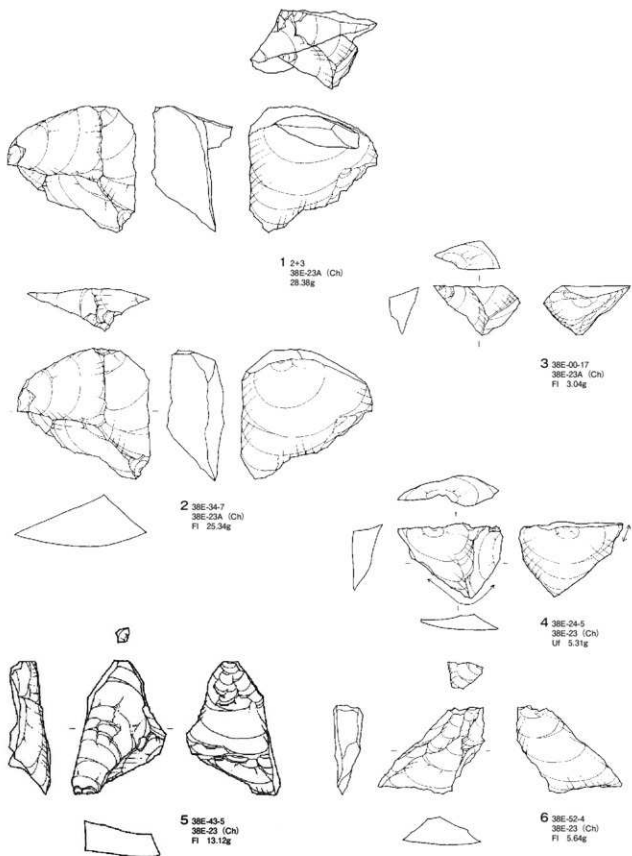
第12図 38E-Aブロック石材別分布図(1)



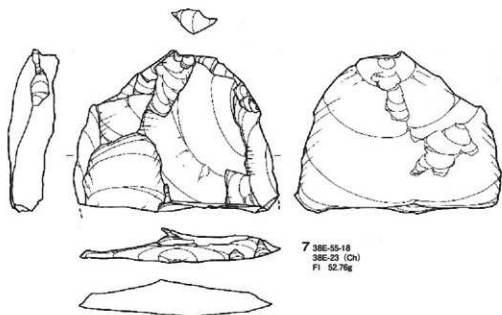
第13図 38E-Aブロック石材別分布図(2)



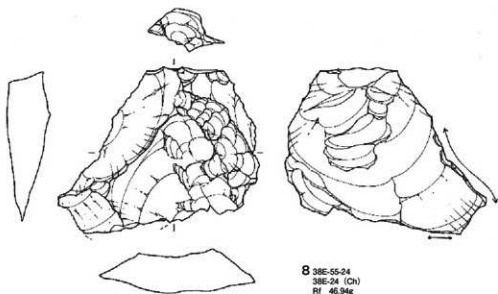
第14図 38E-Aブロック石材別分布図 (3)



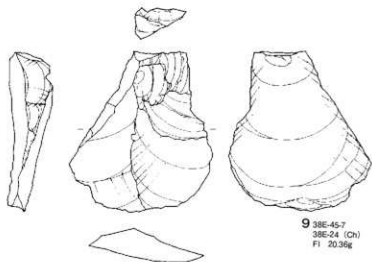
第15図 38E-Aブロック出土石器(1)



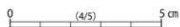
7 38E-55-18
38E-23 (Ch)
Fl 52.76g



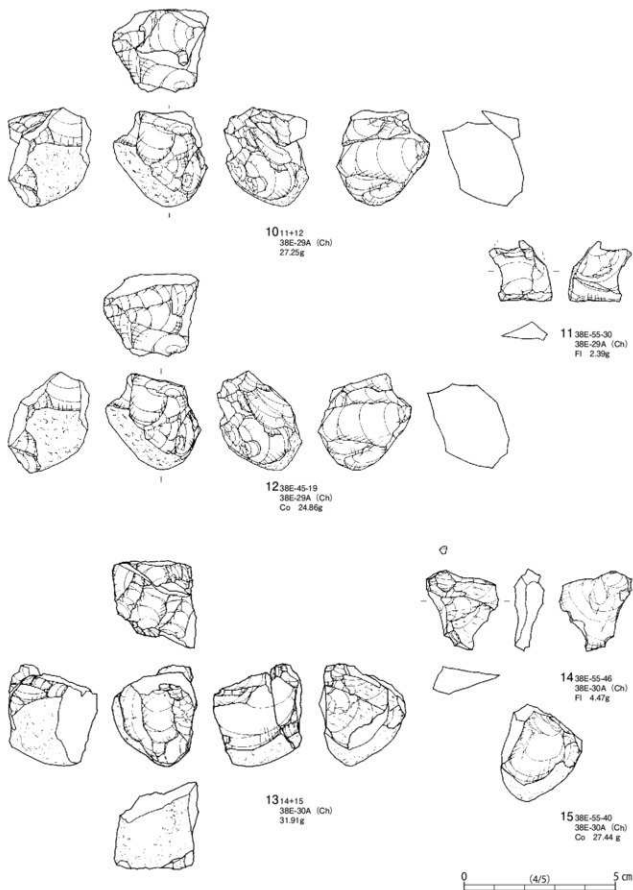
8 38E-55-24
38E-24 (Ch)
Fl 46.94g



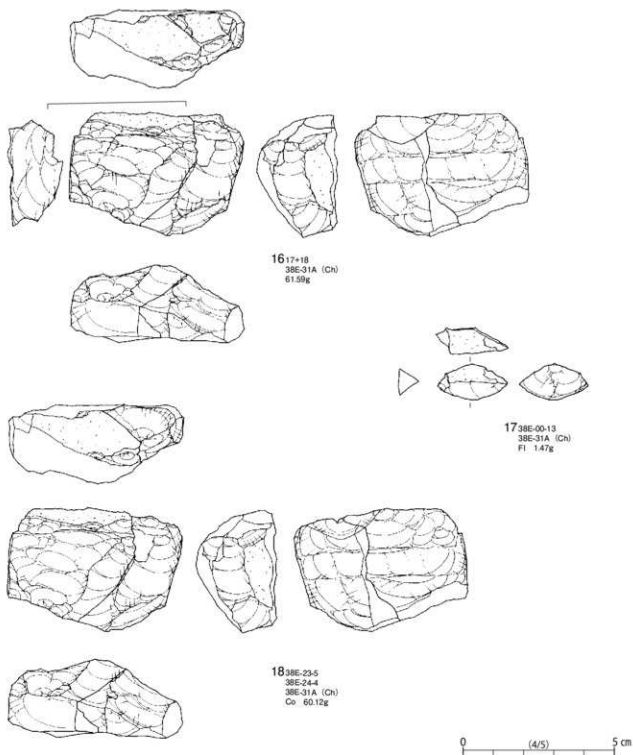
9 38E-45-7
38E-24 (Ch)
Fl 20.36g



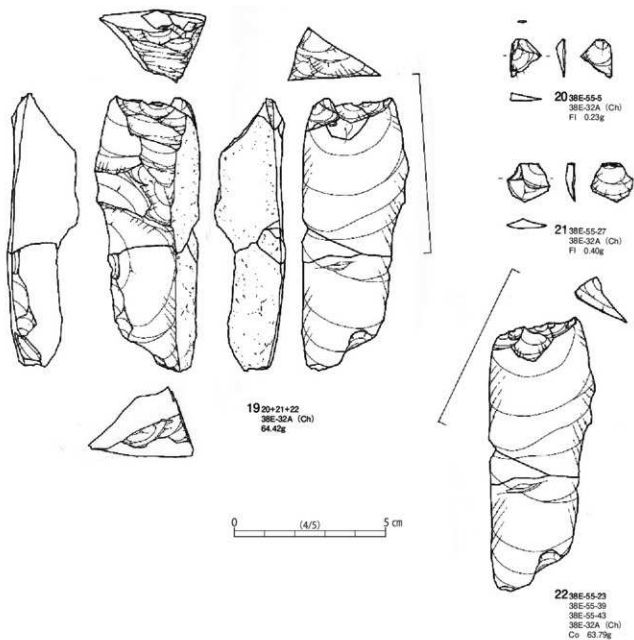
第16図 38E-Aブロック出土石器(2)



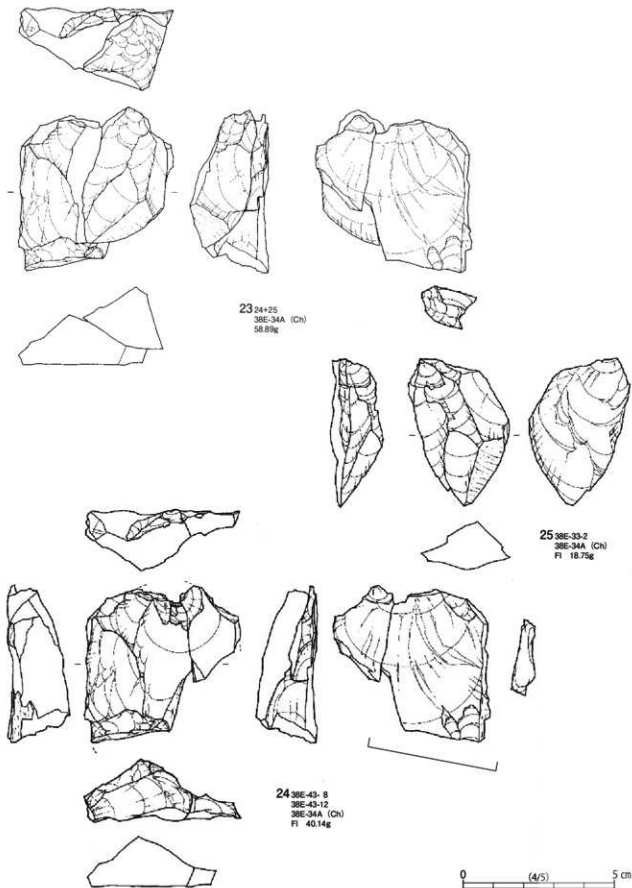
第17図 38E-Aブロック出土石器(3)



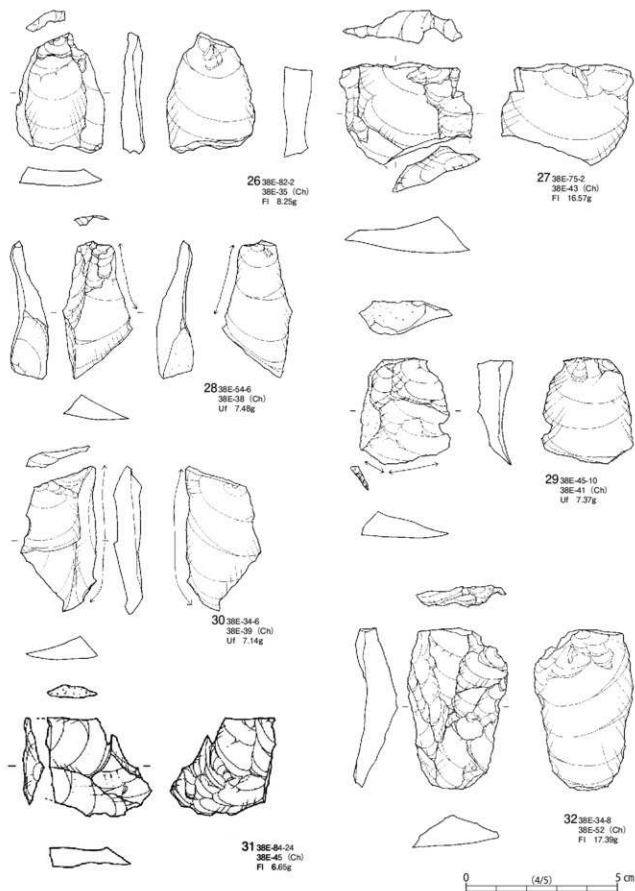
第18図 38E-Aブロック出土石器(4)



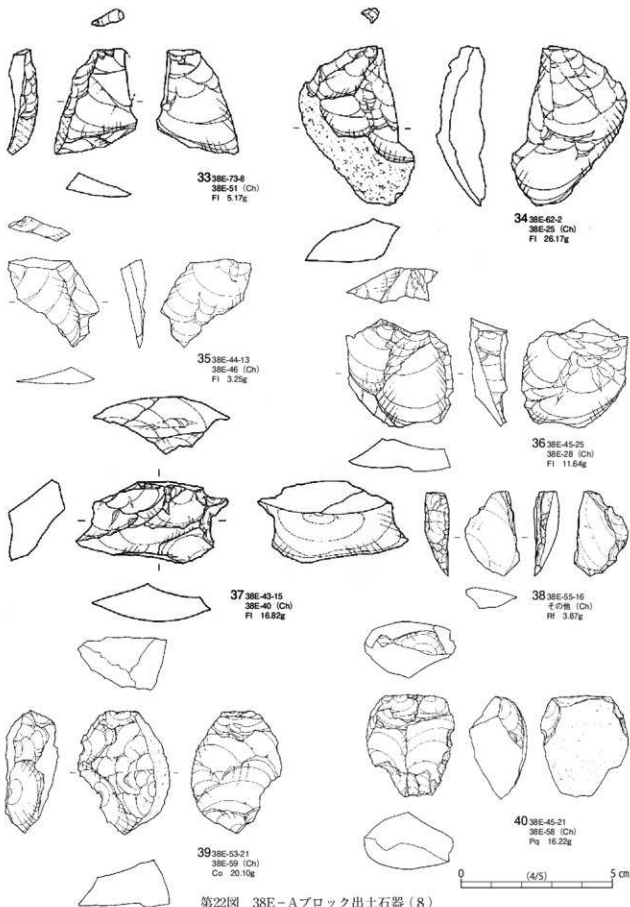
第19図 38E-Aブロック出土石器(5)



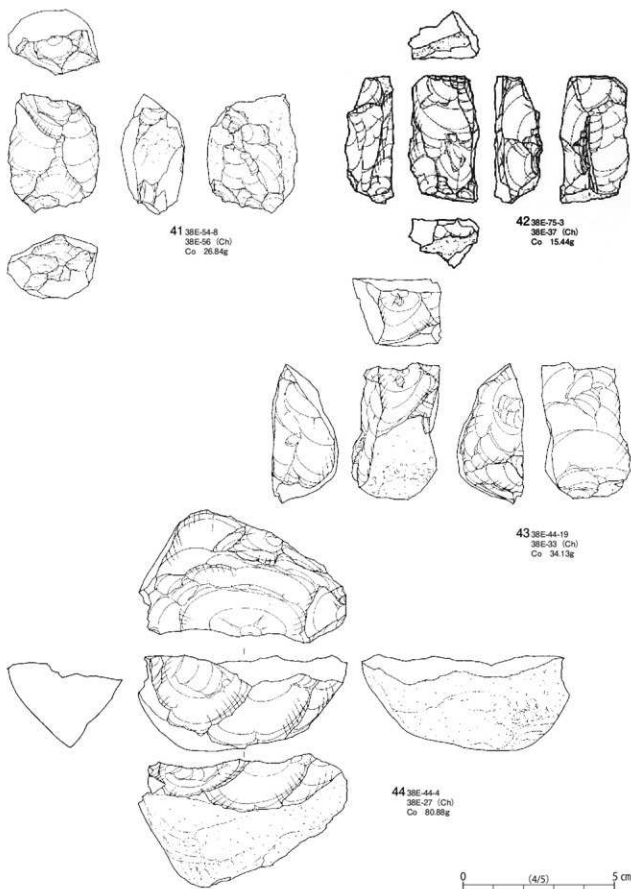
第20図 38E-Aブロック出土石器(6)



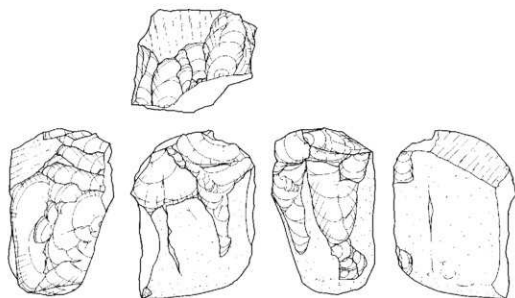
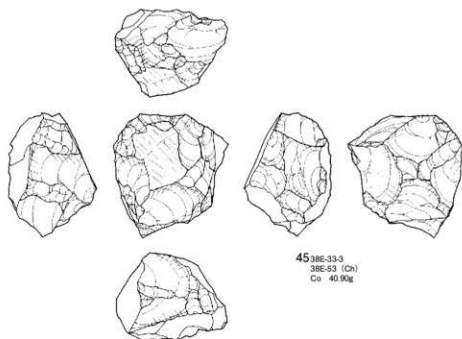
第21図 3E-Aブロック出土石器(7)



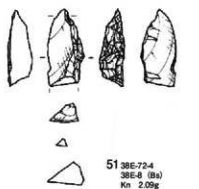
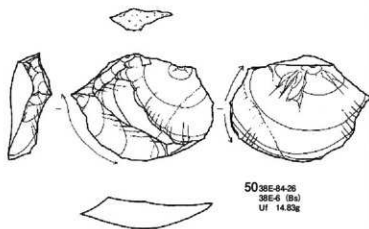
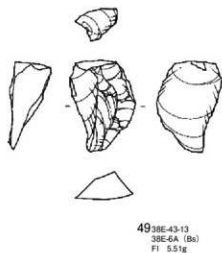
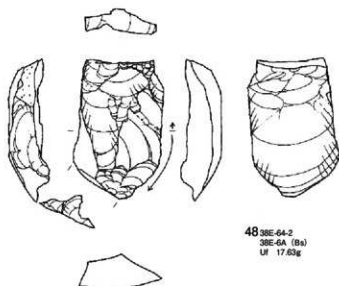
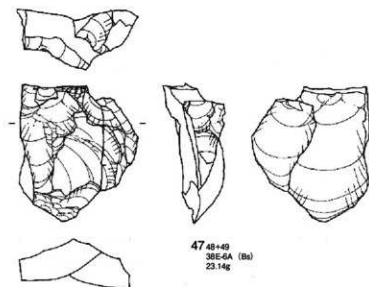
第22図 38E-Aブロック出土石器(8)



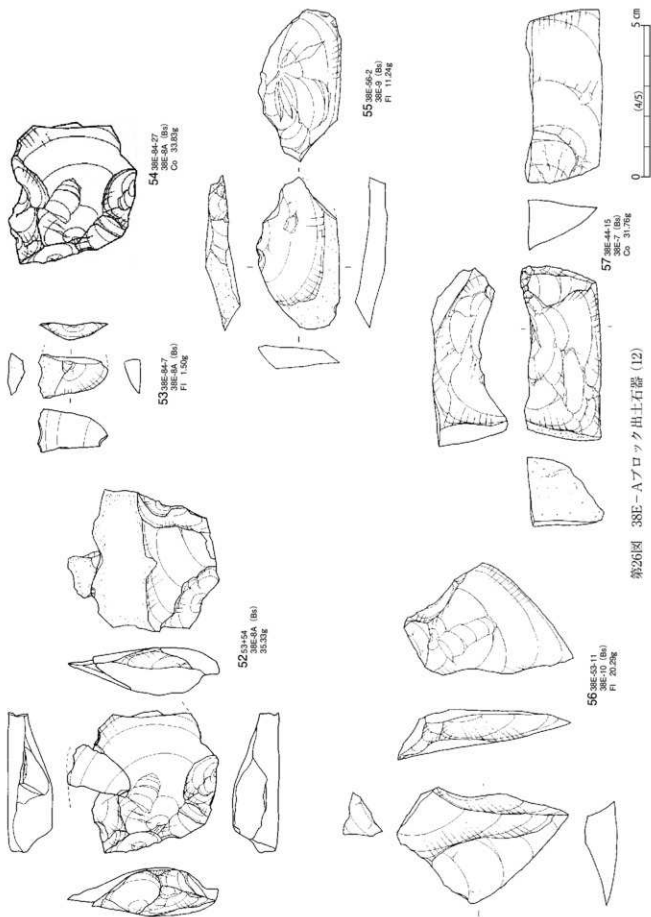
第23図 38E-Aブロック出土石器 (9)



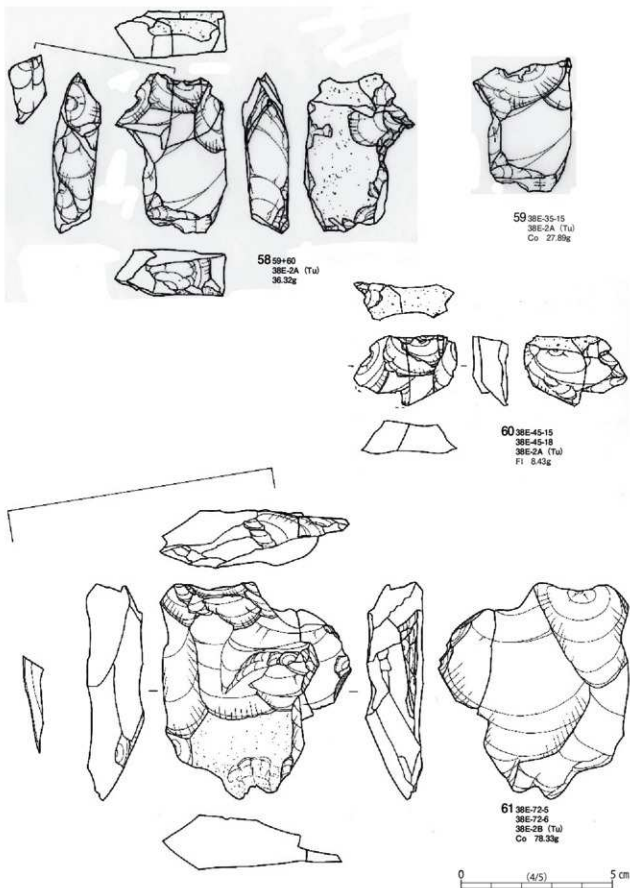
第24図 38E-Aブロック出土石器 (10)



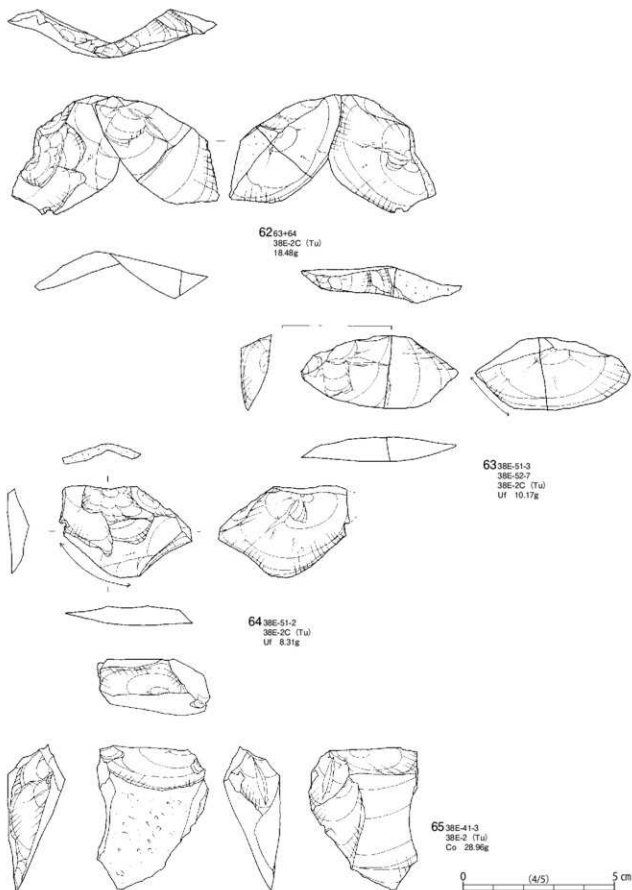
第25図 38E-Aブロック出土石器 (11)



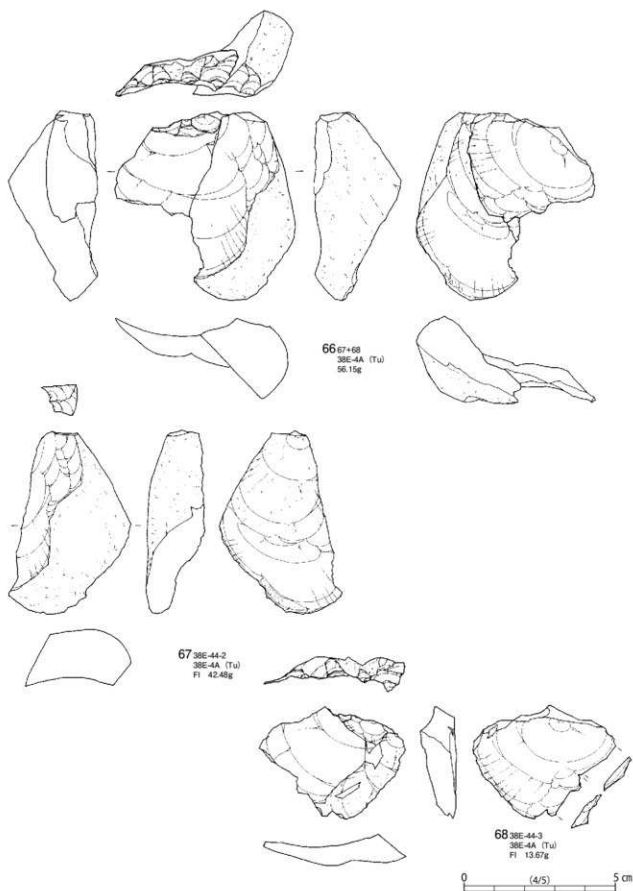
第26図 38E-Aブロック出土石器 (12)



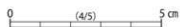
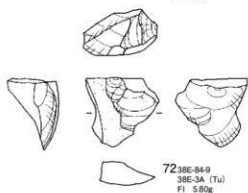
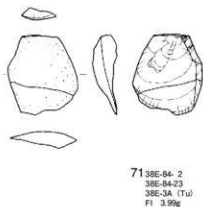
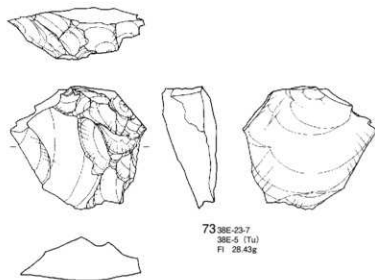
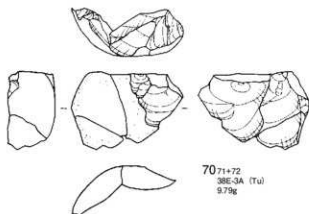
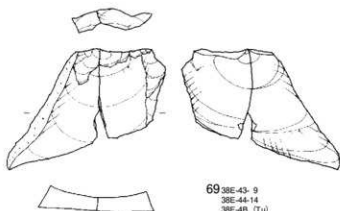
第27図 38E-Aブロック出土石器 (13)



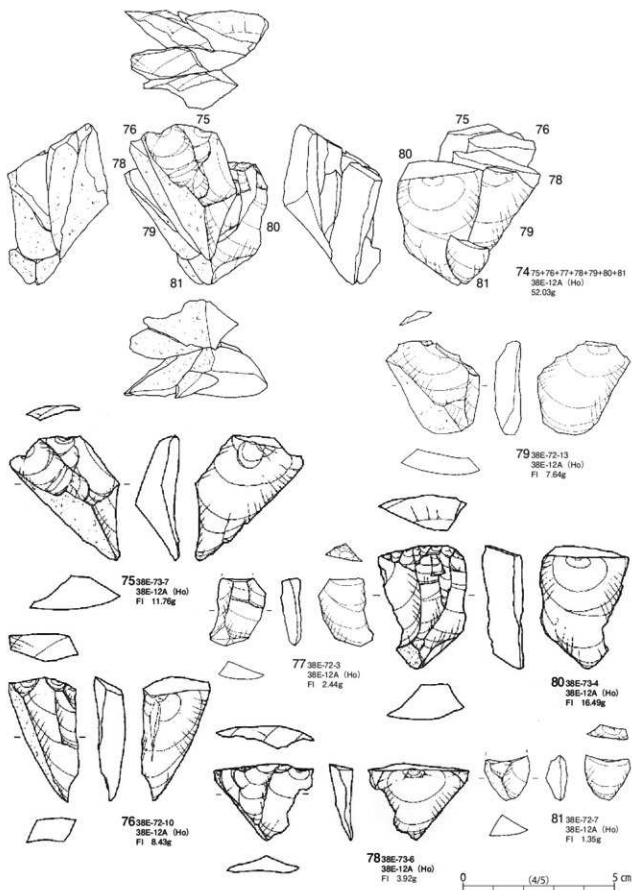
第28図 38E-Aブロック出土石器 (14)



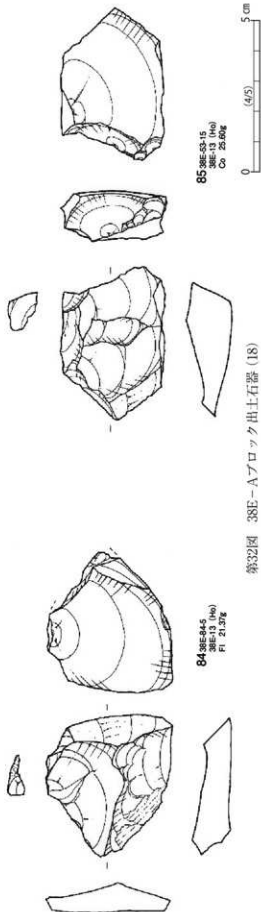
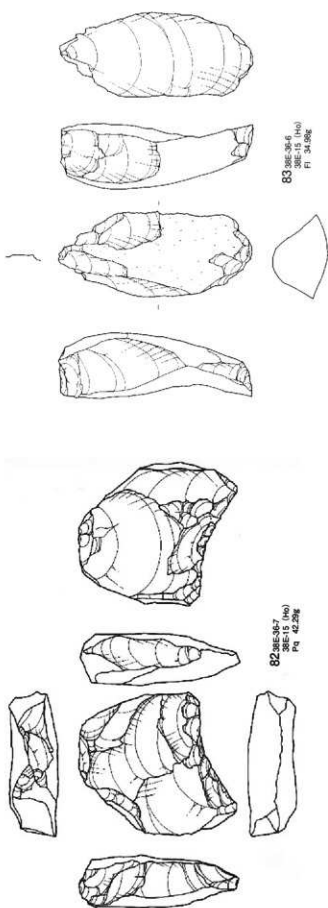
第29図 38E-Aブロック出土石器 (15)



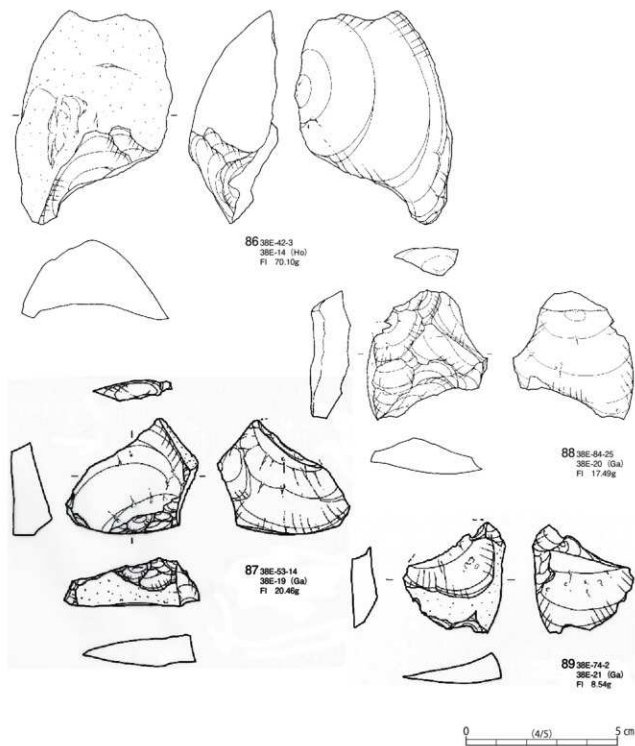
第30図 38E-Aブロック出土石器 (16)



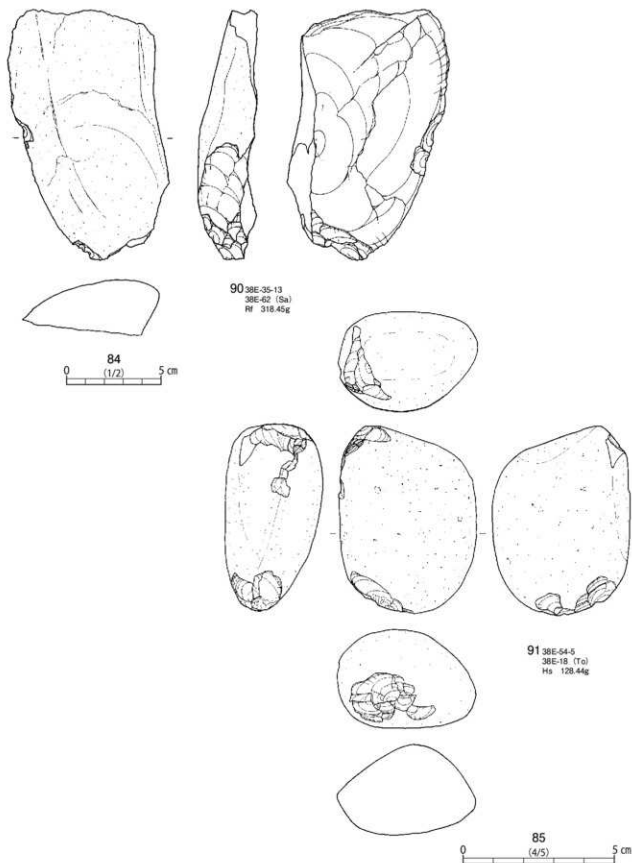
第31図 38E-Aブロック出土石器 (17)



第32図 38E-Aブロッケン出土石器 (18)



第33図 38E-Aブロック出土石器 (19)



第34図 38E-Aブロック出土石器 (20)

れる。65は剥片を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら剥離を行っている。66～68は同一母岩（38E-4）の凝灰岩で、66（接合資料38E-4A）は剥片2点の接合資料である。67は縦長、68は不定形である。69（接合資料38E-4B）は凝灰岩の横長剥片2点（1個体）の接合資料である。70（接合資料38E-3A）は凝灰岩の不定形な剥片3点（1個体）の接合資料である。73は凝灰岩の不定形な剥片である。

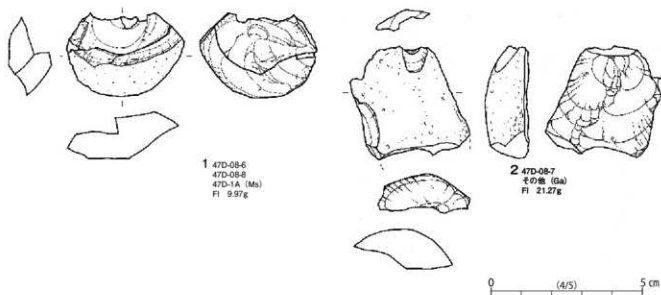
74～81は同一母岩（38E-12A）のホルンフェルスで、74（接合資料38E-12A）は剥片7点の接合資料である。打点を多少ジグザグに後退させながら、不定形な縦長剥片を剥離している。82・83は同一母岩（38E-15）のホルンフェルスで、82は楔形石器、83は縦長剥片である。84・85は同一母岩（38E-13）のホルンフェルスで、84は不定形な剥片、85は石核で、表面から裏面にかけて小型で不定形な剥片を剥離している。86はホルンフェルス、87～89はガラス質黒色安山岩の不定形な剥片である。90は砂岩の加工痕のある剥片で、表面の左側縁及び末端の一部、裏面の末端と右側縁の一部に調整加工を行っている。91はトロトロ石の叩石で、上下両端に加撃痕がみられる。

2 47D-Aブロック（第35・36図、第7・8表、図版3・4・10・25）

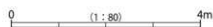
遺跡の南側、47D-08グリッドに分布する。1.8m×1.6mの範囲から6点の石器が出土した。出土層位はⅣ・Ⅴ層～Ⅷ層で、0.33mの高低差をもってⅧ層を中心に包含される。

石器器種は、剥片のみである。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・嶺岡産珪質頁岩・チャートで構成される。

1は嶺岡産珪質頁岩の自然面を残す不定形な剥片である。2はガラス質黒色安山岩の自然面を大きく残す不定形な剥片である。



第35図 47D-Aブロック出土石器



第36図 47D-Aブロック器種別・石材別分布図

第7表 47D-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
47D-1	Ms															2				2	9.97	
47D-2	Ch															1				1	5.98	
その他Ga	Ga															2				2	23.36	
その他To	To															1				1	2.43	
合 計																6				6	41.74	

第8表 47D-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
ガラス質 黒色安山岩	Ga															2					2	23.36
トロトロ石	To															1					1	2.43
嶺南産珪質 頁岩	Ms															2					2	9.97
チャート	Ch															1					1	5.98
合 計																6					6	41.74

2 第2文化層

第2文化層の石器群は、総計18点の石器が出土し、3か所の石器集中で構成される。Ⅵ層～Ⅶ層の石器群と推定される。ブロック間接合はない。

第2文化層の石器器種は、二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・原石で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・C、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・黒色頁岩・凝灰岩・チャート・ホルンフェルス・砂岩の10種類で、黒曜石B・Cが主体である。

1 37F-Aブロック (第37・38図、第9・10表、図版4・11・25)

遺跡の北側、37F-73・74・83・84グリッドに分布する。3.2m×3.0mの範囲から5点の石器が出土した。出土層位はⅥ層～Ⅶ層で、0.22mの高低差をもって包含される。

石器器種は、微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核である。石器石材は、黒曜石Cのみである。

1～3は信州麦草峠産と思われる黒曜石の石器で、1は石刃状の縦長剥片の左側縁下部と右側縁に微細な剥離痕がみられる微細剥離痕のある剥片、2は縦長剥片、3は角礫状の礫から石刃状の縦長剥片を剥離している。

2 37G-Aブロック (第39・41図、第11・12表、図版4・11・25)

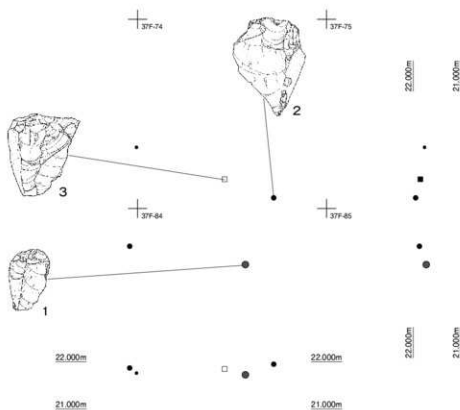
遺跡の北側、37G-30グリッドに分布する。5.2m×2.4mの範囲から2点の石器が出土した。出土層位はⅥ層～Ⅶ層で、0.05mの高低差をもって包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片である。石器石材は、黒色頁岩である。

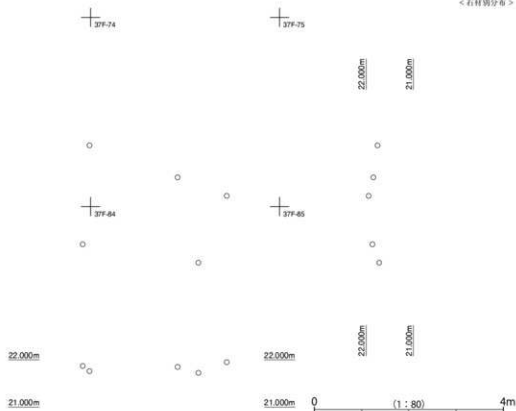
1は黒色頁岩の二次加工のある剥片で、末端に調整加工を行っている。



< 器種別分布 >



< 石材別分布 >



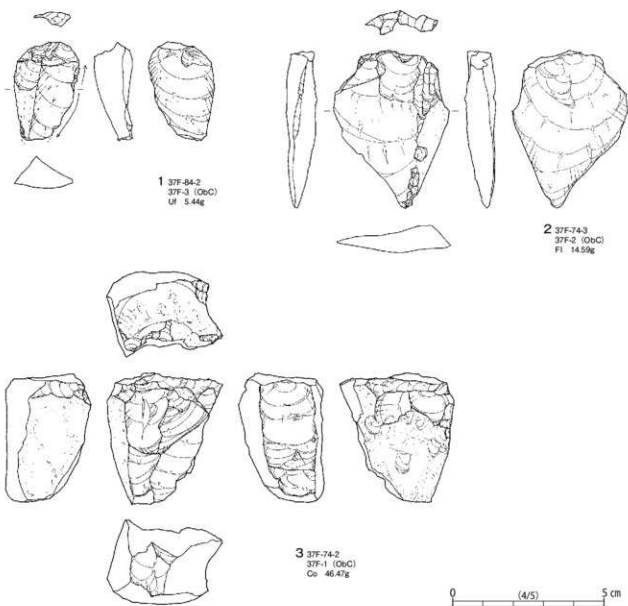
第37図 37F-Aブロック器種別・石材別分布図

3 42 G-Aブロック (第40・42図、第13・14表、図版4・11・25)

遺跡の中央部、42G-09・19・29、42H-10グリッドに分布する。5.4 m × 2.4 mの範囲から11点の石器が出土した。出土層位はⅥ層～Ⅶ層で、0.37 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・石核・原石で構成され、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・ガラス質黒色安山岩・砂岩で構成され、黒曜石が主体である。

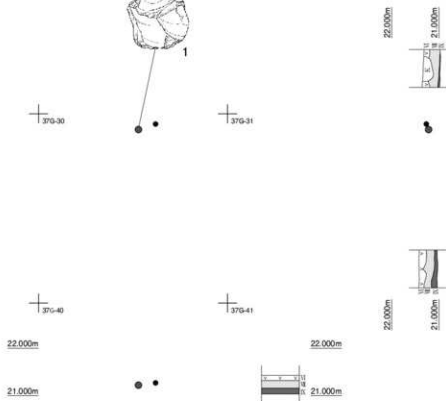
1・2は信州和田峠周辺産と思われる黒曜石の縦長剥片である。3は砂岩の原石である。4は(接合資料42G-1A)は剥片3点(1個体)の接合資料である。おそらく4点に破損したものであるが、1点は発見されていない。



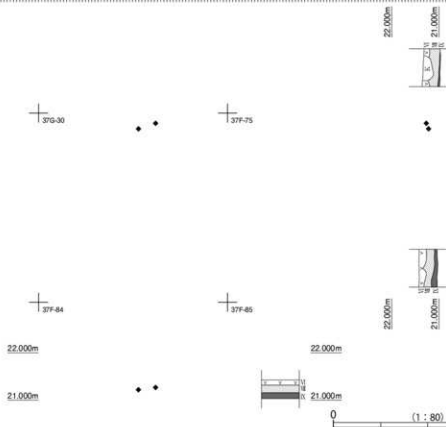
第38図 37F-Aブロック出土石器



< 器種別分布 >

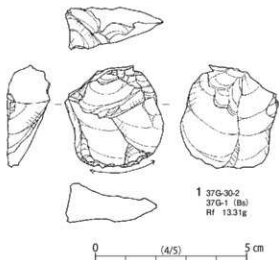


< 石材別分布 >

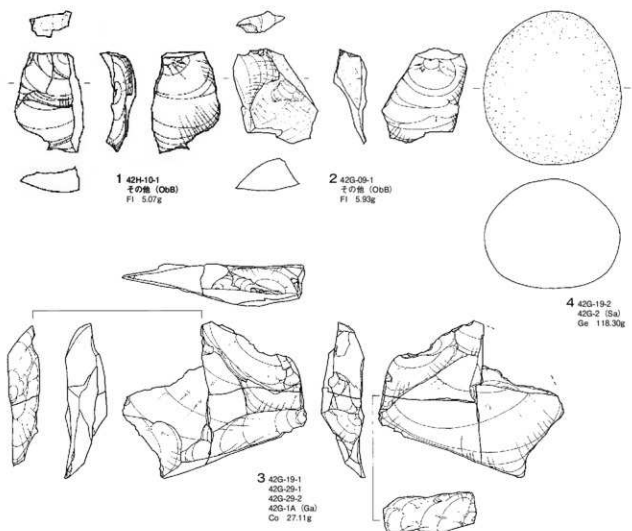


第39図 37G-Aブロック器種別・石材別分布図

0 (1 : 80) 4m



第41図 37G-Aブロック出土石器



第42図 42G-Aブロック出土石器

第9表 37F-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
37F-1	ObC																		1		1	46.47
37F-2	ObC															1					1	14.59
37F-3	ObC										1										1	5.44
その他 OBC	ObC															1		1			2	2.45
合 計											1					2		1	1		5	68.95

第10表 37F-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石C	ObC										1					2		1	1		5	68.95
合 計											1					2		1	1		5	68.95

第11表 37G-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
37G-1	Bs										1										1	31.06
37G-2	Bs															1					1	13.31
合 計											1					1					2	44.37

第12表 37G-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒色頁岩	Bs										1					1					2	44.37
合 計											1					1					2	44.37

第13表 42G-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
42G-1	Ga																		3		3	27.11
42G-2	Sa																			1	1	118.3
その他ObB	ObB															7					7	22.6
合 計																7			3	1	11	168.01

第14表 42G-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石	ObB															7					7	22.6
ガラス質 黒色安山岩	Ga																		3		3	27.11
砂岩	Sa																			1	1	118.3
合 計																7		0	3	1	11	168.01

3 第3文化層

第3文化層の石器群は、石器302点、礫57点、総計359点が出土し、7か所の遺物集中で構成される。もっとも多くの点数と遺物集中を検出した文化層である。角錐状石器などが出土していることからⅣ層下部の石器群と推定される。ブロック間接合はない。

第3文化層の石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石A・B、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・頁岩・黒色頁岩・嶺岡産珪質頁岩・チャート・ホルンフェルス・粘板岩で構成され、チャートが主体で、黒曜石A・Bがこれに次ぐ。

1 40E-Bブロック（第43～47図、第15・16表、図版4・11・23・25）

遺跡の中央部北側、39E-97～99、40E-07・08・18グリッドに分布する。9.2m×6.4mの範囲から116点の石器が出土した。出土層位はⅡ層～Ⅲ層で、0.48mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核で、剥片が主体である。石器石材は、頁岩・嶺岡産珪質頁岩・チャート・ホルンフェルスで構成され、チャートが主体である。

1はホルンフェルス、2・3・5はチャート、4は頁岩のナイフ形石器である。1～3は両側縁に急角度の鋸歯状の調整加工を行っており、いわゆる切出形である。4は急角度の鋸歯状の調整加工を行っている。形状はいわゆる二側縁加工のナイフ形石器であるが、後述する6の角錐状石器に近い。5は上部を欠損しており、形状は不明である。6は頁岩の角錐状石器で、全周に両側縁に急角度の鋸歯状の調整加工を行っている。7～9はチャートの石器で、7は不定形な剥片、8・9は石核である。剥片を素材として、不定形な剥片を剥離している。10（接合資料40E-17F）はチャートの剥片と石核の接合資料である。比較的不定形な剥片を素材として、11を剥離している。13（接合資料40E-17C）はチャートの二次加工のある剥片と微細剥離痕のある剥片の接合資料である。14は左側縁に細かい調整加工を行っている。15は右側縁から末端にかけて、微細な剥離痕がみられる。

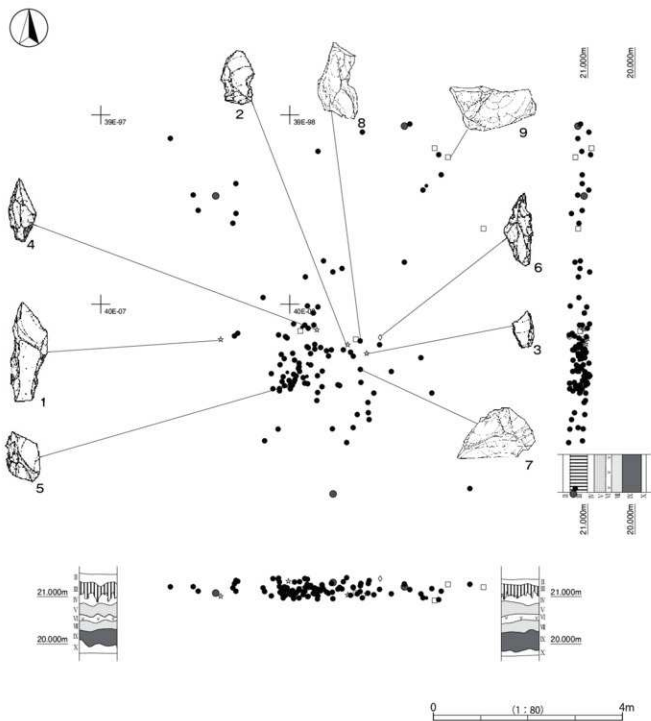
16（接合資料40E-18A）はチャートの剥片2点と石核1点の接合資料である。比較的厚めの剥片を素材とし、19の石核から17・18の不定形な剥片を剥離している。

2 40E-Cブロック（第48・49図、第17・18表、図版4・11）

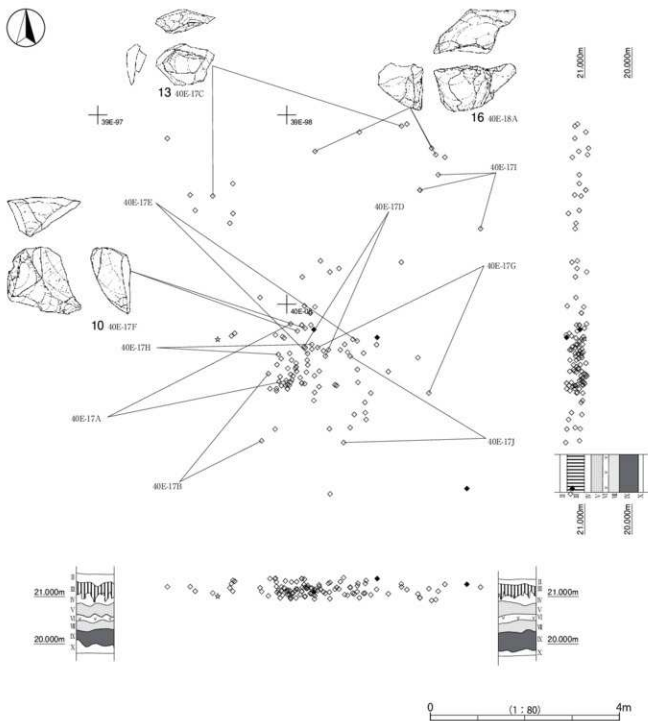
遺跡の中央部北側、41E-19に分布する。7.4m×5.4mの範囲から21点の石器が出土した。出土層位はⅡ層下部～Ⅲ層下部で、0.46mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・砕片・石核で、剥片が主体である。石器石材は、チャートのみである。

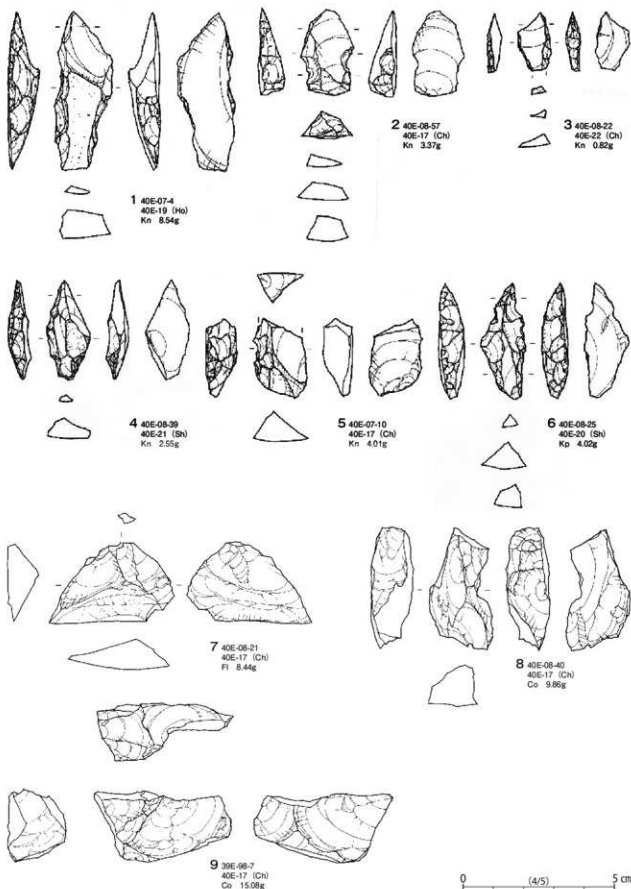
1はナイフ形石器で、上半部を欠損するため形状は不明であるが、両側縁に急角度の調整加工を行っている。2は剥片を素材として、小型で不定形な剥片を剥離している。



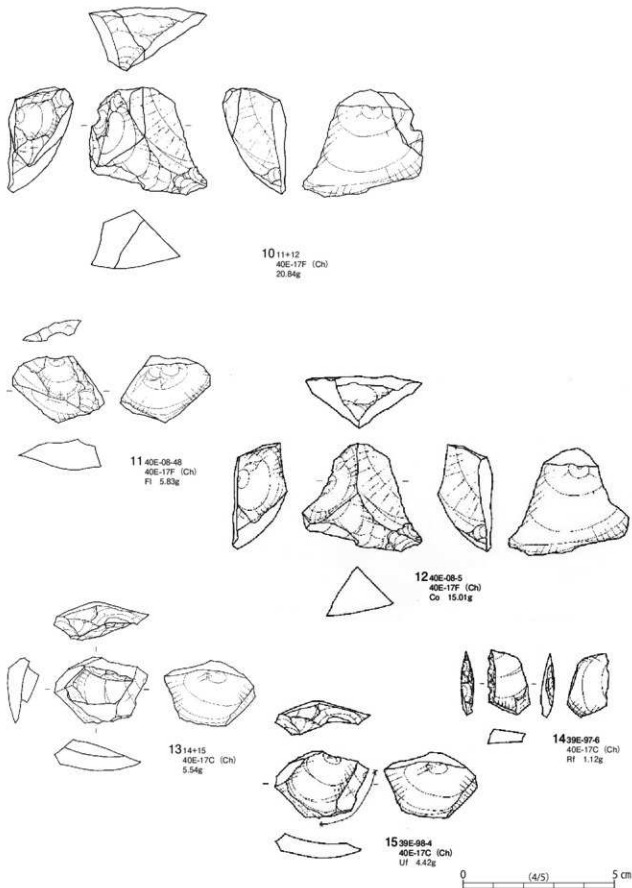
第43図 40E-Bブロック器種別分布図



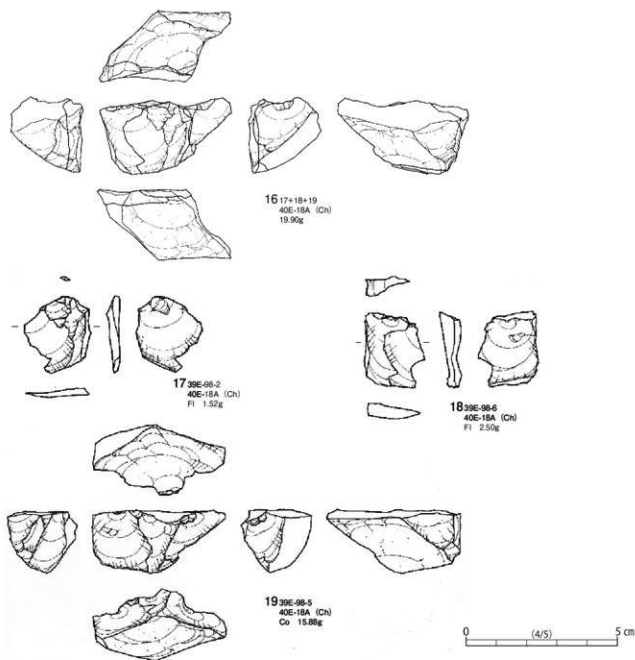
第44図 40E-Bブロック石材別分布図



第45図 40E-Bブロック出土石器(1)



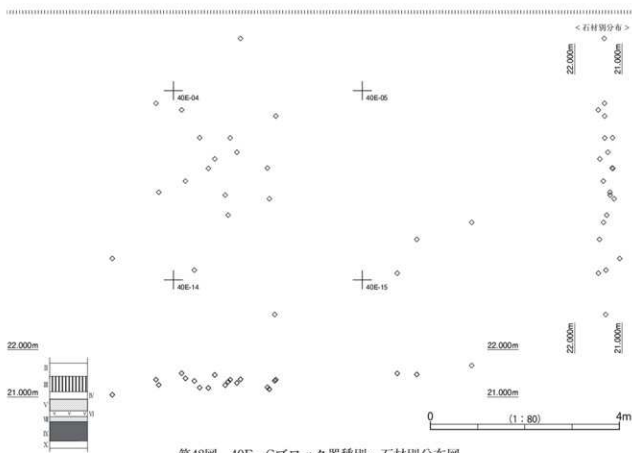
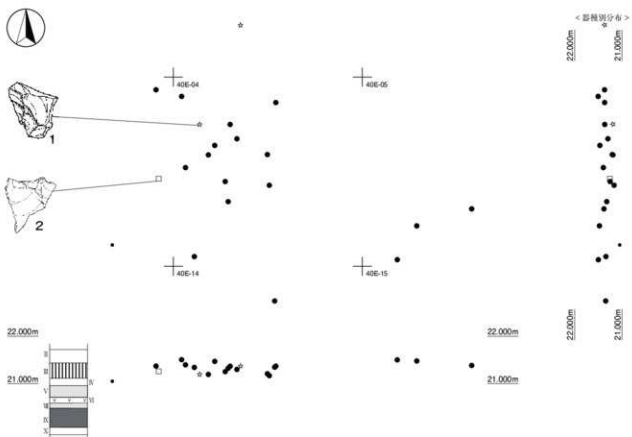
第46図 40E-Bブロック出土石器(2)



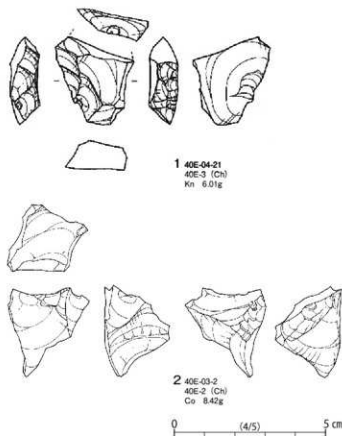
第47図 40E-Bブロック出土石器(3)

第15表 40E-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
40E-17	Ch	2								2	1					72			4		81	226.67
40E-18	Ch															7			1		8	26.78
40E-19	Ho	1																			1	8.54
40E-20	Sh				1																1	4.02
40E-21	Sh	1																			1	2.55
40E-22	Ch	1																			1	0.82
40E-23	Ms															1					1	0.86
その他Ch	Ch															17		5			22	9.7
合 計		5			1					2	1					97		5	5		116	279.94



第48図 40E-Cブロック器種別・石材別分布図



第49図 40E-Cブロック出土石器

第16表 40E-Bブロック石材別石器組成表

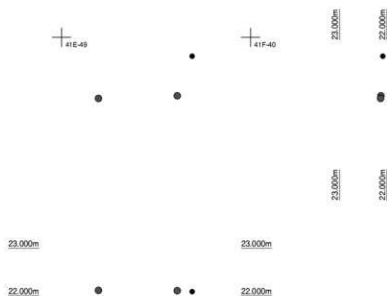
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量
頁岩	Sh	1			1																2	6.57
福岡産珪質頁岩	Ms															1					1	0.86
チャート	Ch	3								2	1					96		5	5		112	263.97
ホルンフェルス	Ho	1																			1	8.54
合 計		5			1					2	1					97		5	5		116	279.94

第17表 40E-Cブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
40E-2	Ch															6			1		7	22.55
40E-3	Ch	1														1					2	6.98
その他Ch	Ch	1														10		1			12	4.67
合 計		2														17		1	1		21	34.2

第18表 40E-Cブロック石材別石器組成表

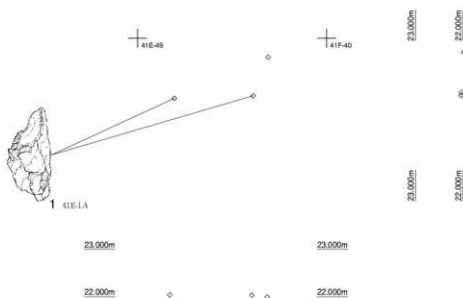
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
チャート	Ch	2														17		1	1		21	34.2
合 計		2														17		1	1		21	34.2



< 器種別分布 >



< 石材別分布 >



0 (1 : 80) 4m

第50図 41E-Aブロック器種別・石材別分布図

3 41E-Aブロック (第50・51図、第19・20表、図版12・25)

遺跡の中央部、41E-49グリッドに分布する。24m×0.8mの範囲から3点の石器が出土した。出土層位はⅢ層中心に0.05mの高低差をもって包含される。

石器器種は、二次加工のある剥片・剥片・石核である。石器石材は、チャートのみである。

1は二次加工のある剥片で、厚みのある剥片の左側縁上半、右側縁下部に急角度の調整加工を行っている。石核の可能性もある。

4 43E-Aブロック (第52～58図、第21～24表、図版4・12・23・25)

遺跡の中央部、43E-28・37・38・46～49・56～58・67・69・77・78グリッドに分布する。10.0m×6.4mの範囲から石器98点、礫7点、総計105点が出土した。出土層位はⅣ層～Ⅵ層で、0.75mの高低差をもってⅣ層下部を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・角錐状石器・二次加工のある剥片・剥片・砕片・石核と礫で構成され、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・ガラス質黒色安山岩・頁岩・嶺岡産珪質頁岩・チャート・ホルンフェルスで構成され、黒曜石が主体で、ガラス質黒色安山岩とチャートがこれに次ぐ。礫石材は、流紋岩・砂岩・チャートである。

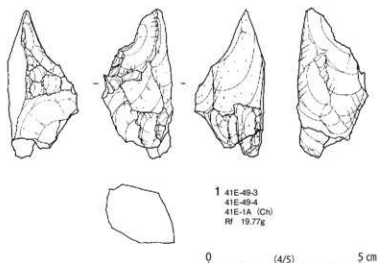
1～3はナイフ形石器である。1は信州和田峠周辺産の黒曜石で、横長剥片を横位に用い、両側縁下半部に細かい調整加工を行っている。2はチャートで、横長剥片を横位に用い、左側縁と右側縁下部に細かい調整加工を行っている。3は頁岩で、両側縁に調整加工を行っており、形状はいわゆる切出形である。4はガラス質黒色安山岩の角錐状石器で、横長剥片の全周に急角度の鋸歯状の調整加工を行っている。5はチャートの二次加工のある剥片で、表面上部に大きな剥離痕がみられ、石核の可能性もある。6～16は剥片で、石材はガラス質黒色安山岩、信州和田峠周辺産の黒曜石、嶺岡産珪質頁岩、チャート、ホルンフェルスである。小型のものから比較的大型のものまであり、形状も縦長剥片や不定形な剥片など多様である。17～22は石核で、石材はチャート、信州和田峠周辺産の黒曜石、ホルンフェルスである。17・18は求心的な剥離、19・20は打面と作業面を入れ替えながら、21は比較厚みのある扁平礫を分割して打面を作出し、22は長方形の礫を縦方向に分割して、打面を作出し、左右両端で小型で、不定形な剥片を剥離している。23(接合資料43E-1A)はチャートの剥片と石核の接合資料である。不定形な剥片を素材として、25の石核から24を剥離している。

第19表 41E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量(g)
41E-1	Ch									2						1					3	21.15
合計										2						1					3	21.15

第20表 41E-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量(g)
チャート	Ch									2						1					3	21.15
合計										2						1					3	21.15



第51図 41E-Aブロック出土石器

5 43E-Bブロック（第59～61図、第25～28表、図版4・13・26）

遺跡の中央部南側、43E-88・98・99・07～09グリッドに分布する。8.4 m×4.0 mの範囲から石器29点、礫47点、総計76点が出土した。出土層位はⅢ層下部～Ⅴ層上部で、1点を除いて0.42 mの高低差をもってⅢ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・叩石・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・流紋岩・黒色頁岩・粘板岩で構成され、黒色頁岩が主体である。

1はガラス質黒色安山岩の二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁下半部と右側縁に急角度の鋸歯状の調整加工を行っている。2は流紋岩の叩石で、下端部に加撃痕がみられる。上半部を欠損している。3は黒色頁岩の不定形な剥片である。図上、表面上部の白ヌキ部分は新規の欠損部である。4は黒色頁岩の石核である。不定形な剥片の右側面から横長剥片を剥離している。

6 43F-Aブロック（第62～66図、第29・30表、図版5・13・23・26）

遺跡の中央部南側、43F-86・95・96、44F-05グリッドに分布する。5.0 m×2.4 mの範囲から25点の石器が出土した。出土層位はⅢ層～Ⅳ・Ⅴ層で、0.57 mの高低差をもってⅣ・Ⅴ層を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・剥片・石核で構成され、剥片が主体である。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・黒色頁岩・ホルンフェルスで構成され、ホルンフェルスが主体である。

1はガラス質黒色安山岩の二側縁加工のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁と右側縁下半部に急角度の鋸歯状の細かい調整加工を行っている。先端部を欠損しているが、衝撃剥離状の可能性がある。2はガラス質黒色安山岩の石核である。比較的厚みのある剥片の裏面から加撃して横長剥片を剥離している。下半部を欠損する。3・4はホルンフェルスの不定形な剥片である。4は（接合資料43F-1B）は剥片2点（1個体）の接合資料である。5（接合資料43F-1A）はホルンフェルスの剥片6点と石核1点の接合資料である。上方向から6～9の不定形な剥片や縦長剥片を剥離し、90度打面を転回して10、再び上方向から11を剥離している。

第21表 43E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
43E-1	Ga				1											10			2		13	56.56
43E-2	Ch	1								1						5		1		8	52.88	
43E-3	Ch															2		1		3	90.32	
43E-4	Ch																		1	1	70.66	
43E-5	Ch																		1		9.52	
43E-6	Ch															1				1	21.52	
43E-7	Sh															1				1	1.98	
43E-8	Ms															1				1	31.61	
43E-9	Ms															1				1	13.44	
43E-10	Sh	1																		1	3.97	
43E-11	Ho															1				1	19	
43E-12	Ho																		1	1	137.1	
43E-13	Ho															1				1	16.54	
43E-17	ObB															2				2	10.12	
43E-18	Ch															1				1	5.46	
43E-19	Ga															2				2	51.47	
その他ObB	ObB	1								2						43		2	1	49	41.53	
その他Ga	Ga															6				6	24.54	
その他Ch	Ch															3				3	1.69	
その他Ho	Ho															1				1	1.03	
合 計		3			1					3						81		2	8	98	660.94	

第22表 43E-Aブロック石材別石器組成表

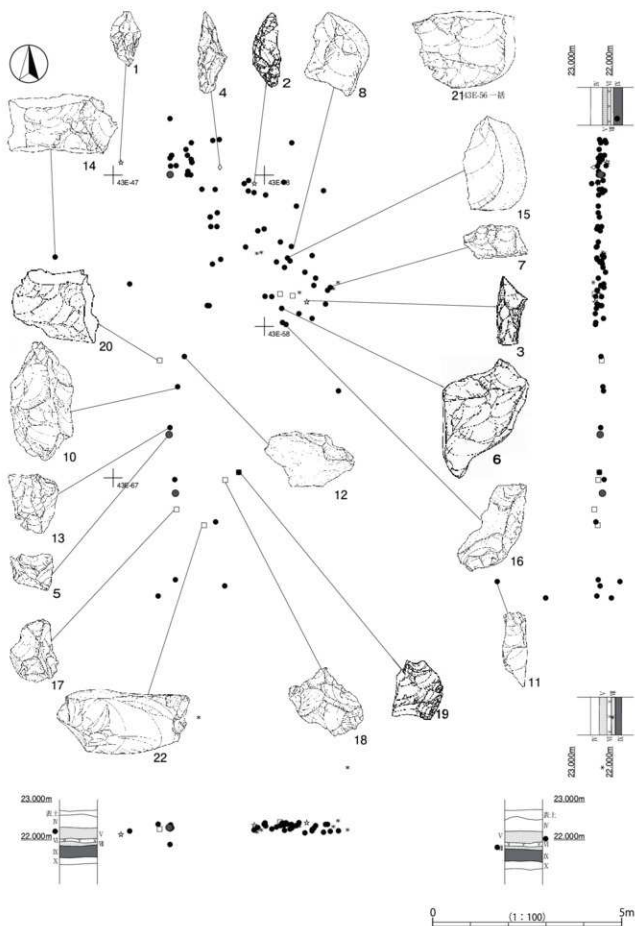
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石B	ObB	1								2						45		2	1		51	51.65
ガラス質 黒色安山岩	Ga				1											18			2		21	132.57
頁岩	Sh	1														1					2	5.95
横間産珪質 頁岩	Ms															2					2	45.05
チャート	Ch	1								1						12			4		18	252.05
ホルンフェ ルス	Ho															3			1		4	173.67
合 計		3			1					3						81		2	8		98	660.94

第23表 43E-Aブロック礫母岩別石器組成表

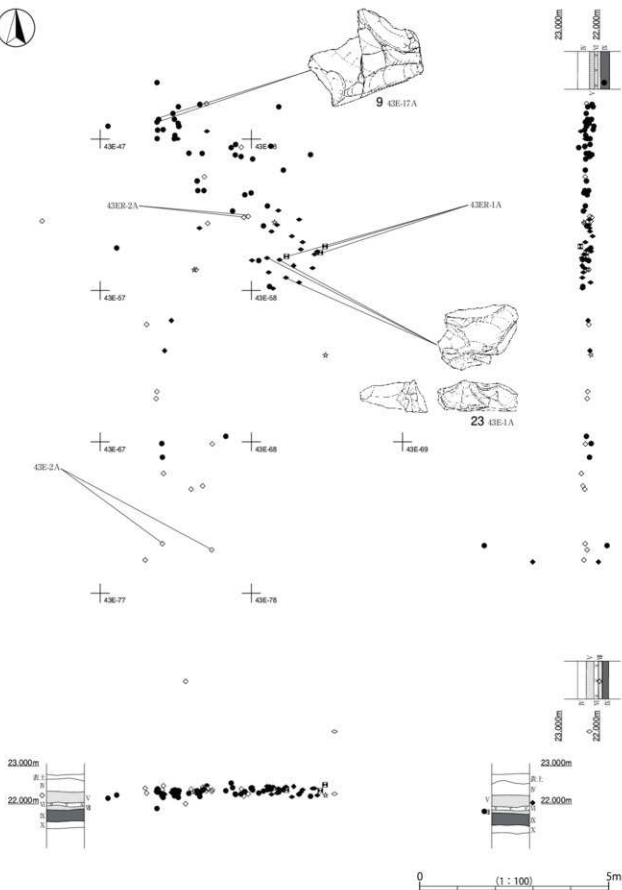
母岩番号	石材	個数	重量 (g)
43ER-1	Sa	3	22.5
43ER-2	Ch	2	80.69
43ER-3	Rh	1	96.32
その他RCh	Ch	1	2.32
合 計		7	201.83

第24表 43E-Aブロック礫石材別石器組成表

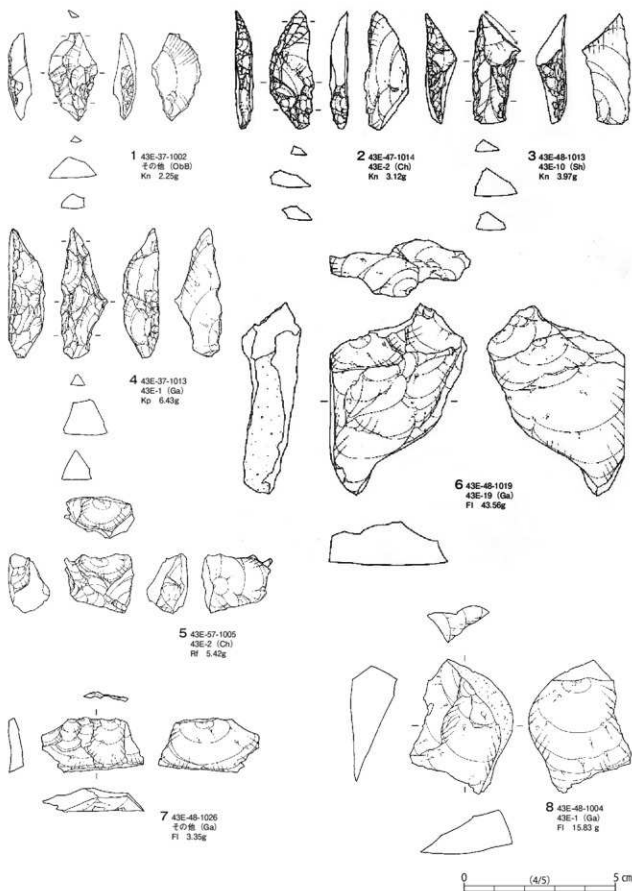
石材	石材	個数	重量 (g)
流紋岩	Rh	1	96.32
砂岩	Sa	3	22.5
チャート	Ch	3	83.01
合 計		7	201.83



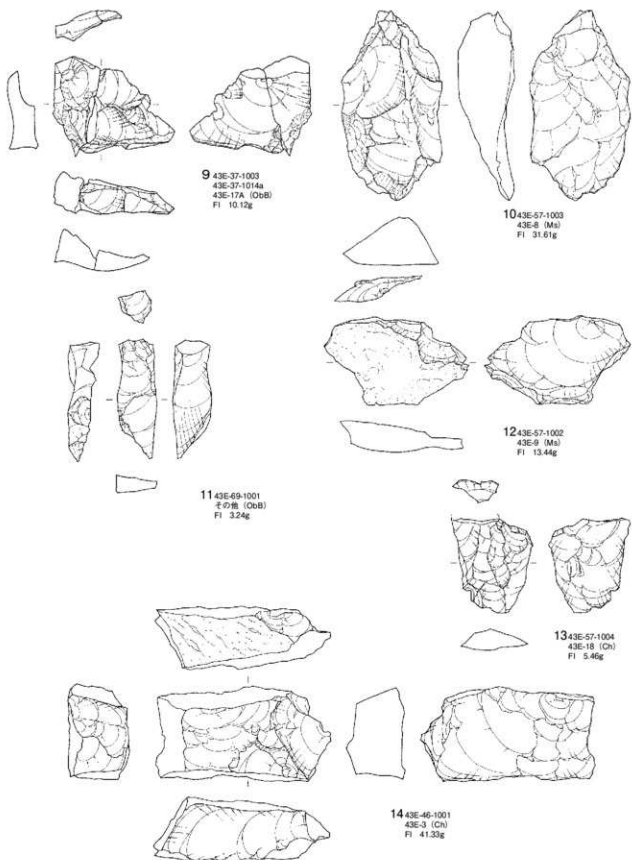
第52図 43E-Aブロック器種別分布図



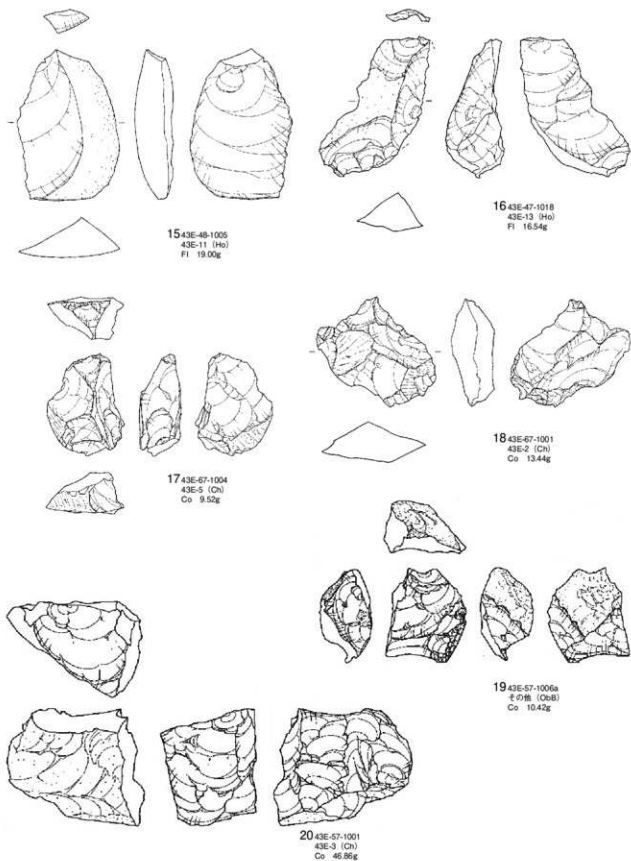
第53図 43E-Aブロック石材別分布図



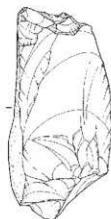
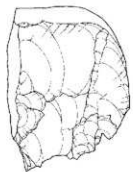
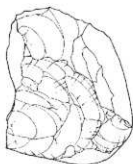
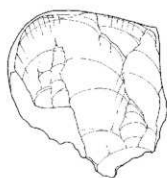
第54図 43E-Aブロック出土石器(1)



第55図 43E-Aブロック出土石器(2)



第56図 43E-Aブロック出土石器(3)

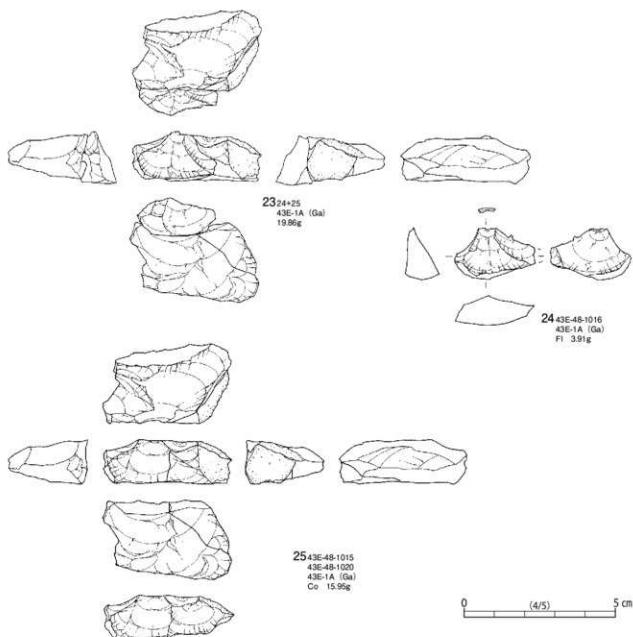


21 43E-55-1
43E-12 140
Co 137.148

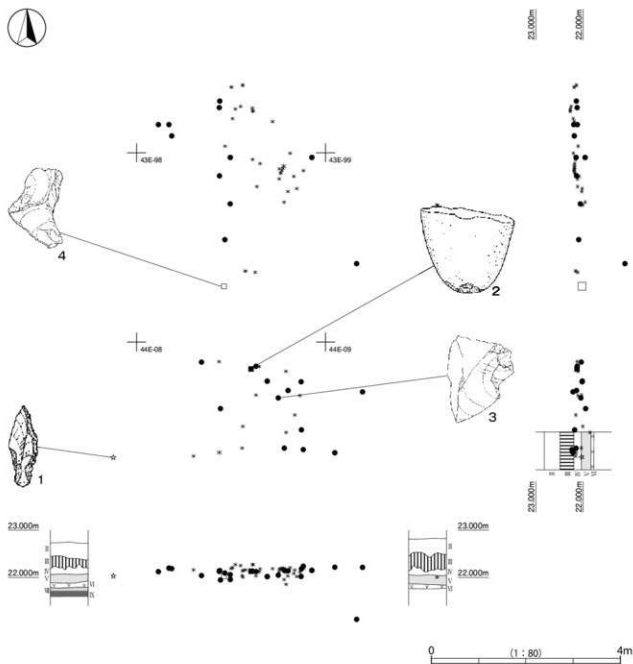
22 43E-67-1005
43E-12 140
Co 170.048

第57図 43E-Aフロッック出土石器(4)

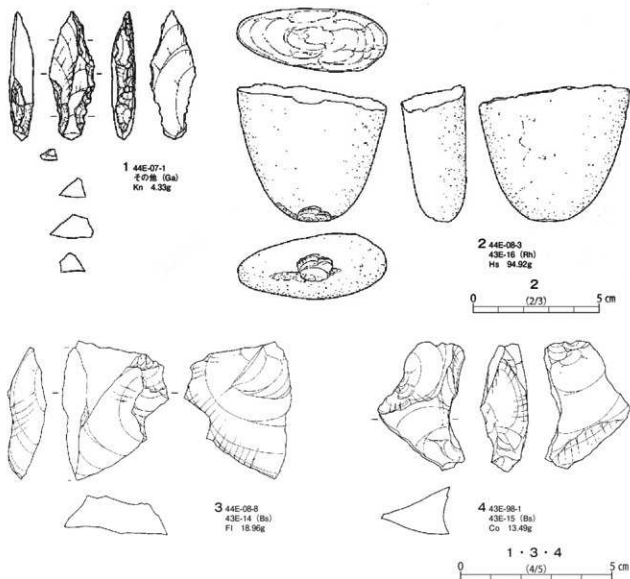




第58図 43E-Aブロック出土石器(5)



第59図 43E-Bブロック器種別分布図



第61図 43E-Bブロック出土石器

第25表 43E-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
43E-14	Bs															6				6	49.48	
43E-15	Bs															4			1	5	43.14	
43E-16	Rh													1						1	94.92	
その他Ga	Ga	1														6				7	9.57	
その他Bs	Bs															9				9	14.08	
その他Si	Si															1				1	0.88	
合 計		1												1	26				1	29	212.07	

第26表 43E-Bブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
ガラス質 黒色安山岩	Ga	1														6					7	9.57
流紋岩	Rh													1						1	94.92	
黒色頁岩	Bs															19			1	20	106.7	
粘板岩	Sl															1				1	0.88	
合 計		1												1		26			1	29	212.07	

第27表 43E-Bブロック礫母岩別石器組成表

母岩番号	石材	個数	重量 (g)
43ER-4	Rh	5	76.82
43ER-5	Rh	2	50.79
43ER-6	Sa	2	211.15
43ER-7	Sa	2	60.98
43ER-8	Ch	5	30.37
43ER-9	Ch	2	16.81
43ER-10	Rh	1	99.93
43ER-11	Rh	1	152.79
43ER-12	Rh	1	38.64
43ER-13	Rh	1	55.42
43ER-14	Rh	1	63.42
43ER-15	Sa	1	69.49
43ER-16	Sa	1	193.46
43ER-17	Sa	1	168.26
その他RRh	Rh	5	25.59
その他RCh	Ch	15	64.65
その他Rsa	Sa	1	5.67
合 計		47	1384.24

第28表 43E-Bブロック礫石材別石器組成表

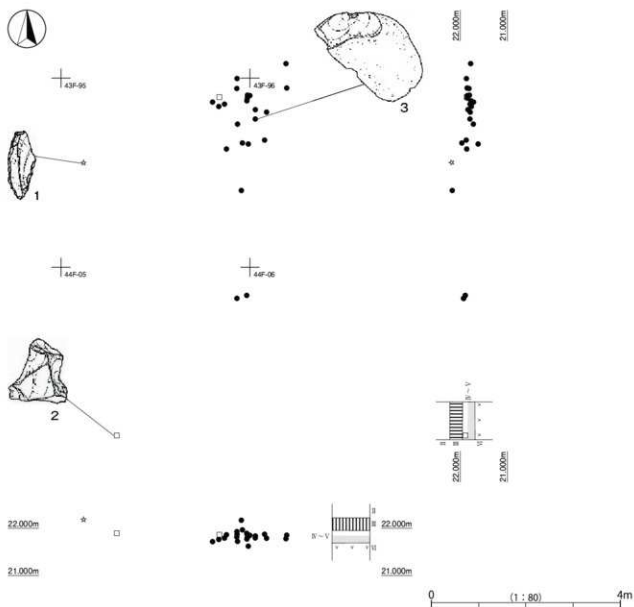
石材	石材	個数	重量 (g)
流紋岩	Rh	17	563.4
砂岩	Sa	8	709.01
チャート	Ch	22	111.83
合 計		47	1384.24

7 44E-Aブロック (第67・68図、第31～34表、図版5・13・26)

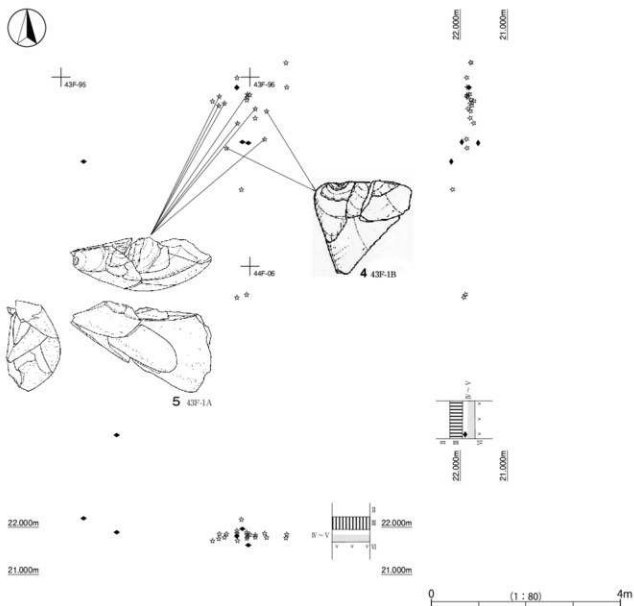
遺跡の中央部南側、44E-44・54・64グリッドに分布する。5.0 m × 4.0 mの範囲から石器10点、礫3点、総計13点が出土した。出土層位は第1黒色帯のV層で、0.35 mの高低差をもって包含される。

石器器種は、剥片・原石で構成され、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石A・砂岩・チャートで構成され、チャートが主体である。礫石材は流紋岩のみである。

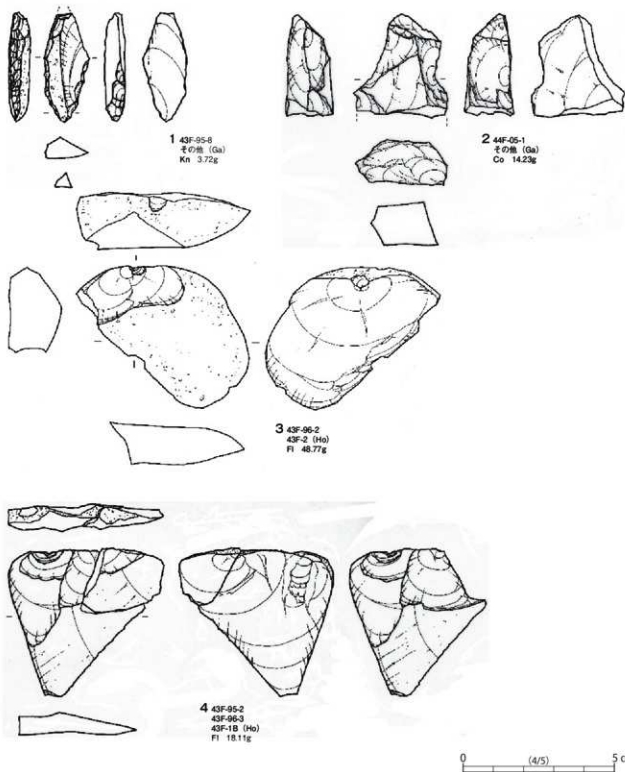
1・2はチャートの剥片である。3は砂岩の原石である。



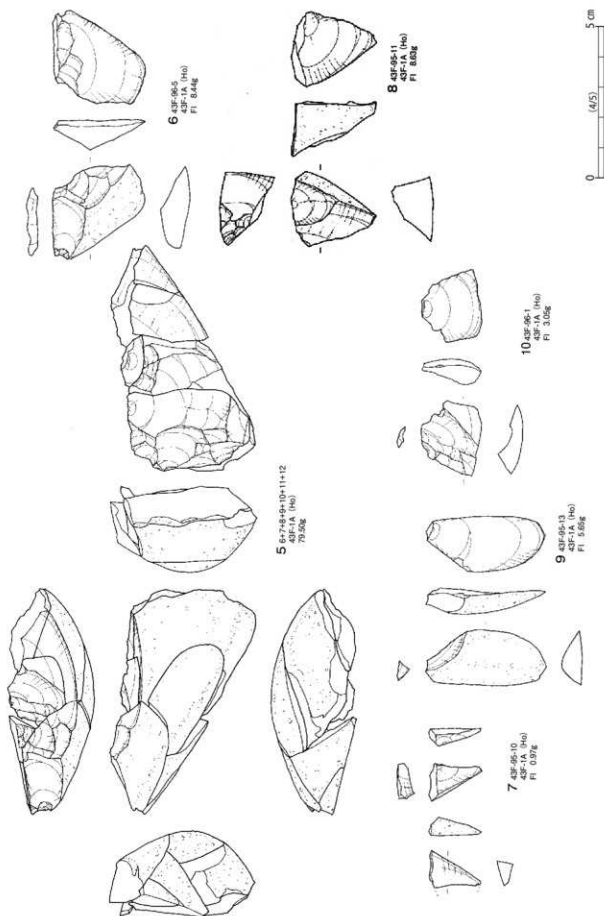
第62図 43F-Aブロック器種別分布図



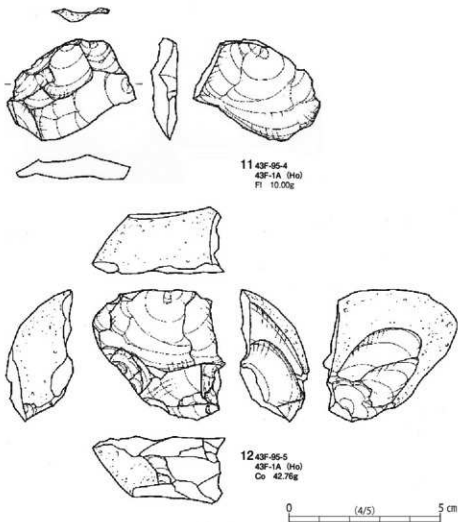
第63図 43F-Aブロック石材別分布図



第64図 43F-Aブロック出土石器(1)



第65図 43F-Aブロック出土石器 (2)



第66図 43F-Aブロック出土石器(3)

第29表 43F-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
43F-1	Ho															17			1	18	103.81	
43F-2	Ho															1				1	48.77	
その他Ga	Ga	1														2			1	4	22.09	
その他Bs	Bs															1				1	1.46	
その他Ho	Ho															1				1	3.16	
合 計		1														22			2	25	179.29	

第30表 43F-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
ガラス質 黒色安山岩	Ga	1														2			1	3	22.09	
黒色頁岩	Bs															1				1	1.46	
ホルンフェ ルス	Ho															19			1	19	155.74	
合 計		1														22			2	25	179.29	

第31表 44E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
44E-1	Ch															1					1	17.84
44E-2	Ch															1					1	50.44
44E-3	Sa																			1	1	675
44E-4	Sa																			1	1	110.21
44E-5	Ch															1					1	4.83
その他ObA	ObA															1					1	1.78
その他Ch	Ch															4					4	2.28
合 計																8				2	10	862.38

第32表 44E-Aブロック石材別石器組成表

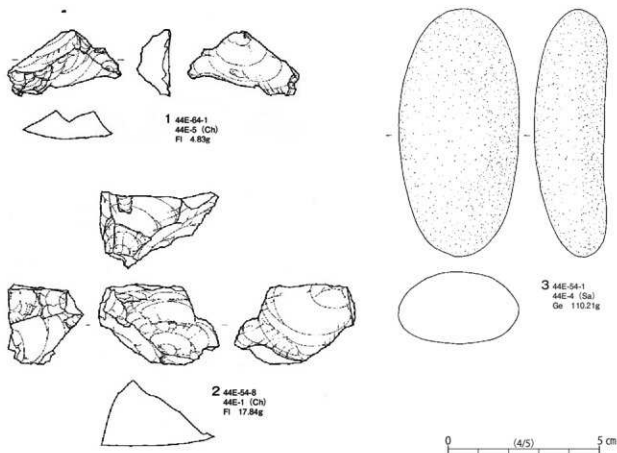
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石	ObA															1					1	1.78
砂岩	Sa																			2	2	785.21
チャート	Ch															7				7	7	75.39
合 計																8				2	10	862.38

第33表 44E-Aブロック礫母岩別石器組成表

母岩番号	石材	個数	重量 (g)
44ER-1	Rh	1	201.65
44ER-2	Rh	2	37.57
合 計		3	239.22

第34表 44E-Aブロック礫石材別石器組成表

石材	石材	個数	重量 (g)
流紋岩	Rh	3	239.22
合 計		3	239.22



第67図 44E-Aブロック出土石器

4 第4文化層

第4文化層の石器群は、石器165点、礫6点、総計171点が出土し、4か所の石器集中で構成される。いわゆる砂川期の石器群と推定される。この時期に特有とされる上ケ屋型彫器が多数出土している。ブロック間接合はない。

第4文化層の石器器種は、ナイフ形石器・尖頭器・搔器・彫器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・石刃・剥片・砕片・石核・原石で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石A・B、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・頁岩・黒色頁岩・嶺岡産珪質頁岩・凝灰岩・チャート・ホルンフェルス・玉髄・粘板岩で構成され、玉髄が主体である。

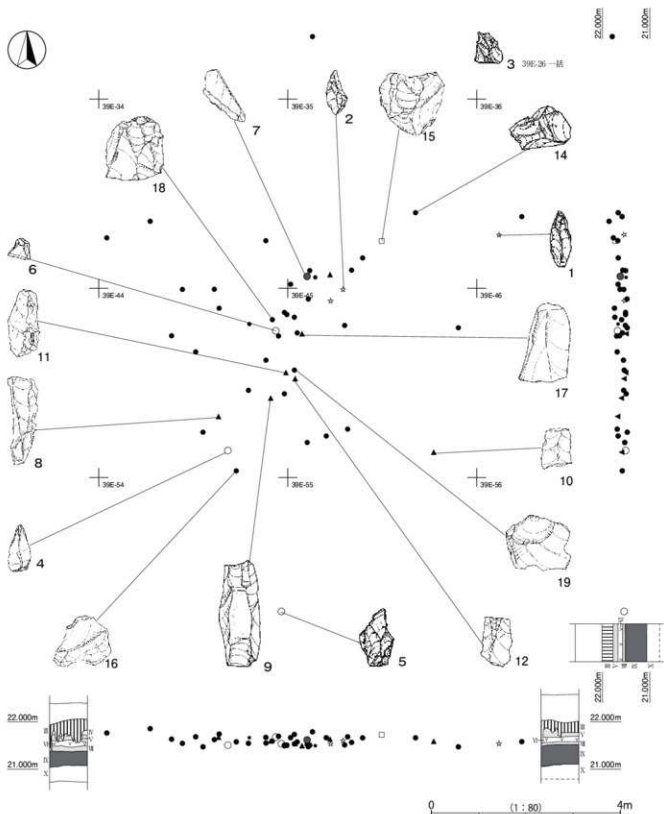
なお、本文化層の石器群は、第5文化層や第6文化層の石器群と重なり合っており、石器群の内容から3つの文化層に分けている。

1 39E-Aブロック（第69～73図、第35・36表、図版2・5・6・14・23・26）

遺跡の中央部北側、39E-25・26・34～36・38・44・45・48・49・54、39F-30グリッドに分布する。120m×88mの範囲から57点の石器が出土したが、中心は8.8m×5.8mである。出土層位はⅢ層下部～Ⅵ層で、0.76mの高低差をもってⅢ層下部を中心に包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・彫器・二次加工のある剥片・石刃・剥片・砕片・石核で、剥片が主体で、ナイフ形石器と石刃がこれに次ぐ。石器石材は、ガラス質黒色安山岩・頁岩・ホルンフェルス・玉髄で構成され、玉髄が主体である。玉髄の39E-1～4・27・その他が39E-Dブロックと39E-1・2が39E-A・D、40E-Aと母岩を共有する。

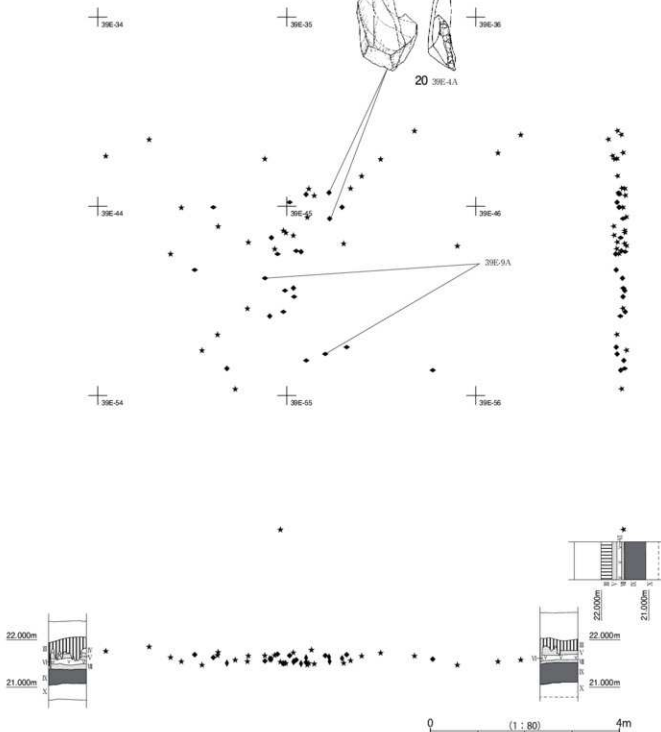
1・3は玉髄、2は頁岩のナイフ形石器である。1は縦長剥片を縦位に用い、打面を基部として、表面左側縁と裏面右側縁下部に調整加工を行っている。形状は二側縁加工である。2は右上半部を欠損するが、縦長剥片を縦位に用い、先端部を基部として、表面左側縁と裏面右側縁下部に調整加工を行っており、形状は二側縁加工と考えられる。3は下半部を欠損するため、形状は不明だが、縦長剥片を縦位に用い、打面を基部として、右側縁に調整加工を行っている。4～6は上ケ屋型彫器である。4は頁岩で縦長剥片あるいは石刃の末端の両側縁に細かい調整加工を行って、左側から加撃して、刃部を作り出している。5は玉髄で縦長剥片あるいは石刃の末端の両側縁に細かい調整加工を行っている。刃部作出の加撃がみられないことから、母型（ブランク）と考えられる。6は玉髄で縦長剥片あるいは石刃の打面側の両側縁に細かい調整加工を行っている。下半の大半を欠損している。刃部作出の加撃がみられないことから、母型（ブランク）と考えられる。7は頁岩の二次加工のある剥片である。石刃の正面左側縁、裏面右側縁の一部に調整加工を行っている。8～12は石刃で、8は玉髄、9は頁岩、10～12はガラス質黒色安山岩である。8・9は両設打面、10～12は単設打面の石核から剥離されたものと考えられる。8は表面右側縁の一部、裏面右側縁に微細な剥離痕がみられる。11は表面の稜の両方向に細かい剥離痕がみられ、いわゆる稜付石刃である。13はガラス質黒色安山岩の石刃状の縦長剥片、14・16は玉髄の不定形な剥片である。15は玉髄の石核で、厚みのある剥片を素材として、求心的な剥離作業により、小型で不定形な剥片を剥離している。17～22は頁岩の石器である。17は石刃で下半部を欠損する。18・19は不定形な剥片である。20（接合資料39E-4A）は頁岩のナイフ形石器と石刃の接合資料である。22→21に順に剥離している。21



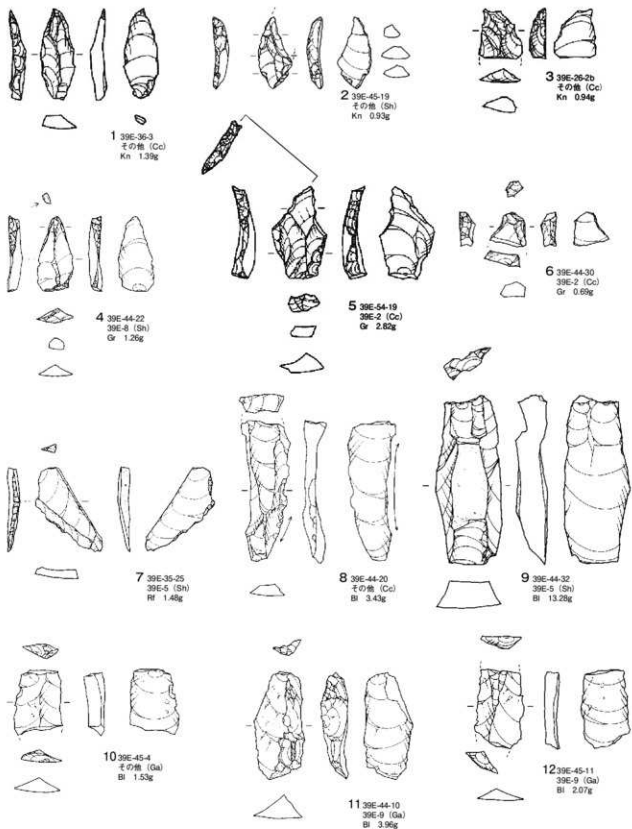
第69図 39E-Aブロック器種別分布図



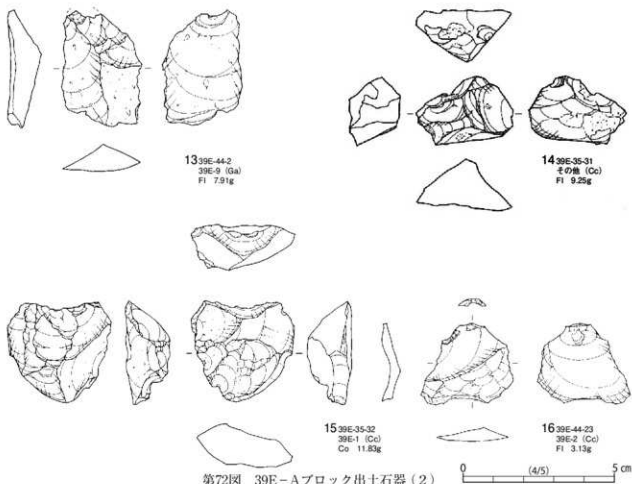
22,000m
21,000m



第70図 39E-Aブロック石材分布図



第71図 39E-Aブロック出土石器 (1)



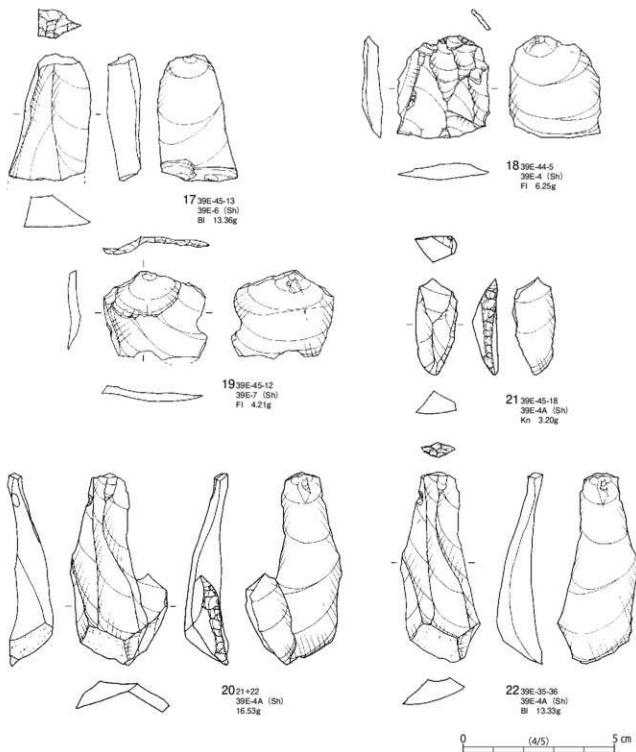
第72図 39E-Aブロック出土石器(2)

第35表 39E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
39E-1	Cc											1				9		1	1		12	33.82
39E-2	Cc							2								12					14	16.9
39E-3	Cc															1					1	0.14
39E-4	Sh	1										1				1					3	22.78
39E-5	Sh									1	1										2	14.76
39E-6	Sh										1										1	13.36
39E-7	Sh															1					1	4.21
39E-8	Sh							1													1	1.26
39E-9	Ga											2				5					7	16.69
39E-27	Cc															1					1	2.55
その他Ga	Ga											1				5					6	4.52
その他Sh	Sh	1										1									1	0.93
その他Cc	Cc	2									1					3		1			7	16.04
合 計		4						3		1		8				38		2	1		57	147.93

第36表 39E-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量
ガラス質 黒色安山岩	Ga											3				10					13	21.21
頁岩	Sh	2						1		1		3				2					9	57.3
玉髓	Cc	3						2			2					26		2	1		35	69.42
合 計		6						3		1		8				38		2	1		66	147.93



第73図 39E-Aブロック出土石器(3)

は石刃を縦位に用い、末端を基部とし、右側縁に調整加工を行った一側縁加工のナイフ形石器である。上部を欠損する。22は石刃である。

2 39E-Dブロック (第74～76図、第41・42表、図版2・5・14・26)

遺跡の中央部北側、39E-17・18・28・38・39・48F-30グリッドに分布する。8.0m×6.2mと3.0m×1.8mの2か所の範囲から29点の石器が出土した。出土層位はⅢ層下部～Ⅴ層で、0.36mの高低差をもって包含される。

石器器種は、石刃・剥片で、剥片が主体である。石器石材は、頁岩・玉髄で構成され、玉髄が主体である。玉髄の39E-1～4・27・その他が39E-Dブロックと39E-1・2が39E-A・D、40E-Aと母岩を共有する。

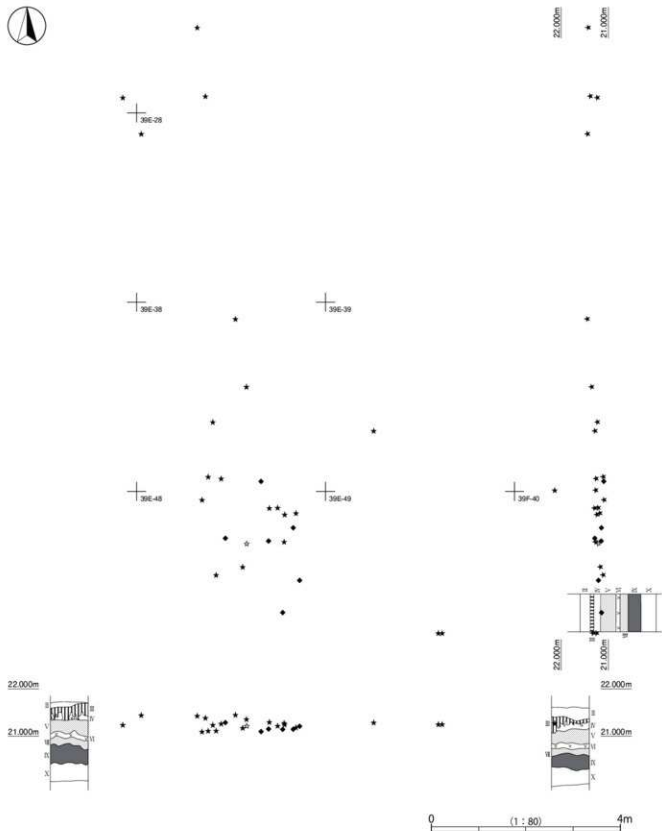
1・2は玉髄、3はホルンフェルスのナイフ形石器である。1は両設打面の石核から剥離された石刃を縦位に用い、打面を基部として、右側縁下部に調整加工を行っている。先端を欠損する。2は横長剥片を横位に用い、左側縁に調整加工を行っており、形状は一側縁加工である。4は頁岩の石刃である。5は頁岩、6～9は玉髄の剥片である。7は打面再生剥片の可能性があり、8は下半部を欠損する。

3 40E-Aブロック (第77～82図、第37～40表、図版6・15・25)

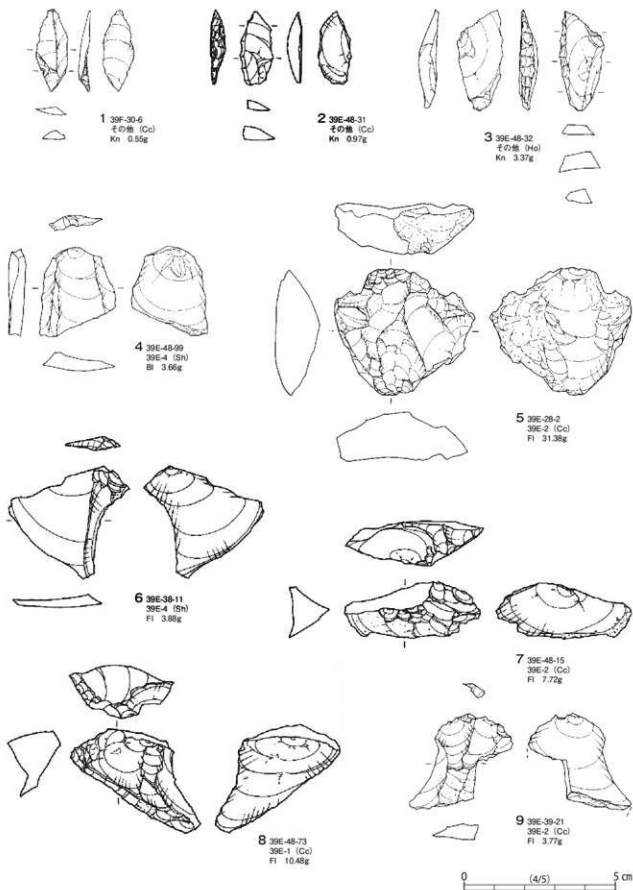
遺跡の中央部北側、39E-93～95・04・05・14・15グリッドに分布する。11.0m×7.0mの範囲から石器52点、礫2点、総計54点が出土した。出土層位はⅢ層で、0.36mの高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・尖頭器・搔器・彫器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・剥片・砕片・石核・原石で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・頁岩・嶺岡産珪質頁岩・凝灰岩・チャート・玉髄で、玉髄が主体である。礫石材は、流紋岩・ホルンフェルスである。玉髄の39E-1～4・27・その他が39E-Dブロックと39E-1・2が39E-A・D、40E-Aと母岩を共有する。

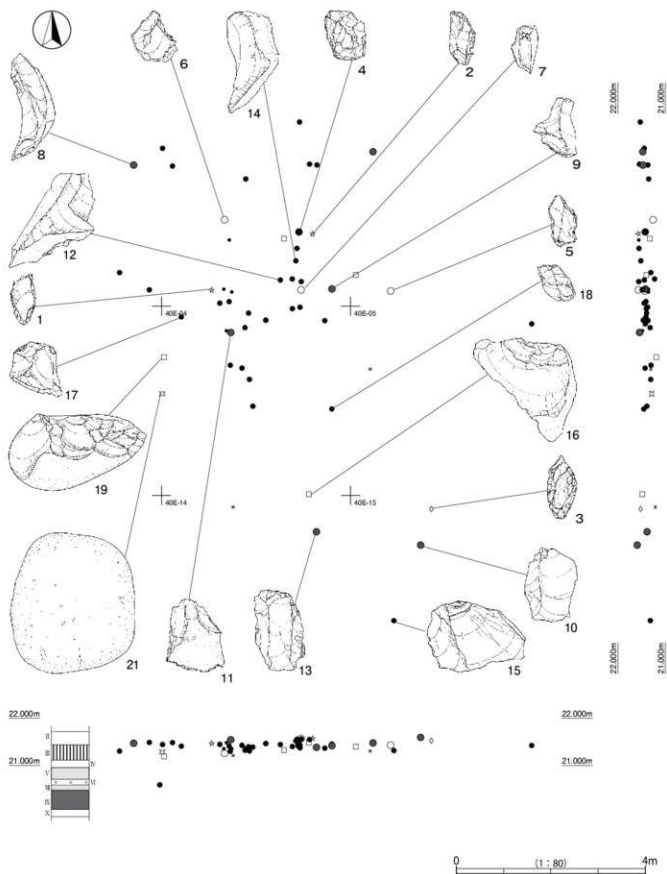
1は頁岩、2はチャートのナイフ形石器である。1は石刃の打面を基部として、左側縁と右側縁下部に細かい調整加工を行っている。上半部を欠損するが、形状は二側縁加工である。2は石刃の打面を基部として、先端部を斜めに切るような調整加工と右側縁に調整加工を行っている。裏面右側縁上部に細かい剥離痕がみられる。3はチャートの尖頭器である。石刃の打面を基部として、両面の周辺に比較的大きな調整加工を行っている。4は玉髄の搔器で縦長剥片の打面側に急角度の調整加工を行っている。5は嶺岡産珪質頁岩、6・7は玉髄の彫器である。5は左側縁と右側縁上部、7は左側縁上部と右側縁に急角度で細かい調整加工を行っている。5は刃部作出の加撃がみられないことから、母型(ブランク)と考えられる。6は右側から加撃して、刃部を作出している。7は切断剥片の裏面の右側上部から加撃して、大きな刃部を作出している。裏面右側縁下部に細かい剥離痕がみられる。8・9は頁岩の二次加工のある剥片である。8は石刃の末端と右側縁に調整加工を行っている。9は不定形な剥片の末端に細かい調整加工を行っている。10はチャート、11は凝灰岩の微細な剥離痕のある剥片である。10は表面左側縁と裏面両側縁に微細な剥離痕がみられる。11は表面の左側縁から末端にかけてと右側縁上部、裏面右側縁上部に微細な剥離痕がみられる。12・14は凝灰岩、13はチャート、15・16はガラス質黒色安山岩、17・18は玉髄の剥片である。18は右側縁下部に細かい剥離痕がみられることから、微細な剥離痕のある剥片とした方が良いか



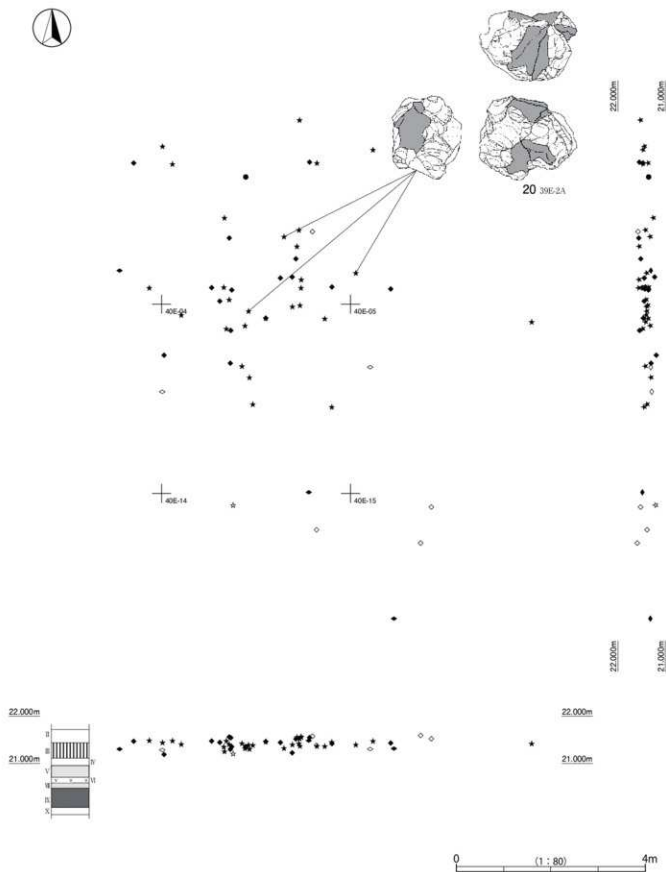
第75図 39E-Dブロック石材別分布図



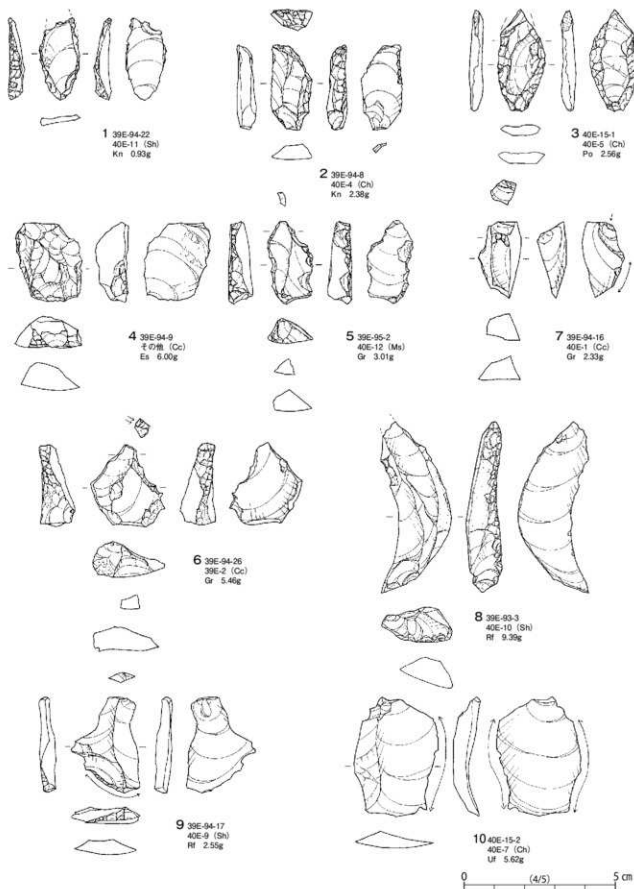
第76図 39E-Dブロック出土石器



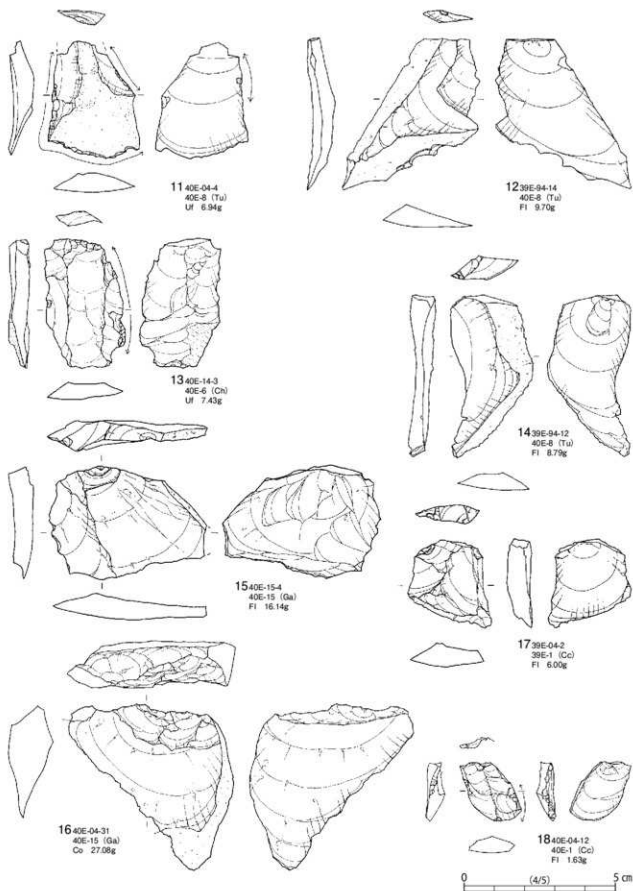
第77図 40E-Aブロック器種別分布図



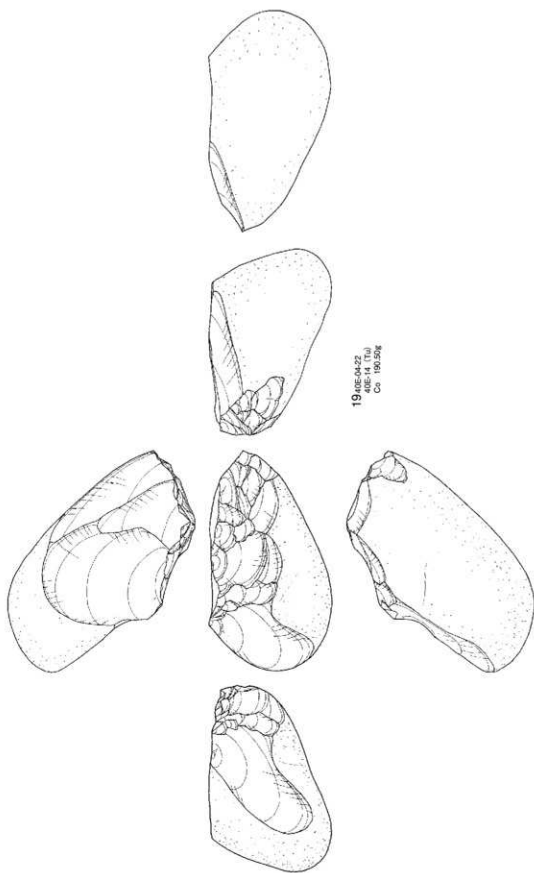
第78図 40E-Aブロック石材別分布図



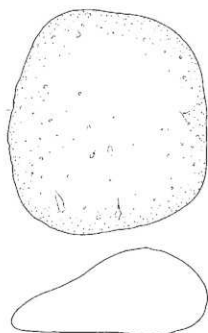
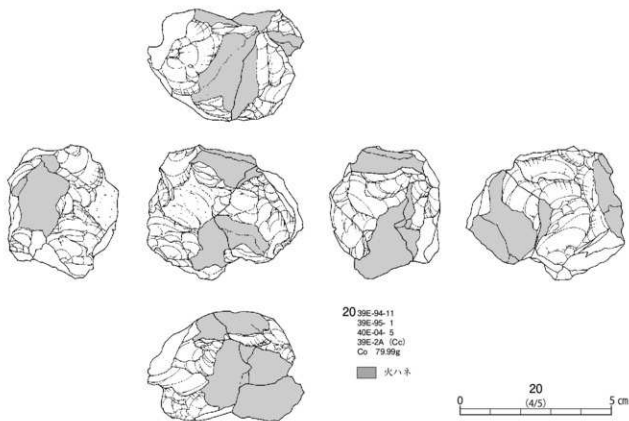
第79図 40E-Aブロック出土石器(1)



第80図 40E-Aブロック出土石器(2)



第81図 40E-Aフロック出土石器 (3)



第37表 40E-Aブロック礫母岩別石器組成表

母岩番号	石材	個数	重量 (g)
その他RRh	Rh	1	4.75
その他Rho	Ho	1	13.36
合 計		2	18.11

第38表 40E-Aブロック礫石材別石器組成表

石材	石材	個数	重量 (g)
流紋岩	Rh	1	4.75
ホルンフェルス	Ho	1	13.36
合 計		2	18.11

第82図 40E-Aブロック出土石器 (4)

第39表 40E-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
39E-1	Cc															2					2	7.00
39E-2	Cc							1								8		1	2		12	94.04
40E-1	Cc							1		1						7					9	8.68
40E-4	Ch	1																			1	2.38
40E-5	Ch			1																	1	2.56
40E-6	Ch										1										1	7.43
40E-7	Ch										1										1	5.62
40E-8	Tu										1					2					3	25.43
40E-9	Sh									1											1	2.55
40E-10	Sh									1											1	9.39
40E-11	Sh	1																			1	0.93
40E-12	Ms							1													1	3.01
40E-13	Ms															1					1	5.2
40E-14	Tu																		1		1	190.5
40E-15	Ga															1			1		2	43.22
40E-16	Rh																			1	1	301.73
その他ObB	ObB															1					1	0.1
その他To	To															1					1	3.2
その他Sh	Sh															4		2			6	2.76
その他Cc	Cc					1										3		1			5	9.58
合 計		2		1		1		3		3	3					30		4	4	1	52	728.31

第40表 40E-Aブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石B	ObB															1					1	0.1
ガラス質 黒色安山岩	Ga															1			1		2	43.22
トロトロ石	To															1					1	3.2
流紋岩	Rh																			1	1	301.73
頁岩	Sh	1								2						4		2			9	15.63
頁岩(嶺岡)	Ms							1								1					2	8.21
凝灰岩	Tu										1					2			1		4	215.93
チャート	Ch	1		1							2										4	17.99
玉髄	Cc					1		2		1						20		2	2		28	119.01
合 計		2		1		1		3		3	3					30		4	4	1	52	725.31

第41表 39E-Dブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
39E-1																6					6	25.10
39E-2	Cc															9					9	52.68
39E-3	Cc															3					3	17.07
39E-4	Sh															5					6	10.87
39E-27	Cc															1					1	1.88
その他Ho	Ho	1																			1	3.37
その他Cc	Cc	2														1					3	1.74
合 計		3										1				25					29	112.71

第42表 39E-Dブロック石材別石器組成表

石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
頁岩	Sh											1				5					6	10.87
ホルンフェルス	Ho	1																			1	3.37
玉髄	Cc	2														20					22	98.47
合 計		3										1				25					9	112.71

もしれない。

16 はガラス質黒色安山岩、19 は凝灰岩、20 は玉髓の石核である。16 は大型の剥片の両面の上部から不定形な剥片を剥離している。19 は拳大の扁平礫の上部を剥離して打面を作り、周縁を打点移動しながら、不定形な剥片を剥離している。20 は打面と作業面を頻繁に転移しながら、不定形な剥片を剥離している。全体に火ハネの痕跡がみられる。21 は流紋岩の拳大の原石である。

4 46D-Aブロック (第83～86図、第43～46表、図版6・16・23・25)

遺跡の南側、46D - 59・69・79・89 グリッドに分布する。11.4 m × 2.6 m の範囲から27 点の石器が出土したが、中心は5.2 m × 2.6 m である。出土層位はⅢ部で、0.41 m の高低差をもって包含される。

石器器種は、ナイフ形石器・二次加工のある剥片・剥片・石核で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石・頁岩・ホルンフェルス・玉髓で構成され、玉髓が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩である。

1 は玉髓のナイフ形石器である。石刃の末端を基部として、左側縁と右側縁下部に細かい調整加工を行っており、形状は二側縁加工である。右側縁上部の刃部に微細な剥離痕がみられる。2 は栃木高原山産黒曜石の二次加工のある剥片である。不定形な剥片の右側縁上半部に調整加工を行っている。末端の一部を欠損する。3・4 は玉髓の剥片である。5・6 は玉髓の二次加工のある剥片である。5 は末端の右側と右

第43表 46D-Aブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
46D-1	Cc															6					6	33.96
46D-2	Cc															2					2	23.19
46D-3	Cc									1						6					7	38.45
46D-4	Cc															2					2	13.18
46D-5	Cc															1					1	7.08
46D-6	Cc	1																			1	8.25
46D-7	Cc																		1		1	67.8
46D-8	ObA									1											1	9.87
その他Sh	Sh															1					1	0.68
その他Ho	Ho															2					2	4.91
その他Cc	Cc															3					3	5.18
合 計		1								2						23			1		27	212.55

第44表 46D-Aブロック石材別石器組成表

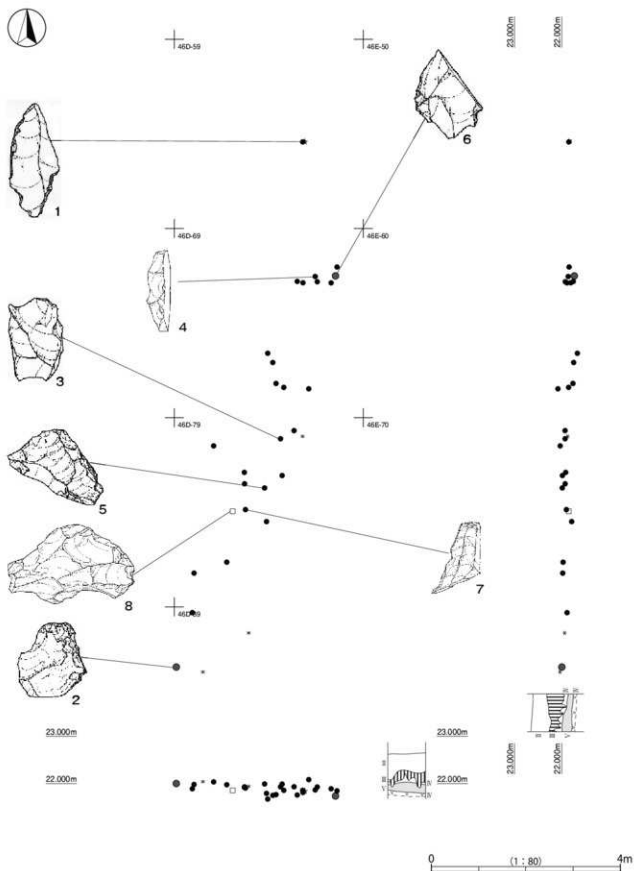
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fi	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石	ObA									1											1	9.87
頁岩	Sh															1					1	0.68
ホルンフェルス	Ho															2					2	4.91
玉髓	Cc	1								1						20			1		23	197.09
合 計		1								2						23			1		27	212.55

第45表 46D-Aブロック礫母岩別石器組成表

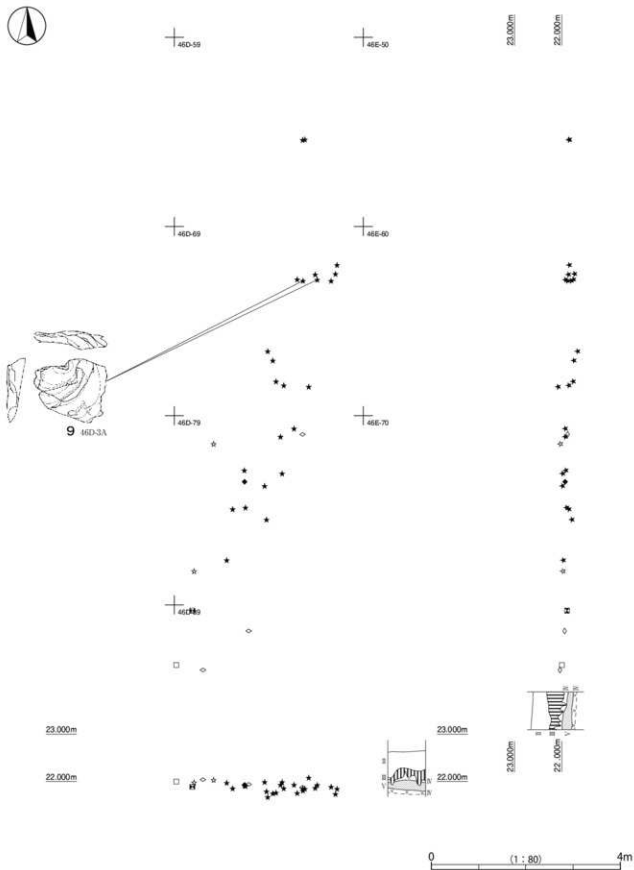
母岩番号	石材	個数	重量 (g)
46DR-1	Rh	1	179.56
46DR-2	Rh	1	95.69
46DR-3	Rh	1	18.47
その他Rsa	Sa	1	1.72
合 計		4	295.44

第46表 46D-Aブロック礫石材別石器組成表

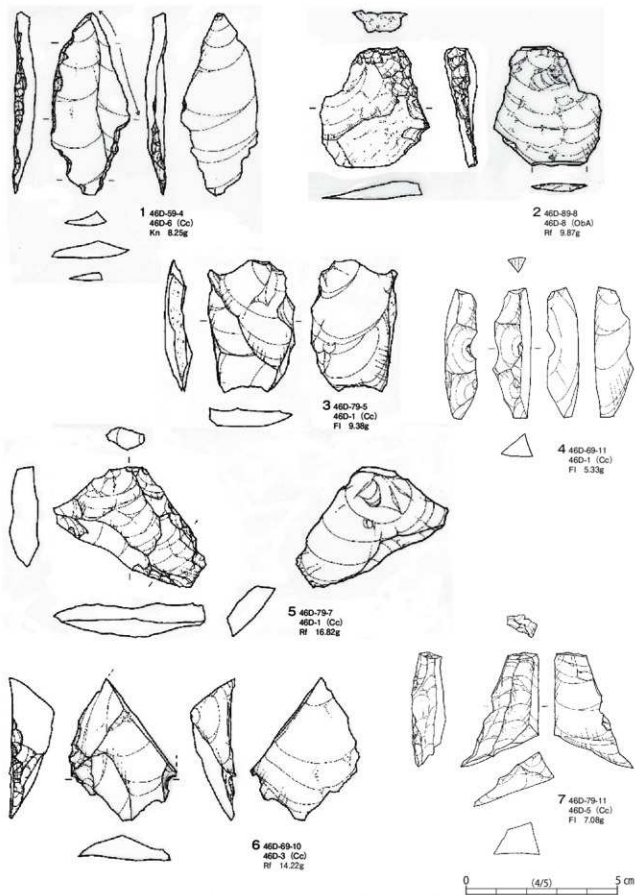
石材	石材	個数	重量 (g)
流紋岩	Rh	3	293.72
砂岩	Sa	1	1.72
合 計		4	295.44



第83図 46D-Aブロック器種別分布図

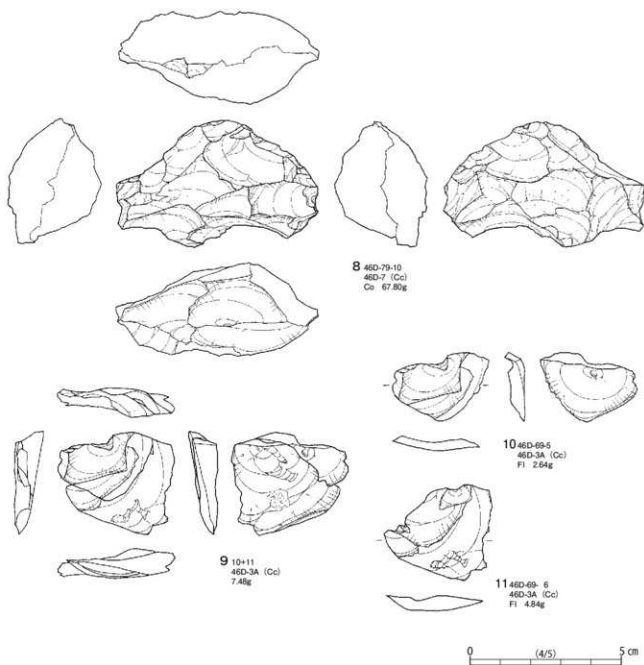


第84図 46D-Aブロック石材別分布図



第85図 46D-Aブロック出土石器(1)

側縁に調整加工を行っている。6は両側縁の下部の一部に調整加工を行っている。右側の大半を欠損している。7は玉髓の石刃あるいは石刃状の縦長剥片で末端に石核の底面と考えられる剥離面を残している。8は玉髓の石核である。比較的大形の横長剥片を素材とし、両面で求心的な剥離作業を行っている。9（接合資料 40D-3A）は玉髓の剥片2点の接合資料である。10→11の順に剥離している。



第86図 46D-Aブロック出土石器（2）

5 第5文化層

第5文化層の石器群は、石器180点、礫21点、総計201点が出土し、1か所の遺物集中で構成される。東内野型の有樋尖頭器を特徴とする石器群である。上下の文化層に対しては石器群の様相が異なる一群であるため、これらを区別する目的で文化層を設定した。第4文化層の39E-Aブロックと重複しており、北側に分布している。(第87図)

石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・削片・剥片・砕片で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・頁岩・嶺岡産珪質頁岩・凝灰岩・チャート・ホルンフェルスで構成され、頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩・凝灰岩で、流紋岩が半数を占める。

1 39E-Bブロック (第88～92図、第47～50表、図版2・17・23・27)

遺跡の中央部北側、39E-24～26・34～36・44～46・53～55・63～65グリッドに分布する。13.2m×9.4mの範囲から石器180点、礫21点、総計201点が出土した。南北に密集する地点が2か所あり、残りは散漫に分布しており、尖頭器は密集する地点から出土している。出土層位はⅡ層～Ⅲ層で、0.56mの高低差をもって包含される。

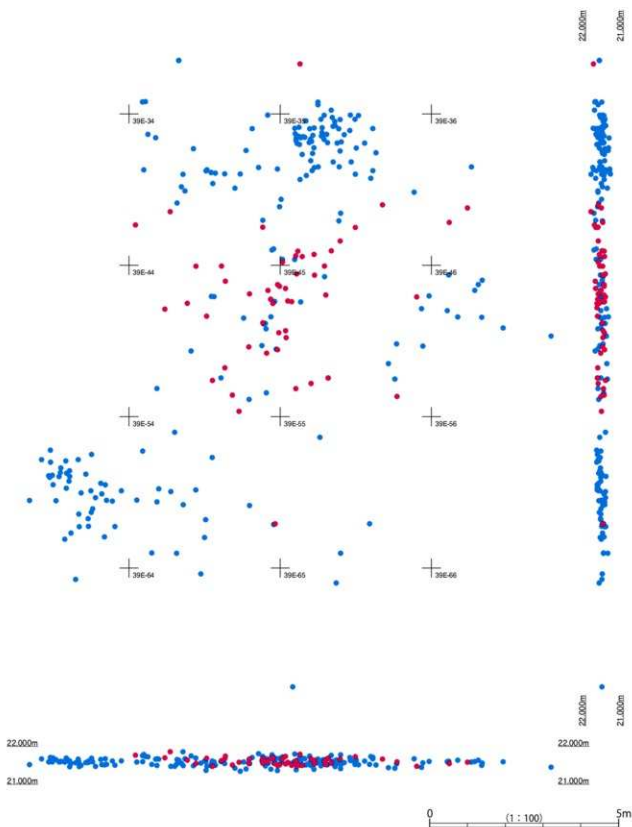
石器器種は、尖頭器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・削片・剥片・砕片で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石B・ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・頁岩・嶺岡産珪質頁岩・凝灰岩・チャート・ホルンフェルスで構成され、頁岩が主体である。礫石材は、流紋岩・砂岩・凝灰岩で、流紋岩が半数を占める。

1は頁岩、2は嶺岡産珪質頁岩、3は信州和田峠周辺産黒曜石の尖頭器である。1は石刃あるいは縦長剥片の打面を基部として、表面の全面に調整加工を行い、最終的に左側上部にファシットを行っている。いわゆる東内野型尖頭器である。2は両面の全面に調整加工を行っている。表面右側縁と裏面左側に比較的細かい最終調整を行っている。右上半部を欠損する。3は石刃あるいは縦長剥片の打面を基部として、表面の全面と裏面先端側に器体中央部に及ぶ調整加工を行っている。4～6・10は頁岩の東内野型尖頭器から作出された削片である。7～9・13は信州和田峠周辺産黒曜石で、7～9は剥片、13は二次加工のある剥片である。左側縁に調整加工を行っている。11・12・14～16は頁岩で、11・12・14・16は微細剥離痕のある剥片、15は剥片である。11は右側縁、12は表面左側縁と裏面右側縁上部、14は表面右側縁上部と裏面左側縁下部、16は裏面末端に微細な剥離痕がみられる。17はガラス質黒色安山岩、18は嶺岡産珪質頁岩、19はチャート、20は凝灰岩、21は頁岩の剥片である。22(接合資料39E-10A)は頁岩の剥片3点の接合資料である。尖頭器の調整剥片と考えられ、23→25の順に剥離している。26(接合資料39E-10B)は頁岩の剥片3点の接合資料である。尖頭器の調整剥片と考えられ、27→29の順に剥離している。

30(接合資料39E-11A)は頁岩の剥片2点の接合資料である。尖頭器の調整剥片と考えられ、31→32の順に剥離している。表面の大半に節理が残っている。33・34は30と同一母岩の剥片である。34は削片としてもいいかもしれない。



- 第5文化層 39E-Bブロック
- 第4文化層 39E-Aブロック



第87図 39E-B,Aブロック文化層別分布図

第47表 39E-Bブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
39E-10	Sh									1						33	2				36	20.88
39E-11	Sh									2						41		2			45	55.99
39E-12	Sh																1				1	4.89
39E-13	Sh			1																	1	4.43
39E-14	Sh																1				1	4.27
39E-15	Sh															1					1	1.82
39E-16	Sh																1				1	2.64
39E-17	Sh									1											1	5.07
39E-18	Sh															1					1	0.66
39E-19	Sh																1				1	0.55
39E-20	Sh															1					1	0.69
39E-21	Ch															1					1	5.5
39E-22	Ga															1					1	44.61
39E-23	Ms			1												9					10	17.42
39E-24	Ms															2					2	1.44
39E-25	Sh															1					1	8.02
39E-26	Tu															1					1	6.94
その他ObB	ObB			1						1						17					19	8.96
その他Ga	Ga															21		2			23	20.56
その他To	To															5					5	3.37
その他Sh	Sh															14		7			21	4.73
その他Ms	Ms															2					2	4.78
その他Ho	Ho															3		1			4	1.74
合 計				3						1	4					154	6	12			180	229.96

第48表 39E-Bブロック石材別石器組成表

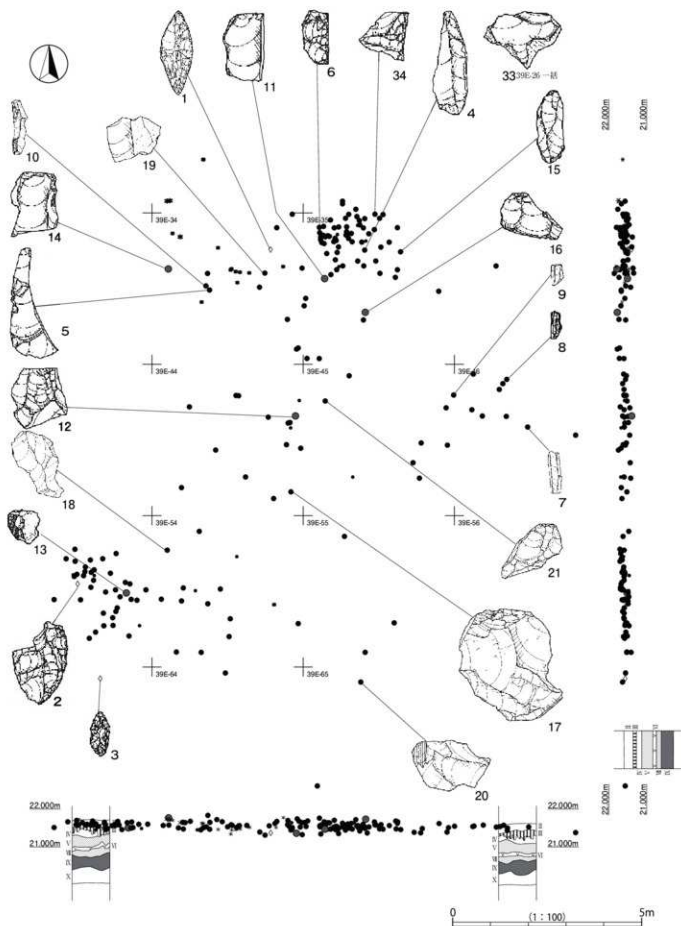
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量
黒曜石	ObB			1						1						17		2			21	8.95
ガラス質 黒色安山岩	Ga															21					21	65.17
トトロ石	To															5					5	3.37
頁岩	Sh			1							4					93	6	9			113	114.64
横岡産珪質 頁岩	Ms			1												13					14	23.64
凝灰岩	Tu															1					1	6.94
チャート	Ch															1					1	5.5
ホルンフェ ルス	Ho															3		1			4	1.74
合 計				3						1	4					154	6	12			180	229.96

第49表 39E-Bブロック礫母岩別石器組成表

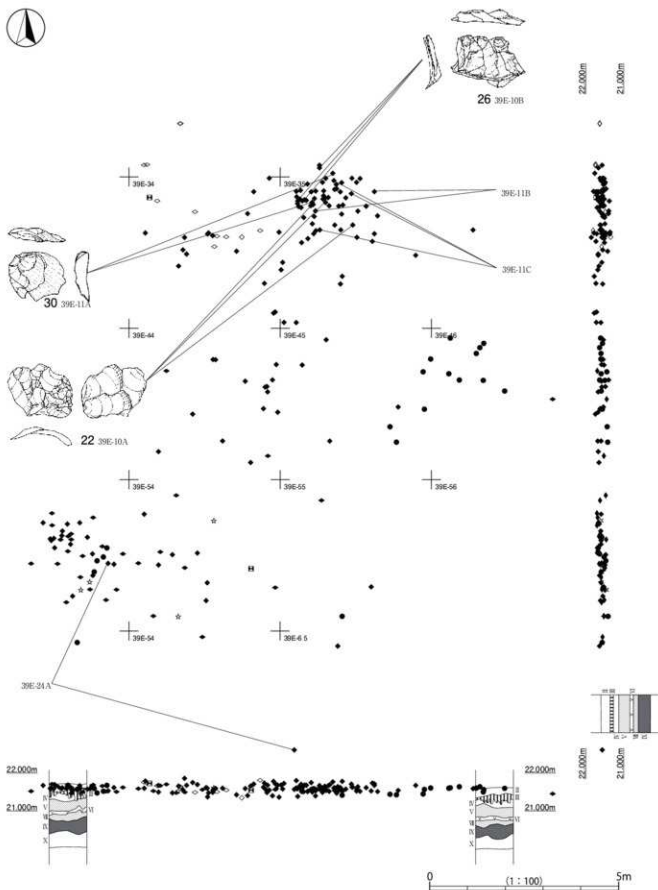
母岩番号	石材	個数	重量
39ER-1	Rh	4	124.48
39ER-2	Sa	3	96.11
39ER-3	Rh	1	208.66
39ER-4	Rh	1	447.62
39ER-5	Rh	1	165.46
39ER-6	Tu	1	338.12
39ER-7	Rh	1	139.48
39ER-8	Sa	1	141.67
39ER-9	Tu	1	128.05
39ER-10	Rh	1	83.31
39ER-11	Rh	3	62.98
その他RSa	Sa	1	3.07
その他RTu	Tu	2	6.4
合 計		21	1945.41

第50表 39E-Bブロック礫石材別石器組成表

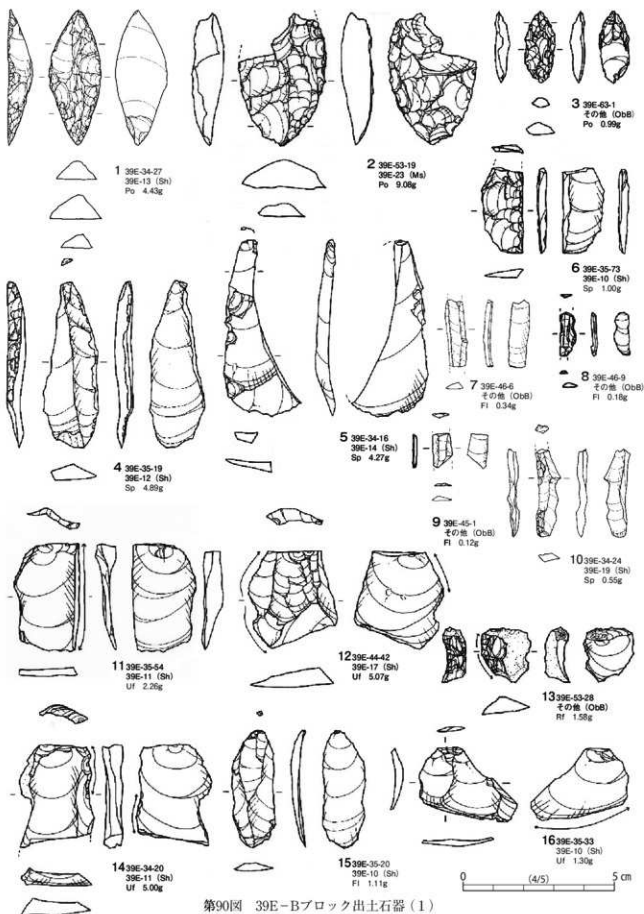
石材	石材	個数	重量
流紋岩	Rh	12	1231.99
砂岩	Sa	5	240.85
凝灰岩	Tu	4	472.57
合 計		21	1945.41



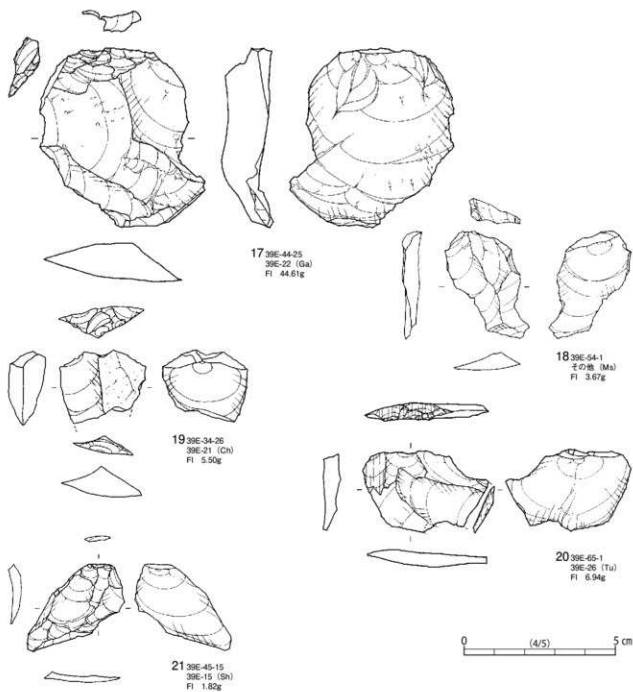
第88図 39E-Bブロック器種別分布図



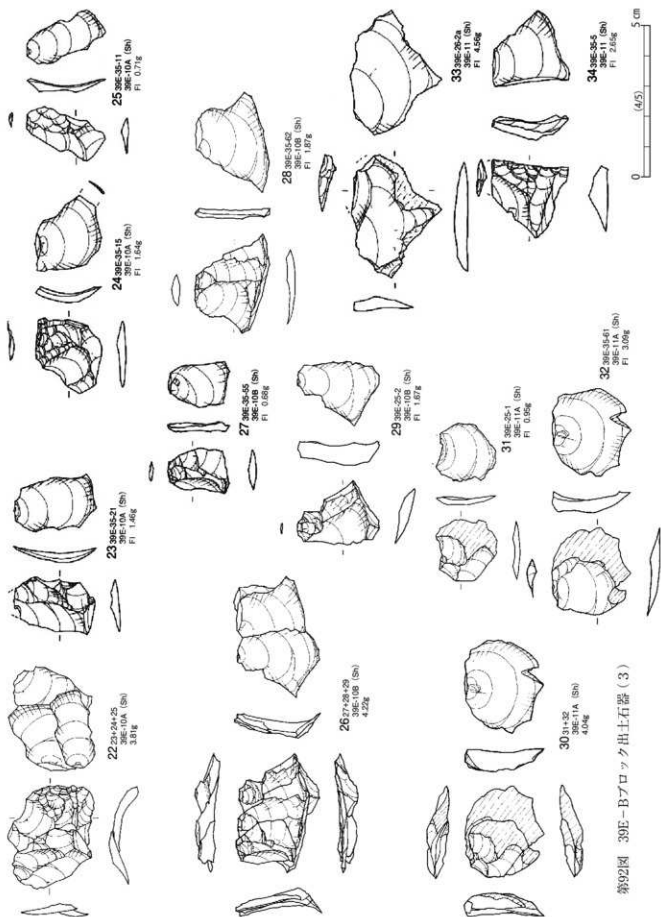
第89図 39E-Bブロック石材別分布図



第90図 39E-Bブロック出土石器(1)



第91図 39E-Bブロック出土石器(2)



第92図 39E-ブロンク出土石器 (3)

6 第6文化層

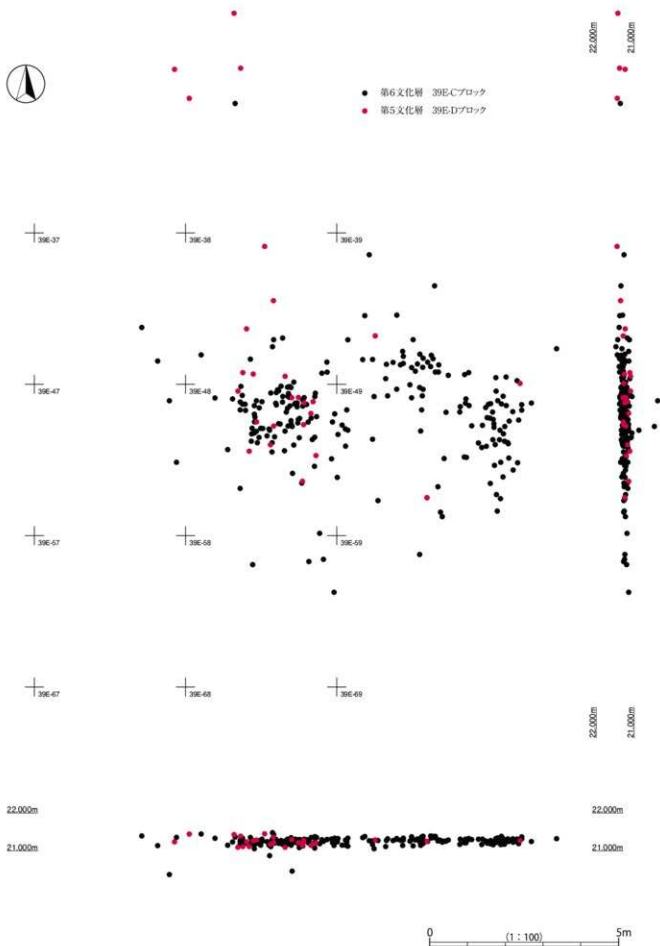
第6文化層の石器群は、石器213点、礫3点、総計216点が出土し、1か所の遺物集中で構成される。比較的大型の尖頭器を特徴とする土器出現期の石器群である。下の文化層に対しては石器群の様相が異なる一群であるため、これらを区別する目的で文化層を設定した。第4文化層の39E-Dブロックと重複しており、北側に分布している。(第93図)

1 39E-Cブロック (第94～107図、第51～54表、図版2・18～20・23・27・28)

遺跡の中央部北側、39E-17・18・37～39・47～49・58・59、39F-30・40グリッドに分布する。13.4m×11.4mの範囲から213点の石器が出土したが、中心は11.4m×9.8mである。東西に密集する地点が3か所あり、残りは散漫に分布している。出土層位はⅢ層～Ⅳ層下部で、最大で1.1mの高低差があるが、下層から出土した石器を除くとⅢ層を中心に0.43m～0.61mに包含される。

石器器種は、尖頭器・削器・彫器・二次加工のある剥片・微細剥離痕のある剥片・石刃・叩石・剥片・砕片・石核で、剥片が主体である。石器石材は、黒曜石A・B・G、ガラス質黒色安山岩・トロトロ石・流紋岩・頁岩・黒色頁岩・嶺岡産珪質頁岩・ホルンフェルスA～Eで構成され、ガラス質黒色安山岩が主体である。礫石材は、砂岩・凝灰岩である。

1～14はガラス質黒色安山岩の石器で、1～3は尖頭器である。1は表面の末端に自然面を残した横長剥片を横位に用い、表面の全面と裏面の右側上半に器体中央部に及ぶ調整加工を行っている。2は表面の右側に自然面を残した縦長剥片の打面を基部として、表面の左側縁及び末端と裏面の左側縁の一部に比較的小さい調整加工を行っている。先端部の一部を欠損している。3は横長剥片を横位に用い、表面の全周と裏面の左側縁及び右側縁の一部に調整加工を行っている。末端の一部を欠損している。4～6は削器で、4は縦長剥片の表面右側縁上部を除く全周に急角度の比較的大きな調整加工を行っている。尖頭器の未成品の可能性がある。5は器体中央で折断された大型の剥片の左側縁下部から末端にかけて急角度の比較的大きな調整加工を行っている。6は石刃を素材とし、表面の左側縁下部及び右側縁下半部と裏面左側縁上部に調整加工を行っている。7～10は剥片である。11～14は石核である。11は小型の円礫を素材とし、打面と作業面を入れ替えながら、不定形な剥片を剥離している。12は比較的大型の剥片を素材として、両面で不定形な剥片を剥離している。13は大型の剥片を素材として、12同様、両面で不定形な剥片を剥離している。14は半裁した礫の剥離面を打面として、右側縁縁部で小型の剥片を剥離している。15～37はホルンフェルスの石器で、15はホルンフェルスBの尖頭器である。表面の一部に自然面を残す横長剥片を素材として、表裏はほぼ全面に比較的大きな調整加工を行っている。16はホルンフェルスAで、横長剥片の右側面に両面から加撃して不定形な剥片を剥離している。17はホルンフェルスAの尖頭状の削器で、末端と右側縁に急角度の調整加工を行っている。18はホルンフェルスDの削器で先端から左側縁にかけてと両面の末端に比較的小さい調整加工を行っている。19～25はホルンフェルスAの石器で、19～21は尖頭器である。19は表面に自然面を残す横長剥片を素材として、表面のほぼ全面と裏面の左側縁から末端及び右側縁上部に大きな調整加工を行っている。20は横長剥片を素材として、両面のほぼ全面に器体中央部まで及ぶ大きな調整加工を行っている。21は横長剥片を素材として、表面の周辺と裏面の左側縁上部及び右側縁中央部に調整加工を行っている。下半部を欠損する。22(接合資料39E-36A)



第93図 39E-C,Dブロック文化層別分布図

は不定形な剥片3点の接合資料である。23→24→25の順に剥離している。26（接合資料39E-32A）はホルンフェルスの不定形な剥片2点・石核2点（1個体）の接合資料である。薄手の楕円盤を素材とし、上下両端から不定形な剥片を27→28の順に剥離している。30（接合資料39E-39A）はホルンフェルスCの石核2点の接合資料である。横長剥片を素材とした30から比較的大型の剥片を剥離し、その後、分割された31・32から不定形な剥片を剥離している。33はホルンフェルスDの横長剥片である。上部を欠損する。

34～36はホルンフェルスAの石器で、34・35は剥片である。36は横長剥片の右側縁で小型不定形な剥片を剥離している。37～39は信州和田峠周辺産の黒曜石である。37は尖頭器の先端部で、表面の全面と裏面の上部の一部に調整加工を行っている。38は板状の小型剥片の右側面を折面として刃部を作出している。いわゆるシレ氏の彫器の可能性がある。39は比較的厚みのある剥片を素材として、打面と作業面を入れ替えながら小型で不定形な剥片を剥離している。40・41は頁岩の石器で、40は剥片である。41は微細な剥離痕のある剥片で、石刃状の縦長剥片の両面の左側縁と両面の右側縁の一部に微細な剥離痕がみられる。末端を欠損する。42・43はトロトロ石の石刃で、42は2点が接合して1個体となる。表面に自然面を残し、比較的幅広い単設打面の石核から剥離されている。43は表面に自然面を残し、単設打面の石核から剥離されている。44は流紋岩の磨石である。比較的厚みのある楕円盤の周辺に敲打痕と左側縁上部に加撃によると思われる剥離痕、表面の一部と裏面全体に磨耗痕がみられる。

第51表 39E-Cブロック母岩別石器組成表

母岩番号	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
39E-28	Ga															2					2	8.39
39E-29	Ga															2					2	16.16
39E-30	Ga															2					2	12.23
39E-31	To											2									2	12.69
39E-32	Ho															3			1		4	202.55
39E-33	Sh															3					3	3.69
39E-34	Sh															1					1	7.66
39E-35	Rh													1							1	522.93
39E-36	HoA															3					3	43.8
39E-37	HoA															2					2	10.88
39E-38	HoB			1																	1	28.83
39E-39	HoC																		2		2	36.33
39E-40	HoD						1														1	66.24
39E-41	HoD															4					4	22.55
その他ObA	ObA															1					1	0.63
その他ObB	ObB			1				1								6			1		9	25.92
その他ObG	ObG															2					2	1.87
その他Ga	Ga			3			3									74			4		84	733.74
その他To	To												1			22		1			24	84.47
その他Rh	Rh															1					1	10.53
その他Sh	Sh									1	1					4					6	7.2
その他Bs	Bs															2					2	24.29
その他Ms	Ms															6					6	10.43
その他Ho	Ho															13		5			18	7.17
その他HoA	HoA			3			1			1						7			1		13	394.16
その他HoB	HoB															4					4	4.62
その他HoC	HoC															6					6	15.3
その他HoD	HoD															4					4	10.8
その他HoE	HoE															3					3	4.5
合 計				8			5	1		2	1	3		1		177		6	9		213	2330.56

第52表 39E-Cブロック石材別石器組成表

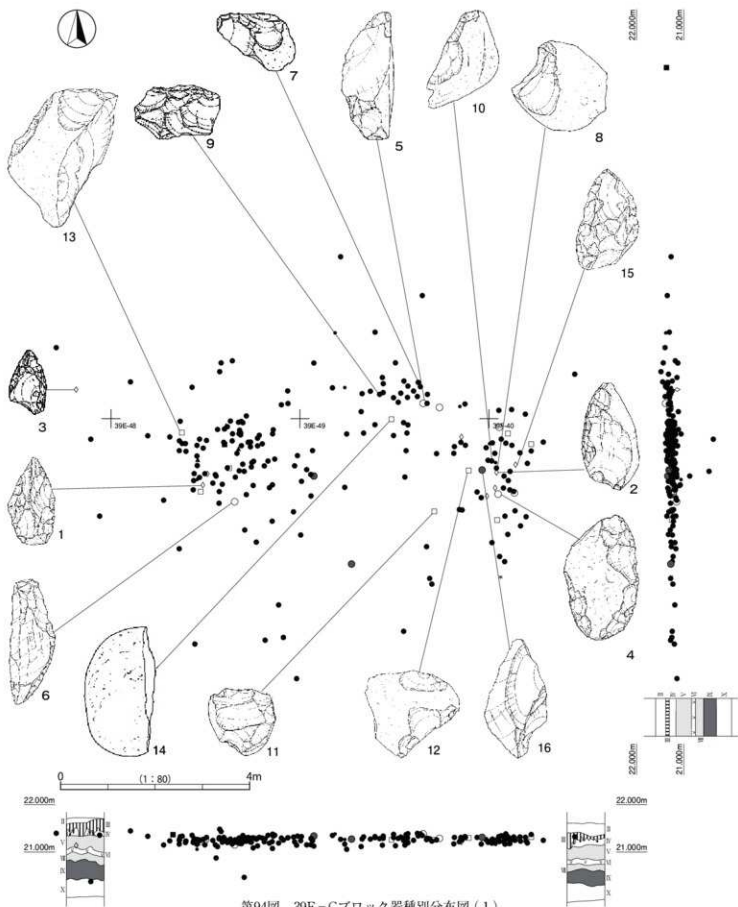
石材	石材	Kn	Tp	Po	Kp	Es	Ss	Gr	Pq	Rf	Uf	Bl	Ax	Hs	Uk	Fl	Sp	Ch	Co	Ge	合計	重量 (g)
黒曜石A	ObA															1				1	0.63	
黒曜石B	ObB			1				1								6			1	9	25.92	
黒曜石G	ObG															2				2	1.87	
黒色安山岩	Ga			3			3									80			4	90	770.52	
トトロ石	To										3					22		1		26	97.16	
流紋岩	Rh													1		1				2	533.46	
頁岩	Sh									1	1					8				10	18.55	
黒色頁岩	Bs															2				2	24.29	
横岡産珪質 頁岩	Ms															6				6	10.43	
ホルンフェ ルス	Ho															16		5	1	22	209.72	
ホルンフェ ルスA	HoA			3			1			1						12			1	18	448.84	
ホルンフェ ルスB	HoB			1												4				5	33.45	
ホルンフェ ルスC	HoC															6			2	8	51.63	
ホルンフェ ルスD	HoD						1									8				9	99.59	
ホルンフェ ルスE	HoE															3				3	4.5	
合 計				8			5	1		2	1	3		1		177		6	9	213	2330.56	

第53表 39E-Cブロック礫母岩別石器組成表

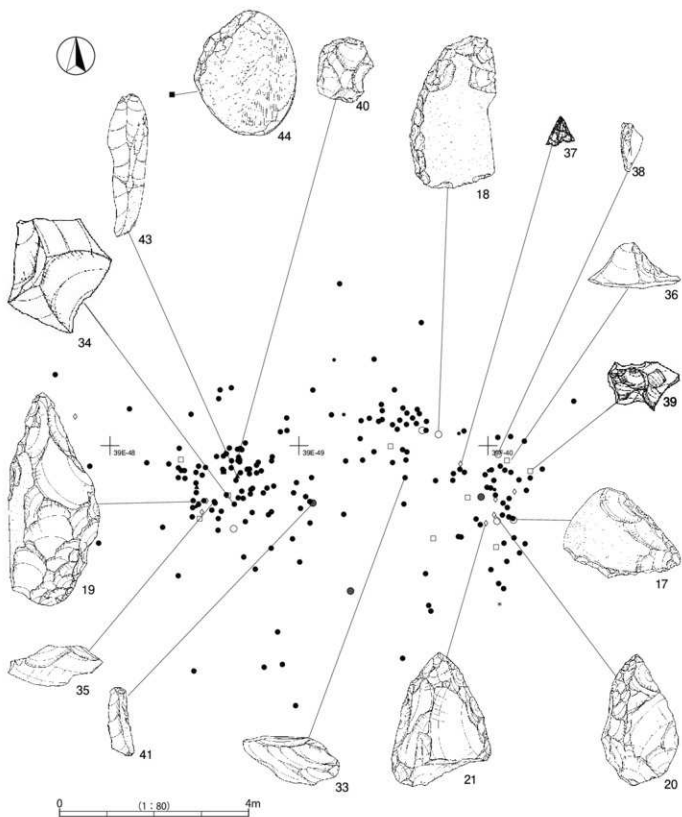
母岩番号	石材	個数	重量 (g)
39E-R-12	Sa	1	179.42
39E-R-13	Sa	1	249.41
その他	Tu	1	2.58
合 計		3	431.41

第54表 39E-Cブロック礫石材別石器組成表

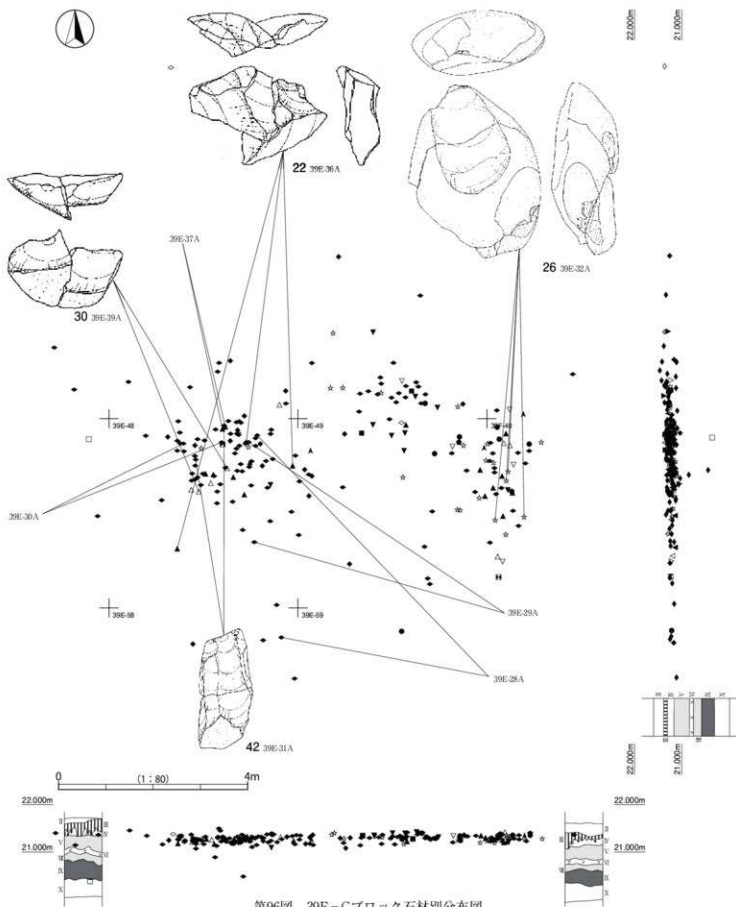
石材	石材	個数	重量 (g)
砂岩	Sa	2	428.83
凝灰岩	Tu	1	2.58
合 計		3	431.41



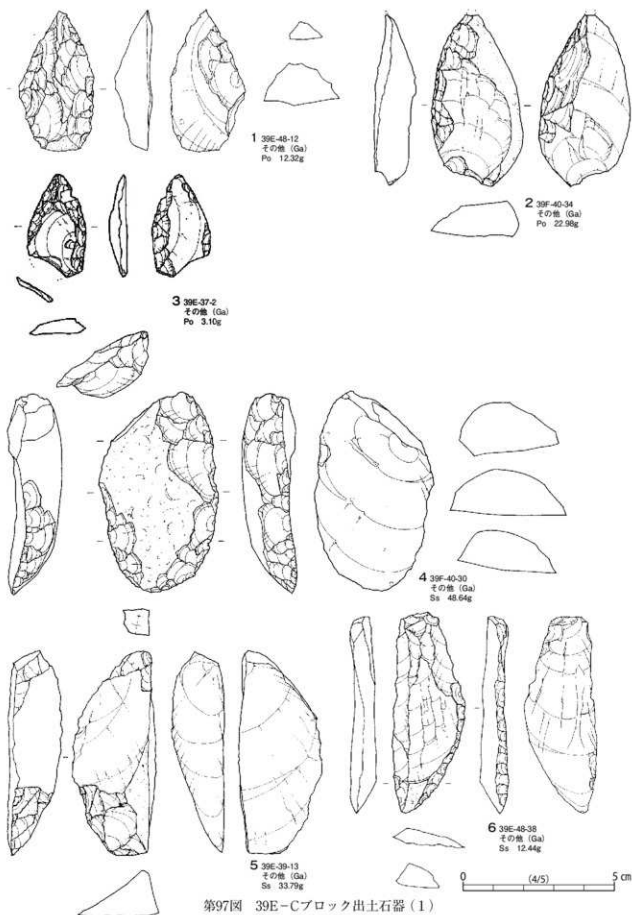
第94図 39E-Cブロック器種別分布図(1)

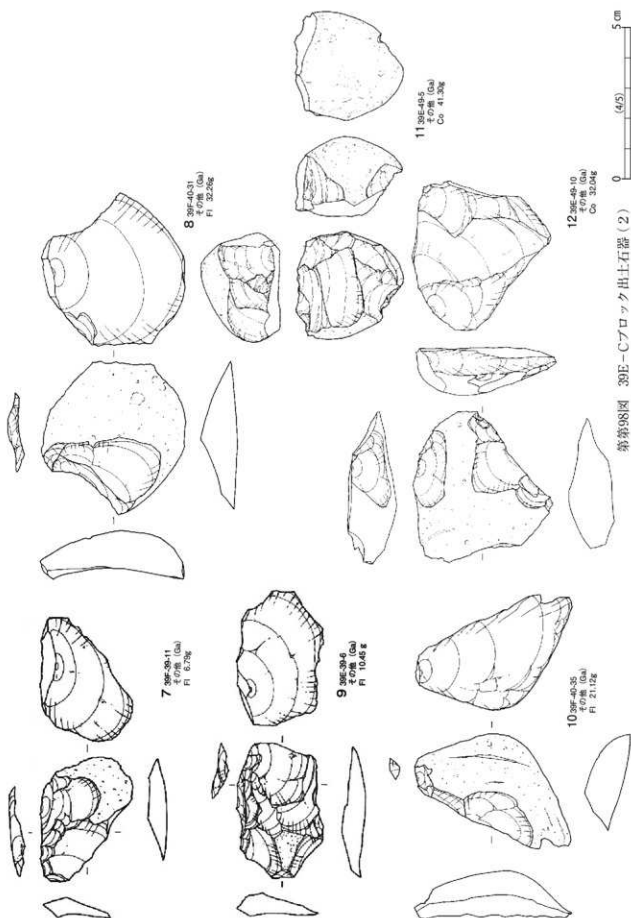


第95図 39E-Cブロック器種別分布図(2)

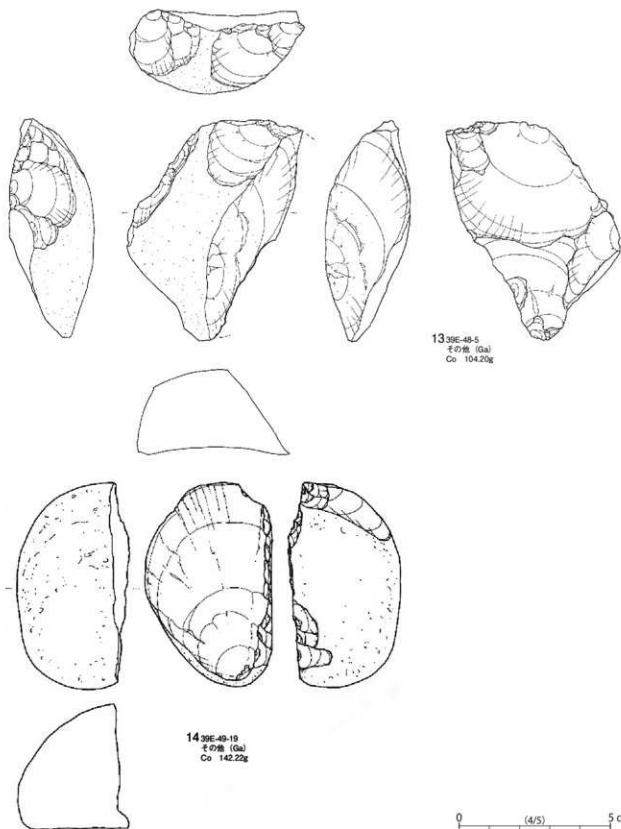


第96図 39E-Cブロック石材別分布図

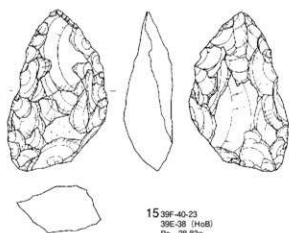




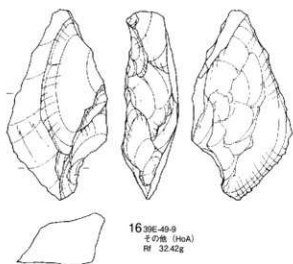
第98図 39F-Cブロッケン出土石器 (2)



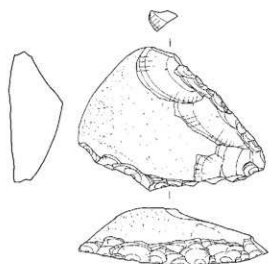
第99図 39E-Cブロック出土石器 (3)



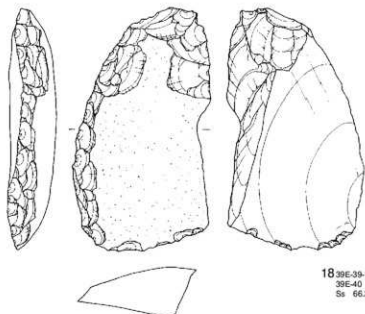
15 39F-40-23
39E-38 (HoB)
Po 28.83g



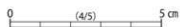
16 39E-49-9
その他 (HoA)
Rf 32.42g



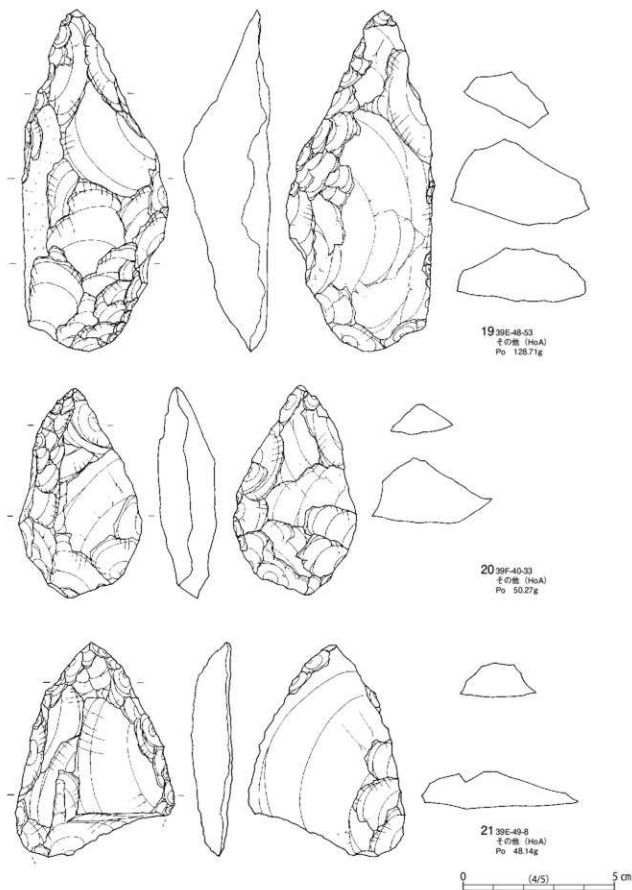
17 39F-40-21
その他 (HoA)
Sa 51.94g



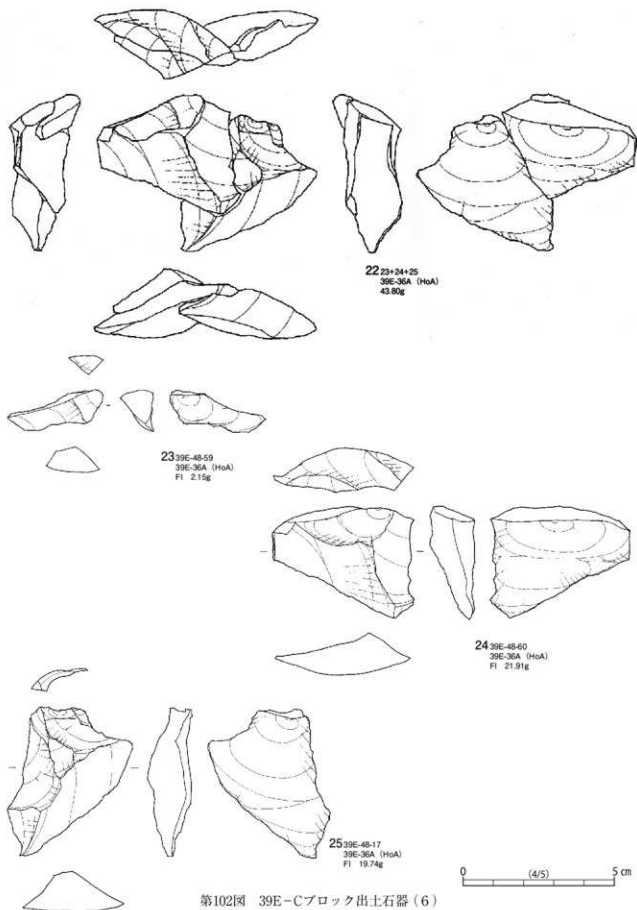
18 39E-39-14
39E-40 (HoD)
Sa 66.24g



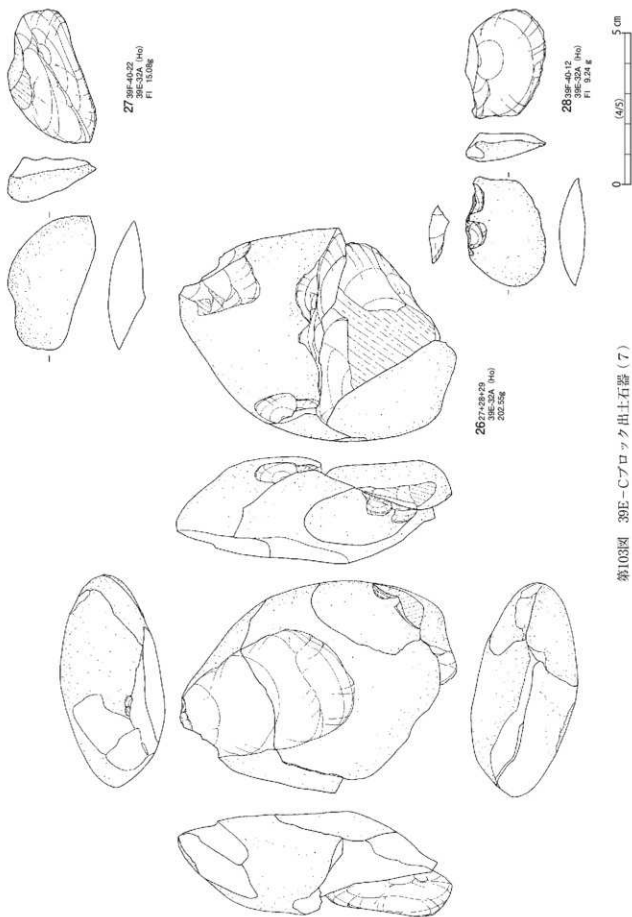
第100図 39E-Cブロック出土石器(4)



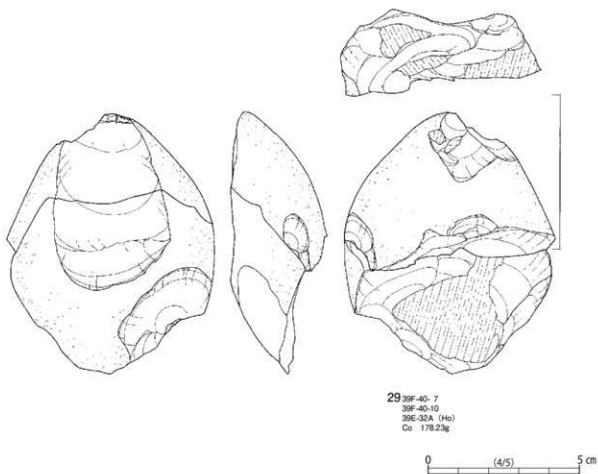
第101図 39E-Cブロック出土石器 (5)



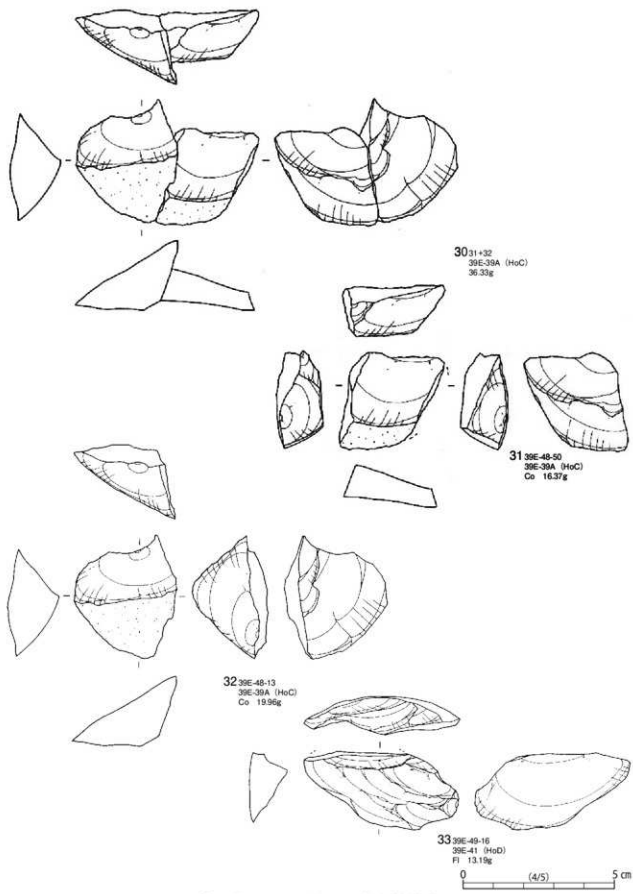
第102図 39E-Cブロック出土石器 (6)



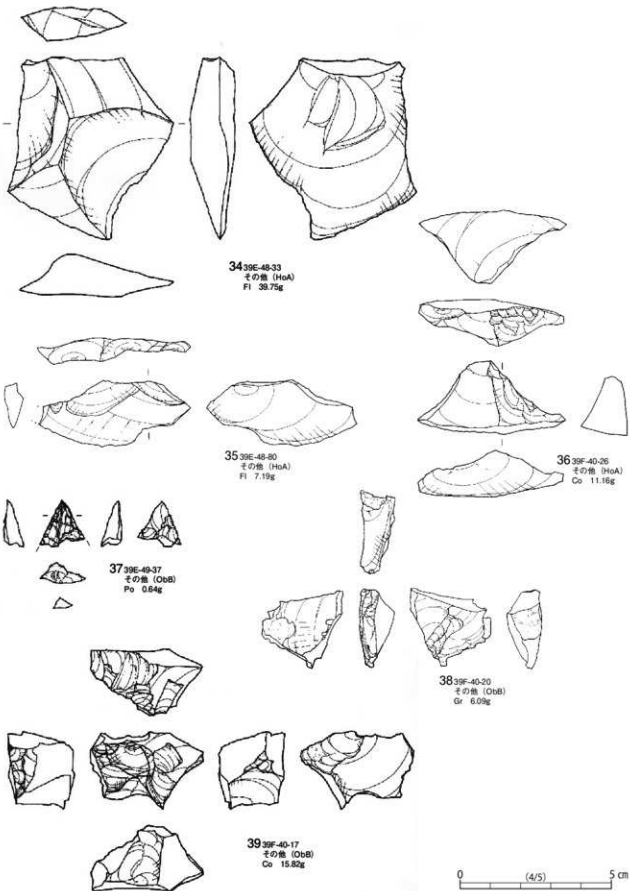
第103図 39E-Cブロック出土石器 (7)



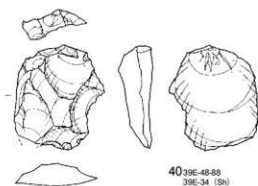
第104図 39E-Cブロック出土石器(8)



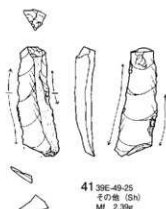
第105図 39E-Cブロック出土石器 (9)



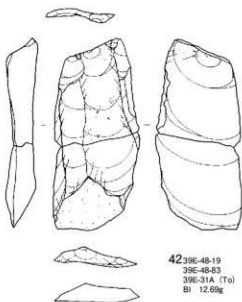
第106図 39E-Cブロック出土石器 (10)



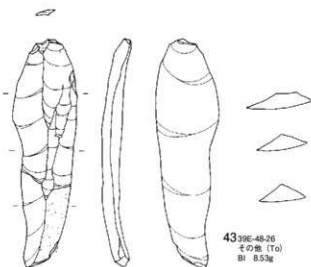
40 39E-48-88
39E-34 (Sh)
Fl 7.66g



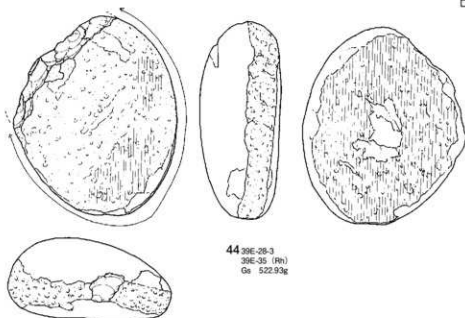
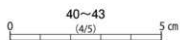
41 39E-49-25
その他 (Sh)
Mf 2.39g



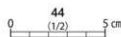
42 39E-48-19
39E-48-83
39E-31A (To)
Bl 12.69g



43 39E-48-26
その他 (To)
Bl 8.53g



44 39E-28-3
39E-35 (Rh)
Gs 522.93g



第107図 39E-Cブロック出土石器 (11)

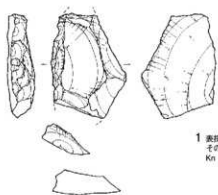
7 単独出土

単独出土の石器は、単独で出土した石器や遺構から出土した石器などである。(第108～111図、図版6・21・28)

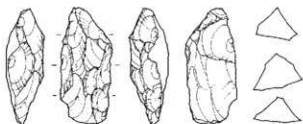
1はガラス質黒色安山岩のナイフ形石器である。横長剥片を横位に用い、左側縁に急角度で粗い調整加工を行っている。先端と末端を欠損するが、形状は一側縁加工と思われる。2はガラス質黒色安山岩の角錐状石器である。横長剥片を横位に用い、表面左側下部の一部を除いた箇所と裏面の左側縁上部に急角度で粗い調整加工を行っており、また裏面右側縁上部に左側縁に及ぶ大きな剥離痕がみられる。1・2は第3文化層に帰属すると思われる。3は信州麦草峠産黒曜石の搔器である。不定形な剥片の両側縁の下部から末端にかけて急角度の調整加工を行っている。第2文化層か第3文化層に帰属するものと思われる。4は凝灰岩の単設打面の石核から剥離された石刃である。頭部調整が顕著で、下部を欠損する。5は頁岩の単設打面の石核から剥離された石刃で、頭部調整が顕著である。裏面末端に調整加工がみられる。6は頁岩の石刃を素材とした搔器である。両端に急角度の比較的細かい調整加工を行って、刃部を作出しており、上部は直線的、下部は弧状である。通常、搔器の刃部は、素材の末端に形成されるものであるが、本資料は打面側である。右側面に下総型刃器再生技法によると思われる小石刃状の剥離痕がみられることから、上部の直線的な調整加工は打面形成のための加工とも考えられる。なお、小石刃状の剥離痕を影器の刃部作出のための加工と考えることも可能である。7は単設打面の石核から剥離された小型の石刃で裏面右側縁上部に微細な剥離痕がみられる。8は玉髄の表面に自然面を残す単設打面の石核から剥離された石刃で、表面の右側縁下部に細かい剥離痕がみられる。末端を欠損する。9は頁岩の不定形な剥片で打面再生剥片の可能性がある。4～7・9は第2文化層、8は第2文化層か第4文化層に帰属すると思われる。

10は凝灰岩の局部磨製石斧である。右側面中央部に装着痕と思われる磨耗痕がみられ、裏面の上部に研磨痕あるいは磨耗痕がみられる。単独出土であり、一括して取り上げられているため、文化層は設定できなかったが、本来、今回の報告では最古の文化層となる。

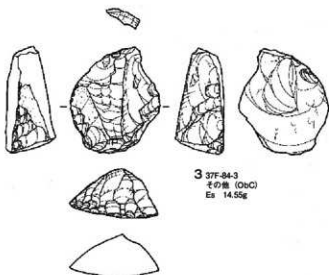
11は頁岩の石核で、剥片を素材として両端に打面を設けて、不定形な剥片を剥離している。文化層は不明である。12はホルンフェルスの石斧である。両面に自然面を残す際、両面の末端と表面の右側縁上部に調整加工を行っている。上部を欠損する。なお、この石器について、出土層位は調査時の所見や写真からⅨ層下部と判断されるが、写真では攪乱がⅨ層中から下部にまで及んでいる箇所があることや形状的には縄文時代の打製石斧の可能性もあることから、旧石器時代の遺物であるかどうかの判断は保留したい。13は凝灰岩の二次加工のある剥片で、表面に自然面を残す不定形な剥片の表面の両側縁の一部と裏面の右側縁に細かい調整加工を行っている。14は玉髄の二次加工のある剥片で、不定形な剥片の切断面に裏面から調整加工を行っている。15・16は嶺岡産珪質頁岩の不定形な剥片である。17はホルンフェルスの石核である。比較的厚みのある剥片を素材として、両面で求心的な剥離作業により、不定形な剥片を剥離している。11・13～17の文化層は不明である。



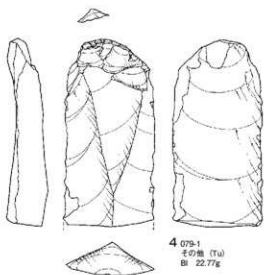
1 表群-1a (21次)
その他 (Ga)
Kn 7.25g



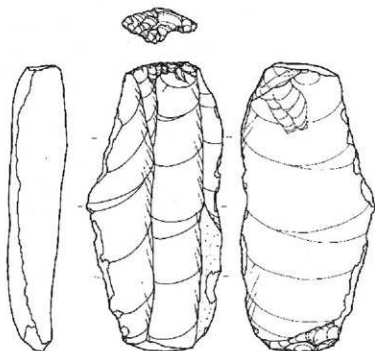
2 36F-37-1
その他 (Ga)
Kn 6.73g



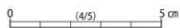
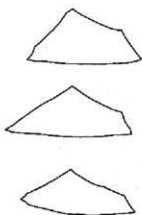
3 37F-84-3
その他 (ObC)
Es 14.55g



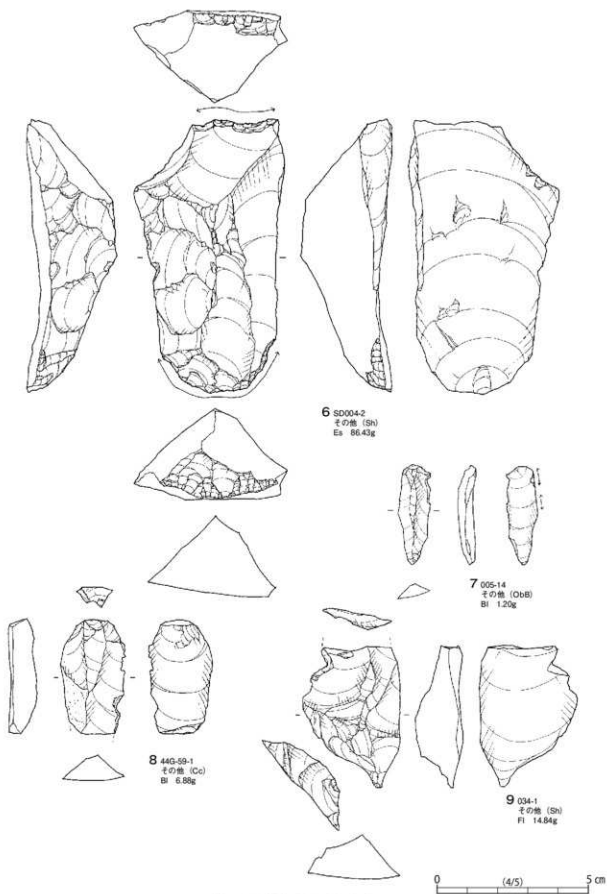
4 079-1
その他 (Tu)
Bi 22.77g



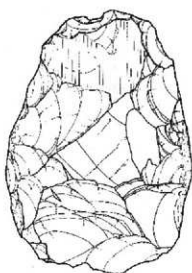
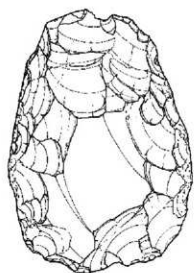
5 S0001-9
その他 (Sh)
Bi 74.01g



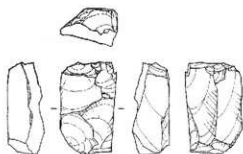
第108図 単独出土石器(1)



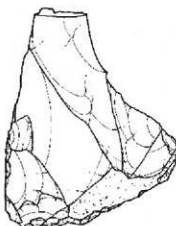
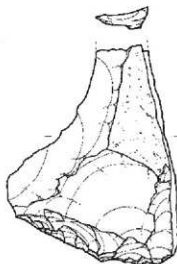
第109図 単独出土石器(2)



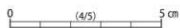
1042F-34-1
その他 (Tu)
Hc 17.03g



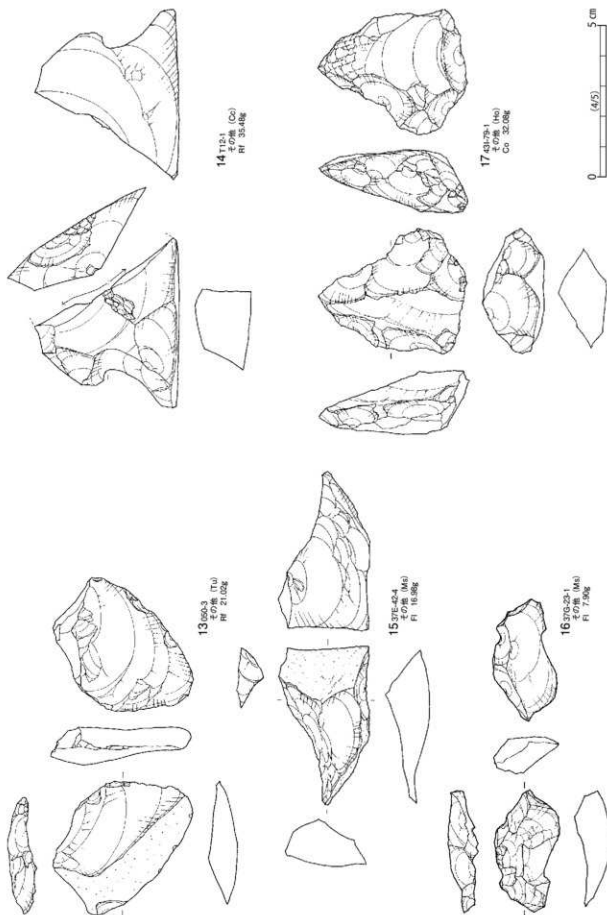
11表括-1b (21次)
その他 (Sh)
Co 7.56g



1237G-00-1
その他 (Ho)
Da 63.89g



第110図 単独出土石器 (3)



第1111図 単独出土石器 (4)

第3章 総括

文化層概要 出土層位と石器群の様相から6枚の文化層を設定した。第1・2文化層はA T下位の後期旧石器時代前半期石器群、第3～6文化層はA T上位の後半期及び土器出現期の石器群である。このうちA T上位の後半期石器群は、概ね立川ロームⅢ層を中心にV層からⅢ層にかけて包含されている。しかしながら本地域ではこれらを出土層位で区分することが難しく、特に第4～6文化層については、本遺跡においても石器群の出土層位に明らかな差は認められなかったが、石器群の様相からは時期差が認められたことから、文化層を設定した。

石器群は、遺跡のほぼ全体に分布しているが、特に北側では今回の調査では主体となるA Tを挟んで上位と下位の石器群がみつかり、第1文化層の複数のブロック群で形成される遺物集中地点や第4～6文化層などの石器群が検出されている。また、中央部では北側でもみつかり、第3文化層の石器群が多く検出されている。6枚の文化層の概要は以下のとおりである。

第1文化層 第2黒色帯中部から上部のⅨ層～Ⅶ層を中心に出土している。定形的な石器に乏しく、加工痕ある剥片や微細な剥離痕のある剥片、不定形な剥片などを主体とする石器群である。石器282点、礫12点、総計294点が出土し、2か所の集中地点で構成される。北側と南側に分布するが、北側のブロックが主体で、複数の石器集中による大規模なブロックが形成されている。

第2文化層 Ⅶ層～Ⅵ層から出土した石器群である。石器18点が出土し、3か所の集中地点で構成される。最北部に2か所と中央部西側に1か所分布している。石刃を主体とする時期ではあるが、石器群の内容的には乏しく、規模的にも小規模である。

第3文化層 V層～Ⅲ層下部から出土しており、角錐状石器などを特徴とする、いわゆるⅣ層下部の石器群である。石器302点、礫57点、総計359点が出土し、本遺跡では最も多い7か所の集中地点で構成される。北側に3か所と中央部に4か所まとまって分布している。

第4文化層 V層～Ⅲ層下部から出土しており、二側縁加工のナイフ形石器や上ゲ屋型彫器を特徴とする砂川期の石器群である。石器165点、礫6点、総計171点が出土し、4か所の集中地点で構成される。3か所は北側にまとまっているが、1か所南側に分布している。

第5文化層 Ⅲ層上部から出土しており、東内野型の有髄尖頭器を特徴とする。石器180点、礫21点、総計201点が出土し、1か所の集中地点で構成される。第4文化層の39E-Aブロックと重複しており、北側に分布している。

第6文化層 Ⅲ層上部から出土しており、比較的大型の尖頭器を特徴とする土器出現期の石器群である。石器213点、礫3点、総計216点が出土し、1か所の集中地点で構成される。第4文化層の39E-Dブロックと重複しており、北側に分布している。

単独出土 トレンチや縄文時代以降の遺構などから出土した旧石器時代の石器やグリッド単独で出土した石器で、総計26点が出土している。石斧など第1文化層よりも古い時期の石器があり、厳密にはこれらの資料が前平井遺跡最古の石器である。

写 真 图 版



前平井遺跡周辺航空写真（国土地理院 CKT792-C11B-37_昭和54年10月撮影）



第1・4～6文化層遺物出土状況 (俯瞰)



土層断面、第1文化層遺物出土状況 (1)



第1文化層遺物出土状況(2)、第2文化層遺物出土状況、
第3文化層遺物出土状況(1)



第3文化層遺物出土状況 (2)、第4～6文化層遺物出土状況 (1)



第4～6文化層遺物出土状況(2)、単独出土状況



第1文化層出土遺物 (1)



第1文化層出土遺物 (2)



第1文化層出土遺物 (3)



第1文化層出土遺物 (4)



第2文化層出土遺物、第3文化層出土遺物（1）



第3文化層出土遺物（2）



第3文化層出土遺物(3)



第4文化層出土遺物（1）



第4文化層出土遺物（2）



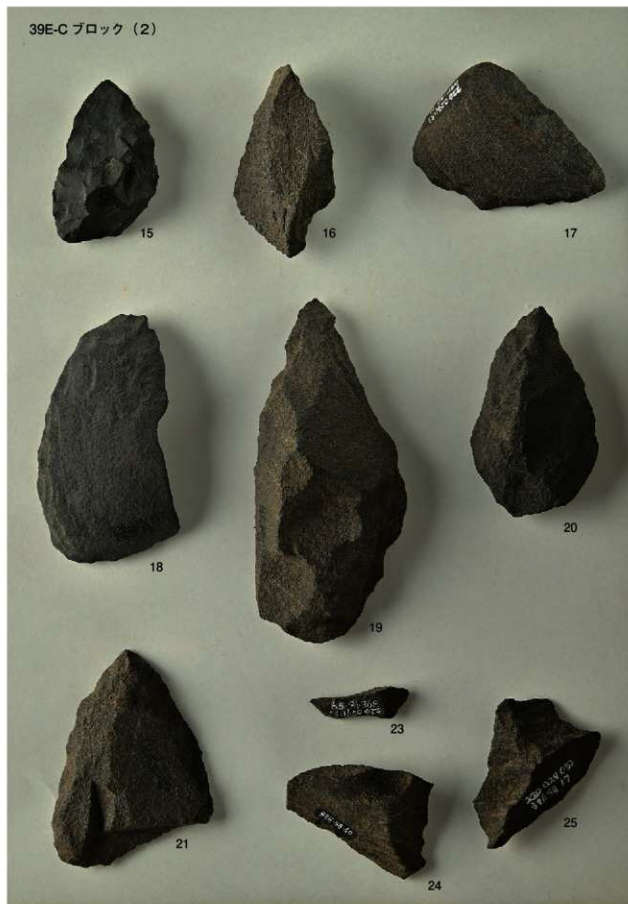
第4文化層出土遺物（3）



第5文化層出土遺物



第6文化層出土遺物 (1)



第6文化層出土遺物 (2)



第6文化層出土遺物 (3)



单独出土遗物



第1文化層出土接合資料



第3～6文化層出土接合資料

38E-A ブロック (1)



38E-A ブロック (2)



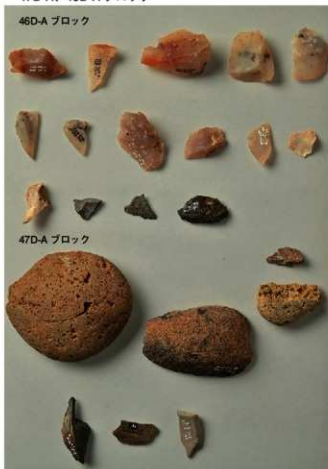
38E-A ブロック (3)



38E-A ブロック (4)



47D-A、46D-A ブロック



37G-A、37F-A、41E-A、42G-A、40E-A・C ブロック



43E-B ブロック (1)



43E-B ブロック (2)



43F-A、44E-A ブロック



39E-A、39E-D ブロック



39E-B ブロック (1)



38E-B ブロック (3)



39E-B ブロック (2)



39E-C ブロック (1)



39E-Cブロック (2)



単独出土



39E-Cブロック (3)



報告書抄録

ふ り が な				ながれやまうんどうこうえんしゅうへんちくまいぞうぶんかざいちようさほうこくしょ11					
書		名		流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書11					
副 書		名		流山市前平井遺跡(旧石器時代編)					
席		次		11					
シ リ ー ズ		名		千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告					
シ リ ー ズ 番 号				第58集					
編 著 者 名				田島 新					
編 集 機 関				千葉県教育委員会					
所 在 地				〒260-8662 千葉県千葉市中央区市場町1-1 TEL043-223-4129					
発 行 年 月 日				西暦2025年3月10日					
所収遺跡名	所 在 地		コ ー ド 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
まへびら井遺跡 前平井遺跡	ながれやまうんどうこうえんしゅうへんちくまいぞうぶんかざいちようさほうこくしょ11		12220	029	35度 51分 27秒	139度 54分 43秒	19980212～ 20201216	67,929㎡	土地区画整理 事業
					日本測地系				
所収遺跡名	種別	主な時代	主 な 遺 構			主 な 遺 物		特 記 事 項	
前平井遺跡 (旧石器時代)	包蔵地	旧石器時代	遺物集中地点 18か所 第1文化層 2か所 第2文化層 3か所 第3文化層 7か所 第4文化層 4か所 第5文化層 1か所 第6文化層 1か所			ナイフ形石器、尖頭器、角錐状石器、挿器、削器、彫器、楔形石器、二次加工のある剥片、微細剥離痕のある剥片、石刃、石斧、叩石、剥片、削片、砕片、石核、原石		AT降灰以前の複数のブロック群を伴う石器群、AT降灰後の角錐状石器、ナイフ形石器、尖頭器等を伴う石器群が出土した。	
要 約	第2黒色帯下部(Ⅳ層)からソフトローム(Ⅲ層)上部にかけて遺物集中地点が18か所検出され、6枚の文化層などを確認した。第1文化層では複数の石器集中による大規模なブロック、第4文化層では砂川期に特徴的な玉髄装の上ヶ屋型彫器を伴う石器群、第5文化層では東内野型尖頭器を伴う石器群、第6文化層では土器出現期の尖頭器石器群が見つかっている。								

千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告第58集

流山運動公園周辺地区埋蔵文化財調査報告書11

— 流山市前平井遺跡（旧石器時代編） —

令和7年3月10日発行

編集・発行

千葉県教育委員会

千葉県中央区市場町1-1

印刷

三陽メディア株式会社

千葉県中央区浜野町1397
